

# 大阪府立大学看護学部年報

## 2013年度



2014年  
第9卷

# はじめに

看護学部は、質の高い看護職の育成という現在医療界の喫緊の課題を果たすべく、地域保健学域 看護学類に移行し、平成 24 年度入学生から看護学類の新カリキュラムの教育を開始いたしました。

平成 25 年度当初に看護学部(看護学類)および看護学研究科の課題として取り上げたものは以下の通りです。

## 1. 看護学部（看護学類）・看護学研究科

- 1) 教員組織の検討
- 2) 大阪市立大学との統合に向けた新看護学部・看護学研究科（案）の検討

## 2. 看護学部（看護学類）

- 1) 保健師助産師看護師学校等指定規則改正に伴う新カリキュラム教育の実施
- 2) 養護教諭教育の実施と実習準備
- 3) 入試広報活動の推進
- 4) 大阪府立病院機構との連携推進
- 5) ピア授業参観の実施

## 3. 看護学研究科

- 1) 精神看護学分野の専門看護師教育課程（CNS）38 単位への申請
- 2) 「がんプロフェッショナル育成プロジェクト」（平成 24 年度～28 年度）の推進
- 3) 国際交流の推進
  - ・タイ王国 マヒドン大学 Exchange Program
  - ・アメリカ合衆国 オregonヘルスサイエンス大学との学術交流協定の締結

これらの課題は、各委員会・ワーキンググループ等の活動によりほぼ達成できました。大学全体の組織が大きく変化する中で看護学研究科として教育・研究を通して社会に貢献し続けるためには、自己点検・評価に基づきPDCAサイクルを回し、更に質の高い教育・研究を提供できるように改善していくことが求められております。

年報作成にあたっては看護学部（看護学類）・看護学研究科の歩みをふり振り返り、データに基づき客観的にまとめる努力をいたしました。労の多い編集作業を担った看護学部（看護学類）評価・企画実施委員会委員等担当者に心から感謝申し上げます。

平成 26 年 3 月 31 日

大阪府立大学 看護学部（看護学類）

学部長・研究科長 高見沢 恵美子

# 目 次

はじめに

第1章	目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
第2章	教育研究組織・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	3
第3章	教育研究組織の実施体制・・・・・・・・・・・・・・・・	6
第4章	学生の受け入れ・・・・・・・・・・・・・・・・	32
第5章	教育内容及び方法・・・・・・・・・・・・・・・・	37
第6章	学生支援・・・・・・・・・・・・・・・・	47
第7章	教育の成果と教育の質の向上及び改善のためのシステム・・・・・・・・	50
第8章	研究活動・・・・・・・・・・・・・・・・	53
第9章	社会貢献と国際交流・・・・・・・・・・・・・・・・	58
資料	大阪府立大学看護学部（看護学類）教員業績一覧・・・・・・・・	65

編集後記

## 第1章 目的

### 1. 学士課程

看護学部(看護学類)の教育目的は、「生命の尊重と個人の尊厳を基盤とし、豊かな人間性を形成するとともに、科学的専門知識・技術を教授し、看護を総合的な視野で捉えられる人材を育成する。」であり、「①人間の痛み、苦しみを分かち合え、幅広い教養を身につけ、生命の尊厳について深く理解し、行動できる豊かな人間性を養う。②看護に必要な知識と技術を修得し、科学的根拠に基づく適切な判断と問題解決能力とあわせ、社会の変化や医療技術の発展に対応できる能力を養う。③保健・医療・福祉・教育・地域においてヒューマンサービスを提供する人々と連携し、看護の実践と調整的な機能を果たす能力を養う。④変化する社会の中で看護の役割を展望し、発展させ、地域的・国際的な視野で貢献できる能力を養う。⑤看護学への関心を深め、総合的な視野と看護研究の基礎能力を養う。」ことを、教育目標としている。

以上の目的は、大阪府立大学看護学部規程に「教育目的」として定められている(規程第54号第2条 [http://www.osakafu-u.ac.jp/info/about/kitei/reiki\\_honbun/ax94000931.html](http://www.osakafu-u.ac.jp/info/about/kitei/reiki_honbun/ax94000931.html))。更に教育目標は、履修要項およびホームページと看護学類案内に示し、学内外に広く周知されている。

特に看護学類の新入生を対象としたガイダンスにおいては、教務委員長より教育目的、教育目標について説明を行うとともに、履修要項や学類案内の冒頭部分に掲載することで、より意識づけがされるよう配慮している。また、受験希望者には学類案内を送付すると共に、オープンキャンパスや入試ガイダンスの参加者に説明を行い、広く社会に公表している。

更に新たに採用した教員には、看護学部長(学類長)からのオリエンテーションの際に、本学部(学類)の教育目的、教育目標について説明を受ける機会が設けられている。

### 2. 大学院課程

看護学研究科の教育理念は、「生命と人権の尊重を基盤とし、保健・医療・福祉及び社会の諸変化に対してクオリティ・オブ・ライフ(QOL)を志向した創造的・実践的な対応ができる専門的知識と技術をもった人材を育成し、看護学の発展と人々の健康に寄与する。」である。

博士前期課程では、「人間の存在と生命の尊厳について深く理解し、広い視野に立って精深なる学識を修め、専門分野における教育研究能力、あるいは高度に専門的な看護実践能力を有する人材を育成する。」を目的とし、「①専攻する看護専門領域に関連する理論に精通し、看護活動に適用する。②専攻する専門領域の看護実践の質の向上を目指して、専門性の高い看護ケアを提供し、改革を推進する。③高い倫理観を持ち、複雑な倫理的問題を判断し調整する。④看護に関する研究業績をクリティカルに検討し、看護ケアに積極的に活用する。⑤看護教育並びに看護実践の向上のために、相談・教育・調整機能を高める。⑥専攻する看護専門領域に関する研究課題に取り組み、看護研究能力を高める。⑦看護実践・研究・教育を通して国際交流に貢献する。」ことを目標としている。

博士後期課程では、「豊かな学識を有し、看護学分野において学術研究を推進しその深奥を極め、自立して研究活動を行うことのできる能力を有する人材を育成する。」を目的とし、「①看護実践の改革を目指し、専門性の高い看護ケアを開発する。②理論や看護援助方法の妥当性を科学的に検証する。③優れた看護実践、関連領域の知識・研究を用いて、研究活動を行い、看護学の発展に寄与する。④教育、医療、研究、行政関連機関において、社会の変革に対応できる指導的・管理的リーダーシップを発揮する。⑤都道府県や国家レベルの政策開発や意思

決定に参画する。⑥学際的、国際的な視野に立ち、学術交流、研究活動、保健医療活動に貢献する。」ことを目標にしている。

看護学研究科の目的は、大阪府立大学大学院看護学研究科規程に示されている（規程第 61 号第 2 条 [http://www.osakafu-u.ac.jp/info/about/kitei/reiki\\_honbun/ax94001001.html](http://www.osakafu-u.ac.jp/info/about/kitei/reiki_honbun/ax94001001.html)）。さらに、「教育理念」および「博士前期課程教育目的・教育目標」、「博士後期課程教育目的・教育目標」は履修要項およびホームページと看護学研究科案内など学内外に広く周知されている。

特に研究科の新入生を対象としたガイダンスにおいては、看護学研究科長より教育目的、教育目標について説明を行うと共に、履修要項や研究科案内の冒頭部分に掲載することで、より意識づけがされるよう配慮している。

また、受験希望者には研究科案内を送付すると共に、受験前の指導教授との面談において説明を行うなど、看護学研究科の目的を、広く社会に公表している。

## 第2章 教育研究組織

### 1. 領域・分野と教員組織

#### 1) 学士課程の教員組織

看護学部（看護学類）の教育目的に基づき、学士課程は学則に則って遂行され（規程第 47 号第 1～42 条 [http://www.osakafu-u.ac.jp/info/about/kitei/reiki\\_honbun/ax94000031.html](http://www.osakafu-u.ac.jp/info/about/kitei/reiki_honbun/ax94000031.html)）、教員は大学設置基準第 12～13 条に基づき確保している。平成 25 年 10 月 1 日現在、専任教員数 56 名（教授 16 名、准教授 15 名、講師 5 名、助教 20 名）で教育課程を遂行している。教員数、教員配置については、ホームページ上で公表している。

教員組織は看護学部（看護学類）の教育目的に則り、教育課程として共通教育科目（教養科目・基盤科目）、専門支持科目（専門基礎科目）、専門科目という3区分からなる。教員組織は、健康科学、人・環境支援（基礎）看護学、家族支援看護学、生活支援看護学、療養支援看護学の5領域となっており、各領域に教授、准教授、講師及び助教を配置している。教員間の組織的な連携体制は、各領域に主任教授がおかれ、領域内および領域間の調整が行われる。教育に係わる責任者は、授業科目毎の担当者が教務委員会、教授会議を経て毎年度決定され、シラバスに明示している。

上記のように教員組織は5領域で構成され、教育研究を推進している。各領域の教育課程上の担当分野は次の通りである。「健康科学領域」では、教養科目と専門支持科目（専門基礎科目）を担当している。「人・環境支援（基礎）看護学領域」では、看護・看護学とは何かについて看護を受ける「人」、その人をめぐる「環境」、看護の目的である「健康」の視点から理解するとともに、基礎的な看護技術を身につけ、統合された存在である人に対して、看護独自の機能を発揮するための基本となる知識と技術を習得する。「家族支援看護学領域」では、親子、家族関係、家族のライフスタイルおよび家族発達に応じた支援と健康問題への援助に必要な基本的知識と技術を学習する。「生活支援看護学領域」では、保健・医療・福祉環境の変化に対応し、地域で生活する人々の健康を支援する知識・技術を学習する。「療養支援看護学領域」では、健康上の問題を有する成人期の人々へのケアについて、看護理論を基盤に、クオリティ・オブ・ライフ(QOL)の向上を目指した健康回復、健康維持あるいは終末期を安らかに生きるための援助を行う知識と技術・態度を習得する。

看護学部（看護学類）の教員は、専門性に基づき各領域に配置されて教育にあたっており、各々が研究から培った能力を発揮するように構成されている。したがって、学士課程における教育研究の目的を達成する上で適切なものとなっている。

#### 2) 大学院課程の教員組織

看護学研究科においては、大学院設置基準第 9 条および大阪府立大学学位規程（規程第 63 号第 8 条 [http://www.osakafu-u.ac.jp/info/about/kitei/reiki\\_honbun/ax94001501.html](http://www.osakafu-u.ac.jp/info/about/kitei/reiki_honbun/ax94001501.html)）に基づき、博士前期課程は 34 名、博士後期課程は 25 名の研究指導教員をそれぞれ確保している。なお大学院担当教員は、大学院看護学研究科のホームページ等で公表している。

看護学研究科では、多様化、複雑化、高度化する社会環境の中で、生命と人権の尊重を基盤として、看護に求められる社会的使命を遂行し、看護学を創造的・実践的に発展させ、国際社会及び地域社会のあらゆる健康レベルの人々に貢献できる看護分野の高度な実践者、管理者、研究者、教育者を育成するという大学院設置の趣旨・目的に基づいて、幅広い看護の領域をカバーできるように専攻を構成している。教育課程は基盤教育と専門教育で構成されている。

博士前期課程では、「人・環境支援看護学領域」は看護技術学・看護情報学・看護管理学・看護教育学の4分野、

「家族支援看護学領域」は母性看護学・小児看護学・家族看護学の3分野、「生活支援看護学領域」は地域看護学・在宅看護学・老年看護学・精神看護学の4分野、「療養支援看護学領域」は急性看護学・慢性看護学・がん看護学・感染看護学の4分野の合計15分野から構成されている。上記の15分野にはそれぞれ修士論文コースがあり、そのうち11分野は専門看護師（CNS）コースを開設している。

博士後期課程は、「生活支援看護学領域」と「療養支援看護学領域」の2領域で構成されている。「生活支援看護学領域」は看護技術・情報学分野、看護管理・教育学分野、地域・精神看護学分野、在宅・老年看護学分野、母子健康看護学分野、家族健康看護学分野の6分野、「療養支援看護学領域」は急性療養看護学分野、慢性療養看護学分野、がん療養看護学分野、感染療養看護学分野の4分野から構成されている。

### 3) 教員の採用

大学の設置目的及び教育理念に基づき、教員の任期制、公募制及び外国人の兼任教員の確保が導入されており、教員組織の活動をより活性化するために、多様で透明性を確保した教員採用の措置をとっている。

看護学部（看護学類）教員の性別構成、年齢構成は、資料2-1-3に示すとおりである。看護学部（看護学類）では、外国人教員を兼任教員（外国語）として確保し、採用している。教員の採用に関しては任期制及び公募制を導入している。本学教員の任期に関する規程に基づき、任期制は助教の採用に適用し、任期は5年としている（規程第14号第2条 [http://www.osakafu-u.ac.jp/info/about/kitei/reiki\\_honbun/ax94000411.html](http://www.osakafu-u.ac.jp/info/about/kitei/reiki_honbun/ax94000411.html)）。

公募制は、本学教員人事規程に基づき、全教員の採用に適用している（規程第15号第3条 [http://www.osakafu-u.ac.jp/info/about/kitei/reiki\\_honbun/ax94000381.html](http://www.osakafu-u.ac.jp/info/about/kitei/reiki_honbun/ax94000381.html)）。公募方法は資格、経験年数等の条件を明示し、本学ホームページ、研究者・人材データベース JRECIN を活用している。

資料2-1-3 平成25年度看護学部（看護学類）教員 性別・年齢構成

平成25年10月1日現在

領域 構成		健康科学	人・環境支援 (基礎)看護学	家族支援 看護学	生活支援 看護学	療養支援 看護学	合計
		教員数	1	12	12	16	15
性別(名)	女性	0	11	11	16	12	50
	男性	1	1	1	0	3	6
平均年齢 (歳)	教授	64.0	52.1	54.3	56.3	54.0	56.1
	准教授	—	42.0	47.8	49.3	51.2	47.6
	講師	—	47.0	44.0	38.3	—	43.1
	助教	—	33.2	36.8	38.8	42.2	37.8

教員の採用に関する事項は、本学教授会議規程に基づき、教授会議で審議し（規程第62号第3条4項 [http://www.osakafu-u.ac.jp/info/about/kitei/reiki\\_honbun/ax94000111.html](http://www.osakafu-u.ac.jp/info/about/kitei/reiki_honbun/ax94000111.html)）、本学人事委員会規程に基づき（規程第99号第1条 [http://www.osakafu-u.ac.jp/info/about/kitei/reiki\\_honbun/ax94000151.html](http://www.osakafu-u.ac.jp/info/about/kitei/reiki_honbun/ax94000151.html)）人事委員会で審議する。教育研究上の指導能力について審査を行い、本学教員選考基準により教員を選考している。具体的には、履歴書、教育研究業績書、主要な著書または論文、および採用後の専門分野の研究と教育に対する方針等の書類審査、面接・プレゼンテーションにより評価する。平成25年度は、助教1名の新規採用および講師3名、助教3名の内部昇任を選考した。また、任期制による任期満了助教の任期満了に伴う更新審査を行い、任期更新を希望した助教1名を審査し任期を更新した。

#### 4) 教育支援者

大阪府立大学羽曳野キャンパスでは、看護学部（看護学類）、看護学研究科と総合リハビリテーション学部（総合リハビリテーション学類）、総合リハビリテーション学研究科を設置し、専任教員を看護学部（看護学類）、看護学研究科に56人、総合リハビリテーション学部（総合リハビリテーション学類）、総合リハビリテーション学研究科に39人配置している。これら2学部、2研究科の事務をつかさどるために、総務・会計・入試・学生・教務・図書業務等を担当する事務職員12人、契約職員18人、非常勤職員若干名を配置している。

なお、平成17年度からの3大学統合、再編、法人化に伴い分離している羽曳野キャンパスの事務のうち一元的に処理することが適当な業務については、法人本部に集約して事務の効率化を図っている。

ティーチングアシスタント（TA）については研究科会議の承認を得て、適宜活用を図っている。平成25年度のTA採用人数は延べ21名、総時間は362時間であった。

また、平成21年度より教員支援者として看護学部（看護学類）教員を支援する非常勤事務職員1名が配置された。教材用資料複写、書類作成等の補助業務を行っている。

## 2. 附属組織・センター

看護学研究科は、療養学習支援センターを有するが、これは療養学習支援に関する研究・教育・実践を推進するとともに、その成果を地域に還元し看護の質の向上に寄与するという趣旨に基づき、平成17年から附置された。療養学習支援センターの設置趣旨および業務等は、大阪府立大学大学院看護学研究科療養学習支援センター規程（規程第21号 [http://www.osakafu-u.ac.jp/info/about/kitei/reiki\\_honbun/ax94001711.html](http://www.osakafu-u.ac.jp/info/about/kitei/reiki_honbun/ax94001711.html)）に明示している。療養学習支援センターは、円滑な運営を図るため、大阪府立大学大学院看護学研究科療養学習支援センター運営委員会を設置している。運営委員会は大阪府立大学大学院看護学研究科療養学習支援センター運営委員会規程（規程第22号 [http://www.osakafu-u.ac.jp/info/about/kitei/reiki\\_honbun/ax94001721.html](http://www.osakafu-u.ac.jp/info/about/kitei/reiki_honbun/ax94001721.html)）に基づき、6名の運営委員で組織されている。センターの主な事業は、地域住民および医療機関の利用者を対象に各種の療養学習支援活動および健康相談活動、療養学習支援に関する研究活動、療養学習支援に関する学術交流活動である。



### 第3章 教育研究組織の実施体制

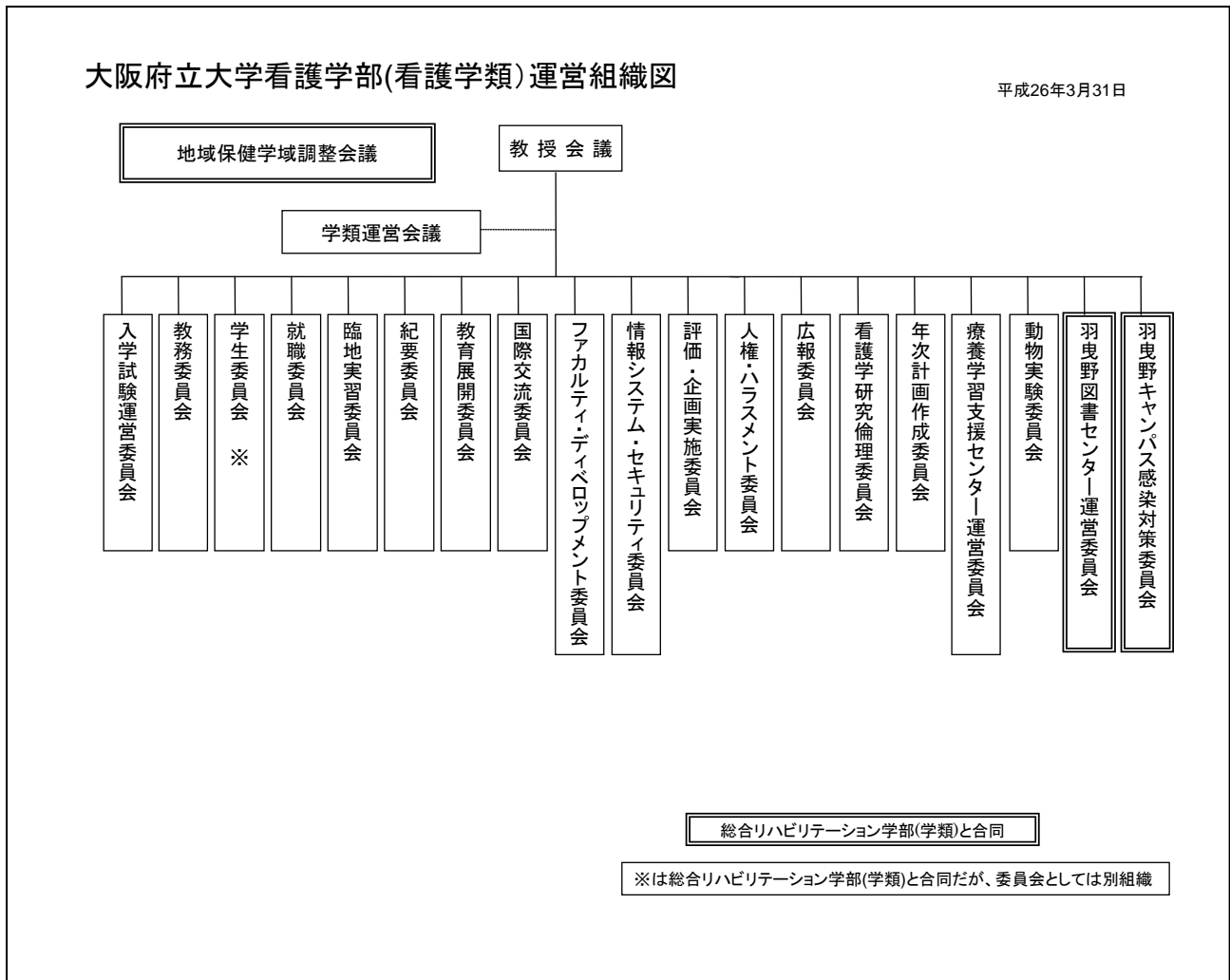
#### 1. 運営組織

教育活動に係る重要事項を審議するために、教授会議を最高意思決定機関と位置づけ、その下に教育活動に係る重要事項を審議するための委員会を設置している。各委員会は定期的に会議を開催し、それぞれの分掌事項を効率的に検討し、円滑に審議を進めている。

教授会議は、教育課程の編成に関する事項、学生の入学、卒業又は課程の修了、その他学生の在籍に関する事項及び学位の授与に関する事項、学生の支援及びその身分に関する事項、教員人事に関する事項、教育又は研究に関する重要事項について審議する。教授会議の下に教務委員会、臨地実習委員会、学生委員会等を設け、教育活動が円滑に行われるための必要な活動を行っている。資料3-1は看護学部（看護学類）の運営組織図である。

教務委員会、臨地実習委員会、学生委員会等は毎月1回の定例の会議を開催している。特に、教務委員会では、教育課程に関すること、履修に関する規程の制定及び改廃に関すること、教育の実施及び運営に関することなどについて検討し、臨地実習委員会では、教育の中の臨地実習の運営に関する事項を中心に検討し、その検討結果は教授会議で報告し、重要事項については更に教授会議で審議し、決定している。

資料3-1 看護学部（看護学類）運営組織図



## 2. 委員会活動

委員会名	学類運営会議
目的	運営会議は、次の各号に掲げる事項を協議・調整するものとする。 (1) 教員の教育、研究、社会貢献、学類運営における活動に関すること (2) 予算の管理に関すること (3) 各領域間の調整に関すること (4) その他領域の運営に関すること
構成員	高見沢学類長（委員長）、上野教授、杉本教授、高辻教授、田中教授、檜木野教授
活動概要	<p>1. 開催状況  定例会議：11回（毎月1回、8月度は除く）  臨時会議：5回（7/4、7/25、8/16、2/27、3/12）  メール会議：4回（10/18、11/14、12/5、12/8）</p> <p>2. 検討事項  (1) 学類運営会議規定に基づき、教授会議、研究科委員会の検討事項のうち、事前検討の調整が必要なものについて検討した。  〈役割の担当〉  ・人事：高見沢、上野、高辻、田中  ・予算：杉本、檜木野  ・施設・設備および学生関係：高辻、上野</p> <p>(2) 平成25年度は通常の人事管理、予算管理以外に、助教の内部昇任、大阪府市新大学構想会議の「新大学構想〈提言〉(案)」についての看護学類としての意見の取りまとめ、看護学研究科博士前期・後期の教育課程、看護学研究科の臨床実習指導教授等の称号付与、看護学部臨床実習指導講師等の称号付与、教員業績評価の評価指標などを検討し、実施した。</p>
来年度の課題	<p>1. 府立大学全体の方針に基づきながら、看護学類の教育課程、運用上の問題を解決する。</p> <p>2. 大学統合検討部会および新大学推進会議等に対し、看護学類および看護学研究科の案を検討し、提案する。</p>

委員会名	入学試験運営委員会
目的	<p>委員会は、次に掲げる事項について審議する。</p> <p>(1) 入学試験に関する企画に関すること</p> <p>(2) 入学試験の適正かつ円滑な実施に関すること</p> <p>(3) 入学試験のあり方に関すること</p> <p>(4) 入学試験の出題及び採点に関すること</p>
構成員	<p>高見沢学類長（委員長）、階堂教授（副委員長）、上野教授、高辻教授、籠持教授、町浦教授、和泉准教授、木村准教授、高橋准教授、中岡准教授、藪下准教授</p> <p>玉利事務所長（羽曳野キャンパス事務所）</p>
活動概要	<p>1. 委員会の開催</p> <p>1) 看護学類入学試験運営委員会（定例11回、臨時5回）</p> <p>2) 全学入学試験運営委員会 5回</p> <p>2. 入試の実施状況</p> <p>1) 看護学研究科</p> <p>(1) 博士前期課程（8月17日、第2次募集：2014年2月1日）</p> <p>(2) 博士後期課程（8月18日、第2次募集：2014年2月1日）</p> <p>2) 看護学類</p> <p>(1) 特別選抜：2年次編入学試験（8月18日）、推薦入学試験（11月16日） 外国人留学生特別選抜（2014年2月25日、実施なし）</p> <p>(2) 一般選抜：前期日程試験（2014年2月25日）、後期日程試験（2014年3月12日）</p> <p>3) 大学入試センター試験（2014年1月18日、1月19日）</p> <p>3. オープンキャンパス（8月3日、8月4日：参加者1,283名）</p> <p>4. 入試ガイダンス（10月27日、総計93名）</p> <p>5. 入試説明会等</p> <p>1) 来校した高校への説明会（大学体験）：2件</p> <p>2) 高校訪問：21件</p> <p>3) 大学説明会等：13件</p>
来年度の課題	<p>1. 入学試験全般について</p> <p>1) 入試運営の整備・見直し</p> <p>2) 入試実施要領の整備・統一</p> <p>3) 学類教員の業務平準化に向けての努力</p> <p>2. 入学生の確保について</p> <p>1) 広報、高校訪問、オープンキャンパスなどの継続と改善（オープンキャンパスは広報委員会の応援を得て実施する）、大学院進学のための説明会開催を検討</p> <p>2) 大阪市立大学との統合問題（府立大学として独自に募集することが決定しているのは高校2年生以上であること）</p> <p>3. 事務体制の強化要望</p>

委員会名	教務委員会
目的	<p>委員会は、次に掲げる事項について審議する。</p> <p>(1) 教育課程に関すること</p> <p>(2) 履修に関する規程の制定及び改廃に関すること</p> <p>(3) 教育の実施及び運営に関すること</p>
構成員	上野教授（委員長）、高辻教授、檜木野教授、細田教授、石田准教授、佐藤准教授、中嶋准教授、別宮講師、撫養講師
活動概要	<p>平成 25 年度は 11 回の教務委員会及び 2 回の臨時教務委員会、8 回の臨時の持ち回り委員会を開催した。</p> <p>委員会では下記の内容について重点的に活動した。</p> <p>1. 新入生履修説明会、個別指導</p> <p>平成 24 年度入学生から地域保健学域看護学類への入学であり、教職（養護教諭 I 種）、保健師選択制が導入されたため、新入生に対して全体での履修説明後に個別指導を実施した。</p> <p>2. 在校生履修説明会</p> <p>2 年生の新カリキュラム、3、4 年生の旧カリキュラムを同時並行で実施している。単位未修得者への全体説明、個別指導をアドバイザー教員とともに行った。単位未修得者が増加することを考慮し平成 26 年度の在校生履修説明会を平成 26 年 2 月 20 日に実施した。</p> <p>3. 履修要項・授業科目概要の作成</p> <p>新カリキュラム、旧カリキュラムに対応した履修要項等を作成した。</p> <p>4. 博士論文、修士論文・課題研究の提出方法について検討し、CD-R での提出とした。</p> <p>5. 時間割作成</p> <p>新カリキュラム、旧カリキュラムに対応した時間割を作成した。</p> <p>6. 助産科目選考試験</p> <p>助産学担当教員とともに選考試験を実施した。</p> <p>7. 既修得単位認定（1 年次生、2 年次編入生）</p> <p>2 年次編入生の既修得単位認定は合格発表後、後期に実施した。平成 25 年度入学の 2 年次編入生の自由選択枠の既修得単位の認定を行った。</p> <p>8. 博士論文、修士論文・課題研究発表会</p> <p>博士論文 4 名、修士論文・課題研究 18 名の発表会を実施した。</p>

	<p>9. 単位未修得学生への指導（アドバイザー支援）  前期・後期の全学生の単位修得状況を確認し、必要な履修指導内容を明示した書類をアドバイザー教員に配布し、個別指導を依頼した。</p> <p>10. 学域共通科目開講  平成 24 年度入学生への学域共通科目で、平成 25 年度開講の人間支援科学論、コラボレーション論について、総合リハビリテーション学類、教育福祉学類の教員で実施した。</p> <p>11. 全学教務関係委員会（教育運営委員会、教育運営会議）への出席  大阪府立大学全体の教務内容と学部（学類）教務委員会が連動して運営できるようにした。</p> <p>12. 非常勤講師について審議した。</p> <p>13. 教務委員会メンバーを中心に、教職カリキュラム部会で教職受講学生へのサポート体制を作った。</p>
<p>来年度の課題</p>	<p>1. 単位未修得者への新カリキュラムでの単位読み替えが円滑に進むように、アドバイザーを支援する。</p> <p>2. 単位未修得者への円滑な指導</p>

委員会名	学生委員会
目的	<p>委員会は、次に掲げる事項について審議する。</p> <p>(1) 学生の休学、退学、復学、除籍に関すること</p> <p>(2) 学生の表彰及び処分に関すること</p> <p>(3) 学生の生活指導に関すること</p> <p>(4) 学生の福利厚生に関すること</p> <p>(5) 学生相談に関すること</p> <p>(6) その他学生の生活に関すること</p>
構成員	中山教授（委員長）、長畑教授（副委員長）、紙野准教授、木村准教授、林田准教授、角野助教
活動概要	<p>1. 委員会の開催</p> <p>1) 羽曳野キャンパス学生委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・羽曳野キャンパス共通・看護学部（看護学類） 10回</li> <li>・看護学部（看護学類）臨時学生委員会 1回</li> </ul> <p>2) 全学学生委員会 3回</p> <p>3) 外国人留学生委員会 2回</p> <p>2. 活動状況</p> <p>1) 学生の休学、退学、復学、除籍に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・休学申請者 25年度前期休学者：学部（学類） 9名、大学院 10名 25年度後期休学者：学部（学類） 14名、大学院 15名</li> <li>・退学申請者 25年度前期末退学者：学部（学類） 0名、大学院 5名 25年度後期末退学者：学部（学類） 5名、大学院 3名</li> <li>・復学申請者 26年度前期復学：学部（学類） 1名、大学院 0名</li> <li>・除籍 なし</li> </ul> <p>2) 学生の表彰及び処分に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・表彰 前期：学部（学類）4名（杏樹賞）、学長顕彰は該当者なし 後期：学部（学類）1名（杏樹賞）、学長顕彰 1名</li> <li>・処分 後期：学部（学類）4名（学部長（学類長）嚴重注意）</li> </ul> <p>3) 学生の生活指導・相談、保護者からの相談に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・長期休業前の学生の状況把握</li> <li>・学生の履修状況</li> <li>・アドバイザー活動報告のまとめ</li> </ul> <p>4) 学生の福利厚生に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生意見箱への対応</li> <li>・ラーニングコモンズの活用検討</li> </ul> <p>5) 学生生活に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・4月学生研修の実施</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2月履修説明会の準備、実施</li> <li>・「学生生活の手引き」の修正</li> <li>・杏樹祭における学生の運営状況の見回り、監督</li> <li>・学位記授与式における準備、当日の進行</li> </ul> <p>6) その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大学院授業料減免対象者の評価</li> <li>・盗難についての周知</li> <li>・自動車通学の禁止についての周知</li> <li>・謝恩会の相談</li> <li>・羽曳野キャンパス感染拡大対策委員会との連携</li> </ul>
来年度の課題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 羽曳野キャンパス感染対策委員会との役割分担（小児感染症、結核など）</li> <li>2. 教務委員会との連携強化</li> </ol>

委員会名	就職委員会
目的	<p>委員会は、次に掲げる事項について審議する。</p> <p>(1) 就職業務方針に関すること</p> <p>(2) 就職の相談及び指導に関すること</p> <p>(3) 求職、求人に関すること</p> <p>(4) 就職についての調査に関すること</p> <p>(5) その他就職に関すること</p>
構成員	田嶋教授（委員長）、田中教授（副委員長）、佐保准教授、松田准教授、大川講師、古山講師、隅田助教、松本助教、
活動概要	<p>1. 就職ガイダンス</p> <p>&lt;4年生対象&gt;</p> <p>第3回（4月12日）：参加者116名／126名</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・就職活動について～卒業生を迎えて～</li> <li>・模擬面接告知</li> <li>・ワンポイント就職セミナー：面接対策、マナー</li> <li>・国家試験対策について：模擬試験の推奨と対策</li> </ul> <p>第4回（11月11日）：参加者119名／126名</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国家試験の準備と手続きについて</li> <li>・就職支援行事に関するアンケート調査</li> </ul> <p>第5回（平成26年2月6日）：参加者122名／126名</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国家試験受験票配布と試験への心構えについて</li> <li>・国家試験不合格時の対応について</li> <li>・社会人としての心構えについて</li> <li>・卒業後のキャリア開発への準備：「私の記録」の説明</li> </ul> <p>&lt;3年生対象&gt;</p> <p>第1回（8月5日）：参加者123名／126名</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習施設・府立病院機構の紹介</li> <li>・府立病院機構の教育担当者等による病院の概要・実習指導体制の説明</li> </ul> <p>第2回（平成26年2月20日）：参加者123名／124名</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・就職活動について～卒業生を迎えて～</li> <li>・4年生の就職状況について</li> <li>・就職活動の方法（保健師）について</li> <li>・就職試験における心得、注意事項</li> <li>・府立病院機構の就職に向けた説明会（参加者76名／124名）</li> </ul>



	<ul style="list-style-type: none"> <li>・模擬面接の告知</li> </ul> <p>2. 学生への就職支援</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 模擬面接の実施：平成25年4月（2日間）、7月（4日間）（申込73名、参加67名）</li> <li>2) 学生の個別相談 <ul style="list-style-type: none"> <li>・公務員試験（保健師就職）に関する相談：随時</li> <li>・内定取り消し等の相談：随時</li> </ul> </li> <li>3) 求人施設への対応 <ul style="list-style-type: none"> <li>・施設からの推薦請求に対応するための内規の制定</li> </ul> </li> <li>4) 就職に関する事務 <ul style="list-style-type: none"> <li>・就職情報、就職支援室の管理、就職状況の把握（進路報告のWeb化）</li> </ul> </li> </ol> <p>3. 国家試験に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・受験準備、手続について（就職ガイダンスにて説明）：国家試験の出題傾向と対策</li> <li>・模擬試験に関する相談：模擬試験担当者の選出と指導  模擬試験結果の把握と報告、学生への指導</li> <li>・合格発表時の対応：不合格者に対する指導</li> </ul> <p>4. 看護学部新卒者対象の離職予防対策：ホームカミングデーの開催</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日時：平成25年6月15日（土）13:00～15:00</li> <li>・協賛：大阪府立大学看護学系同窓会（白鳥会）</li> <li>・参加者：卒業生38名（事前予約39名）、教員16名</li> <li>・内容・目的：新人看護職者としてストレスが高くなる、就職後2～3カ月目に母校に集まり同窓生や教員と会談し、情報交換や助言を得る場を提供する。学生時代に慣れ親しんだ環境での気分転換、孤独感やストレスの軽減を図り、看護職を継続することに前向きな気持ちを持つことへの一助とする</li> </ul> <p>5. 就職委員会（6回／年）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各ガイダンスの担当者の決定、ガイダンス内容の企画・検討など</li> </ul>
来年度の課題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 今年度の活動の継続</li> <li>2. 活動の変更・修正 <ul style="list-style-type: none"> <li>・模擬面接に関する学生の希望や就職活動の状況を踏まえ、4～7月の間で日程調整をする（実習期間も面接を受けられるように、希望者の多い府立病院機構の試験日程に合わせる）</li> <li>・国家試験への準備、対策に関して、学生への意識付けを早期から行う</li> <li>・複数の就職先を受験する際の心得や手順について、学生や教員に周知する</li> <li>・養護教諭の資格の取得者に対する、就職支援対策</li> </ul> </li> </ol>

委員会名	臨地実習委員会
目的	<p>委員会は、次に掲げる事項について審議する。</p> <p>(1) 臨地実習の教育方針及び教育課程に関すること</p> <p>(2) 臨地実習の運営に関すること</p> <p>(3) 臨地実習の指導体制の整備に関すること</p> <p>(4) 臨地実習に関する規程の制定及び改廃に関すること</p> <p>(5) その他臨地実習の実施及び運営に関し必要なこと</p>
構成員	杉本教授（委員長）、中村教授、石田准教授、北川准教授、佐保准教授、高橋准教授、藪下准教授、大川講師、別宮講師、山内講師、山口助教
活動概要	<p>1. 主な委員会活動の回数</p> <p>委員会 11 回、総合実習学生配置（4 月）、3 年次への実習オリエンテーション（8 月）、府立 5 医療センター臨地実習連絡会（3 月）</p> <p>2. 所管事項</p> <p>1) 実習運営関連</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習進度表および学生配置表等の作成</li> <li>・帰校日使用教室調整</li> <li>・平成 27 年度総合実習の学生実習配置数ならびに学生配置方法の検討</li> <li>・平成 26 年度からの実習衣検討（入試ガイダンスにてアンケート実施）</li> <li>・実習進度表および学生配置表などをポータルの情報共有サイトにアップし、教員への情報共有ならびに施設への実習依頼文書発送等の円滑化にむけて事務と検討</li> </ul> <p>2) 府立 5 医療センター関連</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・府立 5 医療センターでの平成 26、27 年度の実習計画の作成</li> <li>・各施設窓口担当教授と連携した施設との実習調整</li> </ul> <p>3) 実習関連情報 他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習要項（総合実習、各科目の実習）印刷依頼と配布</li> <li>・実習に使用する感染予防物品の一括購入依頼</li> <li>・学生による臨地実習評価のアンケート実施およびデータ分析、報告書の作成</li> <li>・平成 25 年度臨地実習における事故報告のまとめ、報告</li> <li>・施設との臨地実習協定書作成にむけて内容の検討、「実習における個人情報取扱いに関するガイドライン」の見直し等</li> <li>・実習担当教員の小児期感染症抗体価検査について事務と対応協議し、今年度 22 名実施今後、順次実施し、実習担当教員は 3 年毎に実施する方針</li> </ul>
来年度の課題	<p>1. 実習担当教員の Q F T の対応</p> <p>2. 臨地実習評価票の集計の簡便化</p> <p>3. 実習施設内外での教員連絡用 P H S などの使用</p> <p>4. 実習依頼業務等に関して事務とのスムーズな連携</p>

委員会名	紀要委員会
目的	<p>委員会は、次に掲げる事項について審議する。</p> <p>(1) 紀要に関すること</p>
構成員	堀井教授（委員長）、田嶋教授（副委員長）、岡本准教授、林田准教授、伊藤助教
活動概要	<p>1. 委員会開催数 9回</p> <p>2. 紀要第20巻第1号の発行：(2014年3月)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・原著2編、研究報告5編、総説1編、資料4編 掲載</li> <li>・羽曳野キャンパス教員、看護学研究科院生、近隣施設および全国約220施設に配布</li> </ul>
来年度の課題	<p>1. 来年度も掲載論文数を確保する。</p>

委員会名	教育展開委員会
目的	<p>委員会は、次に掲げる事項について審議する。</p> <p>(1) 公開講座の企画立案及び実施に関すること</p> <p>(2) 地域交流に関して必要なこと</p>
構成員	町浦教授（委員長）、杉本教授、松田准教授、井上助教、岩崎助教、齋野助教、根来助教
活動概要	<p>1. 委員会開催 看護学部委員会1回、総合リハビリテーション学部との合同会議1回を開催した。</p> <p>2. 羽曳野キャンパス公開講座の運営 平成25年度は看護学部(看護学類)が担当で、このうち3回を担当した。テーマは「医療との付き合い方～あなたや家族が病気になったとき～」、受講者は89名、延べ309名であった。公開講座の定員を満たしていたが、昨年度より1割程度参加者が減少した。チラシは昨年度と同様に近隣の老人クラブへの依頼、住宅への配布をし、申込方法をファックス、ハガキ、メールとした。 アンケートに回答した77名中、61名(79%)が役立つ知識が得られたと回答し、59名(77%)が全体的に「とてもよかった」「よかった」と回答した。全4回の参加賞は府大グッズや図書館のはびき一布袋にしたが、概ね好評であった。</p> <p>3. はびきの市民大学府大担当枠の講師推薦と調整 平成25年11月13日～平成26年1月22日の水曜日計8回開催のうち、6回分を看護学部(看護学類)が担当し、講師推薦と調整を行った。</p> <p>4. 平成25年度はびきの健康フォーラムに関する会議出席 平成26年2月16日にLICはびきので開催。平成24年度の反省会と企画会議に出席し、当日の役割を分担した。</p> <p>5. 全学での活動</p> <p>1) 府大講座担当講師依頼 平成25年8月29日より9月19日まで計5日間、1日に2回の講座が開催され、看護学部(看護学類)は9月7日の第2講義を担当した。 講師；長畑 多代教授「認知症を正しく知って備える」</p> <p>2) 全学委員会への出席 第1回：平成25年6月25日（火） 第2回：平成25年10月22日（火） 第3回：平成26年2月18日（火）</p>
来年度の課題	<p>1. 少しでも多くの地域住民に参加いただけるような魅力あるテーマの設定が必要である。</p> <p>2. 講義形式は参加型の講座を企画する必要がある。</p> <p>3. 講師が講義時に使用するものについて事前に依頼し、購入してもらう。</p>

委員会名	国際交流委員会
目的	<p>委員会は、次に掲げる事項について審議する。</p> <p>(1) 国際交流に関する企画立案及び実施に関すること</p> <p>(2) その他、国際交流に関して必要なこと</p>
構成員	志田教授（委員長）、細田教授、高橋准教授、井上助教、岩崎助教、根来助教、南村助教、山田助教、山地助教
活動概要	<p>1. マヒドン大学教員の e-Learning 研修受け入れ（准教授 3 名、講師 3 名）  日時：平成 25 年 5 月 21 日  対応者：中村教授、林田准教授</p> <p>2. マヒドン大学との学術交流協定の再締結</p> <p>3. マヒドン大学大学院生 研修と学生交流受け入れ  （シリラート校 2 名、ラマティボディ校 2 名）  期間：平成 25 年 9 月 29 日～10 月 13 日  研修先：循環器病研究センター、関西電力病院、大阪赤十字病院、大阪府看護協会、  大阪府立呼吸器・アレルギー医療センター、大阪発達総合療育センター、  医療福祉複合施設ベルアンサンブル、羽曳野市ゆうゆうクラブ、  基礎看護学技術演習、訪問看護ステーションハートフリーやすらぎ、  大阪府立藤井寺支援学校、羽曳野市立羽曳が丘小学校  大学院生参加数：歓迎会 22 名、院生イベント 23 名、送別会 14 名</p> <p>4. オレゴンヘルスサイエンス大学との学術交流協定の締結</p> <p>5. 外国人招へい教員受け入れ  （オレゴンヘルスサイエンス大学 Dr. Gubrud-Howe、看護教育学）  期間：平成 25 年 10 月 21 日～11 月 8 日  大学院生対象の講義（5 回）：第 1 回 instructional design  第 2 回 curriculum design  第 3 回 simulation education  第 4 回 educational evaluation  第 5 回 faculty development</p> <p>6. 国際看護セミナーの開催  日時：平成 25 年 10 月 28 日  講師：オレゴンヘルスサイエンス大学 Dr. Gubrud-Howe  演題：Clinical Teaching &amp; Learning  参加者：学部生 124 名、教員 19 名、外部参加者 12 名</p>

	<p>7. 本邦病院見学研修引率 (Dr. Gubrud-Howe)  研修先：大阪府立急性期・総合医療センター、淀川キリスト教病院</p> <p>8. 委員会開催（7回）</p> <p>9. 全学国際交流委員会への出席</p>
<p>来年度の課題</p>	<p>1. マヒドン大学研修参加者の選抜</p> <p>2. 国際看護セミナーの企画</p> <p>3. 外国人招へい教員の募集と招へいプログラムへの協力</p>

委員会名	ファカルティ・ディベロップメント（FD）委員会
目的	<p>委員会は、教員および学生を対象として次に掲げる事項について審議する。</p> <p>(1) 教員の教育内容・授業方法の改善に関すること</p> <p>(2) 教員の教育・研究能力の向上に関すること</p> <p>(3) 教育・研究活動の評価の実施に関すること</p>
構成員	長畑教授（委員長）、香川准教授、中嶋准教授、池内助教、日下部助教、齋野助教、山口助教
活動概要	<p>委員会開催は①4/12、②5/27、③8/2、④2/6、⑤3/7の5回であった。</p> <p>1. FDセミナー（担当：長畑、香川、中嶋、池内、山口） FDセミナーを2回企画した。第1回セミナー(8/23)は「看護学生と医療安全」をテーマに医療安全教育の専門家による講演を行い、61名（教員38名、大学院生4名、臨地実習関係者19名）が参加した。第2回セミナー(3/6)は「問題解決型スキルの基本と活用」というテーマで実施し、58名が参加した。</p> <p>2. ピア授業評価・参観（担当：日下部、齋野） 全教員を対象としたピア授業参観を実施した。年4回の参観提供科目募集と情報提供を行い、メールで各教員への周知を図り、参観科目提供と参観実施を全教員に義務付けた。</p> <p>3. カリキュラムマップ作成（担当：長畑、香川、中嶋） 高等教育開発センターFD研修において、各学類のカリキュラム・チェックリストおよびカリキュラムマップの作成が企画され、FD委員および教務委員からなるワーキングを結成して参加した。7月、11月に行われたセミナーへの参加および看護学類カリキュラムマップの作成を行った。</p>
来年度の課題	<p>1. FDセミナーでは学部教育の要となる臨地実習に関する内容と、大学院生も含めた研究・教育能力の向上に資する内容について企画した。セミナーの回数については、現状では年2回が妥当と思われる。</p> <p>2. ピア授業参観に一本化して3年目を迎え、提供授業コマ数は増加しているものの、参観実施の実績については微増に留まっている。そのため、ピア授業参観の意義および教育改善への動機づけも含めた周知を徹底し、充実させていく必要がある。</p>

委員会名	情報システム・セキュリティ委員会
目的	<p>委員会は、次に掲げる事項について審議する。</p> <p>(1) 情報システムに関すること</p> <p>(2) Webページのコンテンツの管理運用に関すること</p> <p>(3) 公立大学法人大阪府立大学情報セキュリティポリシー（以下「情報セキュリティポリシー」という。）の運営に関すること</p> <p>(4) 情報セキュリティポリシーに基づく個別対策の把握と必要な措置に関すること</p> <p>(5) 前4号に掲げるもののほか、看護学類における情報システムの運営及び情報セキュリティの確保に関すること</p>
構成員	階堂教授（委員長・学術情報センター情報システム委員会委員）、 中岡准教授、江口助教、岡崎助教、松本助教
活動概要	<p>1. 学術情報センター情報システム委員会開催後、必要に応じてメールによる連絡や委員会会議を開催</p> <p>1) 第1回委員会（9月30日開催）</p> <p>(1) 委員会の職務について</p> <p>(2) 委員会の役割について</p> <p>(3) 第1回学術情報センター情報システム委員会（5月10日開催）報告 情報セキュリティ委員会資料について、情報教育システム調達スケジュールについて等</p> <p>(4) 第2回学術情報センター情報システム委員会（9月26日開催）報告</p> <p>2) 第2回委員会（平成26年3月14日開催）</p> <p>(1) 退職予定者を対象とする退職時に保有する非公開情報に関するリストについて</p> <p>(2) 新任教員へのオリエンテーションについて</p> <p>(3) 第3回学術情報センター情報システム委員会（平成26年3月4日開催）報告</p> <p>2. 情報セキュリティ研修会 平成26年3月10日（月）16:15～17:45 羽曳野キャンパス B201 講義室（遠隔中継） 講演：セキュリティやプライバシーの考え方と現状 講師：帝塚山学院大学 ICTセンター長 教授 中野 秀男氏</p>
来年度の課題	1. 情報セキュリティポリシーを周知徹底させる



委員会名	評価・企画実施委員会
目的	委員会は、公立大学法人大阪府立大学計画・評価会議規程第2条1項第2号から第7号までに掲げる職務のうち、学類において必要な評価の企画及び実施を行うものとする。
構成員	高見沢学類長（学部長）、細田教授（委員長）、中山教授、籀持教授、石田准教授、日下部助教、隅田助教、深山助教、南村助教
活動概要	<p>1. 部局における活動</p> <p>1) 委員会の開催：5回</p> <p>議題：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成24年度年報の作成に関すること</li> <li>・自己点検評価報告書及び年報の公表に関すること（ホームページ上に公開）</li> <li>・部局における改善を要する事項に対する取り組みに関すること</li> <li>・平成25年度年報の作成に関すること</li> </ul> <p>2) 平成24年度年報 平成25年9月末に完成し、ホームページ上に公開した。</p> <p>3) 平成25年度年報に関すること 年報の校正の検討、執筆の依頼を行い、原稿の校正を行っている。</p> <p>2. 大学全体における活動</p> <p>1) 委員会の開催：4回</p> <p>2) 教員業績評価の実施</p> <p>3) 教員活動情報データベースシステム再構築の検討</p> <p>4) 部局における改善を要する事項に対する取り組み</p>
来年度の課題	<p>1. 平成25年度の年報の完成および評価</p> <p>2. 平成26年度の年報構成</p>

委員会名	人権・ハラスメント委員会
目的	<p>委員会は、次に掲げる事項について審議する。</p> <p>(1) 人権及びハラスメント問題の啓発に関すること</p> <p>(2) 人権及びハラスメント問題に関する講演会及び研修に関すること</p> <p>(3) ハラスメントに関する相談に関すること</p> <p>(4) 前各号が掲げるもののほか、委員会が必要と認める人権問題及びハラスメント防止に関すること</p>
構成員	上野教授（委員長）、階堂教授、志田教授、細田教授、玉利事務所長（羽曳野キャンパス事務所）
活動概要	<p>今年度は学部(学類)として審議が必要な人権・ハラスメントに関する問題は生じなかった。人権・ハラスメント問題に対する啓発を目的に、教職員の認識、感受性を高める内容の講演会および相談員の相談能力向上を目的とした講演会などを企画立案し、参加の促進を図った。全学人権・ハラスメント委員会から要請のあった参加目標人数（3名）を目安に参加を要請し、1回目は教員6名、2回目は教員10名が参加した。</p> <p>1. 人権問題講演会  テーマ「大学における障害者の人権」</p> <p>1) 日時 平成25年10月30日（水）12:55～14:25</p> <p>2) 場所 羽曳野キャンパス B201 講義室（遠隔中継）</p> <p>3) 講師 大阪府立大学人間社会学研究科 准教授 田垣 正晋氏</p> <p>2. ハラスメント防止に関する講演会  テーマ「キャンパス・セクシャル・ハラスメントの現状と対策—大学における人権保障について考える」</p> <p>1) 日時 平成25年12月25日（水）14:35～16:05</p> <p>2) 場所 羽曳野キャンパス L305 会議室（遠隔中継）</p> <p>3) 講師 関西大学社会学部教授・人権問題研究室長 石元清英氏</p>
来年度の課題	<p>1. 講演会への参加教員目標数を満たすことができたが、人権・ハラスメント問題への啓発に向け、講演会や研修会のアナウンス時期や方法の工夫などの検討が課題である。</p>

委員会名	広報委員会
目的	<p>委員会は、次に掲げる事項について審議する。</p> <p>(1) パンフレット等の作成に関すること</p> <p>(2) ホームページ等の広報に関すること</p> <p>(3) その他広報に関すること</p>
構成員	田中教授（委員長）、町浦教授（副委員長）、北川准教授、撫養講師、山内講師、池内助教、徳岡助教、羽畑助教
活動概要	<p>広報委員会では、原則として月1回の会議を開催し、必要時臨時会議およびメール会議を行った。主な活動内容は以下の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護学類紹介パンフレットの内容更新 看護学類パンフレットを更新し、6月上旬に発刊した。また、次年度のパンフレット内容についての検討、更新準備を行った。</li> <li>2. 大学院紹介パンフレットの作成 大学院紹介パンフレットを更新し、5月下旬に発刊した。また、次年度のパンフレット内容についての検討、更新準備を行った。</li> <li>3. 地域保健学域紹介パンフレットの内容更新 地域保健学域のパンフレットの内容を更新した。</li> <li>4. キャンパスガイド2014の内容更新 地域保健学域および看護学類、看護学研究科に関する記載内容を更新した。</li> <li>5. Webページ（学類・学部・大学院）およびモバイルサイトの内容更新 看護学類・看護学部・看護学研究科の日本語版ホームページ（Webページ・モバイルサイト）において、オープンキャンパス・入試ガイダンスをはじめとする学内行事、国際交流活動および療養学習支援センター等で開催されるイベント等の広報活動を行った（随時/月）。学内行事・イベント等の実施後の報告についても内容を充実させた。また、看護学類・看護学部・看護学研究科の英語版ホームページ（Webページ）を、カリキュラム変更在即した内容に更新した。</li> <li>6. 教員個人ページの更新 看護学類・看護学部の教員紹介ページの内容更新を行った。</li> <li>7. 看護学研究科のWebページの更新 なかもろ広報課と協力して、大学Webサイト、大学院ページ内容の改善に取り組んだ。</li> <li>8. 入試広報活動への参加協力 入学試験運営委員会が企画したオープンキャンパス・入試ガイダンス活動に広報委員として参加協力を行った。また、大学説明Q&amp;Aマニュアルの内容更新を行った。</li> <li>9. 府立急性期・総合医療センター「ふれあい病院探検隊」への参加協力 同企画への学生ボランティアの招集および、教員による企画参加を行った。</li> <li>10. 地域住民に向けて広報活動 「南河内大学展」へのパネル参加・資料展示を行った。</li> </ol>

来年度の課題	<p>従来の活動をふまえた広報活動を展開する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 大学院紹介パンフレットは、5月上旬完成を目指す。</li> <li>2. 看護学類紹介パンフレットは、5月中旬完成を目指す。</li> <li>3. なかもず広報課と協力の下に、地域保健学域紹介パンフレットおよびキャンパスガイド2015の内容更新を行う。</li> <li>4. Webページについては、看護学部ページと看護学類ページの並行運用を続行する。それに伴い双方のページについて定期的な更新を継続する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員個人ページの更新を4月当初に行う。</li> <li>・適切な内容が適切な時期にアップできるように、学内からの情報提供を募っていくことを続行する。実施報告についても積極的に広報する。</li> <li>・地域保健学域・看護学研究科のページについては、なかもず広報課と協力して内容の更新を行う。</li> </ul> </li> <li>5. モバイルサイトの更新についても、Webサイトの更新と併せて行う。</li> <li>6. オープンキャンパス・入試ガイダンス、地域に向けての広報活動に協力・参加する。</li> </ol>
--------	---

委員会名	看護学研究倫理委員会
目的	委員会は、教職員及び看護学研究科学生が行う人間を対象とする研究の倫理審査に関する事項を審議する。
構成員	高見沢学類長（学部長）、檜木野教授（委員長）、長畑教授（副委員長）、志田教授、中村教授、佐藤准教授、佐保准教授、 玉利事務所長（羽曳野キャンパス事務所） 川瀬委員（学外委員）、伊藤委員（学外委員）、小山委員（学外委員）
活動概要	<p>1. 研究倫理審査に関するオリエンテーション： 平成25年4月15日に、院生、教員を対象に本年度の審査に関する説明会を開催した。</p> <p>2. 委員会開催： 1) 倫理審査に関する委員会を6回開催し、68件の新規の倫理審査申請書を審議した。 博士前期課程：22件 博士後期課程：本研究9件、予備研究9件 教員：28件 研究の追加・修正に伴う申請：5件 外部より協力依頼のあった研究調査：3件（委員長と副委員長で審議した。） 2) 臨時委員会を2回開催し、申請のあった研究に関する倫理審査の判定に対する検討を行った。</p> <p>3. 倫理審査のあり方の検討： 1) 再申請時の提出書類の検討を行った。 2) 審査回数、開催時期、外部委員の委員報酬に関する検討を行った。次年度から委員会を7回開催、書類審査においても委員報酬を支払うことを決定し、予算委員会に諮り内諾を得た。</p>
来年度の課題	<p>1. 研究倫理委員会開催数の変更に伴う申請状況についての分析</p> <p>1) 申請件数は大幅な増加は見られないが、1回あたりに要する時間が長く、効率化する必要がある。</p> <p>2) 研究倫理審査に関する提出書類に不備が目立ったため、オリエンテーションによる周知徹底、ポータルからの申請書類の入手の徹底をする必要がある。</p>

委員会名	年次計画作成委員会 (公立大学法人大阪府立大学計画作成ワーキンググループ)
目的	公立大学法人大阪府立大学の中期計画及び年度計画の作成・管理について検討を行う。 (部局・学部／学類において検討)
構成員	高見沢学類長(学部長)、中村教授(委員長)、和泉准教授、岡本准教授、香川准教授、紙野准教授、中岡准教授、角野助教
活動概要	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 平成 25 年度部局別年度計画実施状況の報告書作成 <ul style="list-style-type: none"> <li>・前期、後期に分けて実施</li> </ul> </li> <li>2. 平成 26 年度部局別計画の作成</li> <li>3. 委員会の開催</li> <li>4. 計画作成委員会への出席(委員長) <ul style="list-style-type: none"> <li>・年間 3 回開催</li> </ul> </li> </ol>
来年度の課題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 平成 26 年度は、現行カリキュラムの最終年度であり、計画や実施状況に大きな変更はないと思われるが、平成 27 年度計画については、検討を要することが多くなることが予測される。</li> <li>2. 委員会の職務を遂行するためには、学部／学類、看護学研究科での教育・研究活動について十分に把握しておく必要があり、新任教員は任務の遂行が難しくなっている。</li> </ol>

委員会名	大学院看護学研究科附置研究所 療養学習支援センター運営委員会
目的	委員会は、次に掲げる事項について審議する。 (1) 事業計画に関すること (2) 予算に関すること (3) その他、療養学習支援センターの管理運営に関すること
構成員	高見沢研究科長（センター長）、中山教授（主任）、中村教授（副主任）、志田教授、田嶋教授、堀井教授
活動概要	1. プロジェクト活動・研究助成 <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究2件、活動4件、助成金額 1,666千円、助成なしの活動4件</li> <li>・活動報告会の開催 平成26年2月27日（木）</li> </ul> 2. 広報活動 <ul style="list-style-type: none"> <li>・パンフレットの作成、ホームページのデータ更新</li> <li>・羽曳野市市報「広報はびきの」へ活動案内の掲載</li> </ul> 3. 健康フェア開催 <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成25年10月27日（日）開催、参加者60名</li> <li>・身体測定、握力・骨密度・体組成・動脈硬化測定、脳年齢測定、ストレス度測定、健康相談、健康体操を実施</li> </ul> 4. 年報制作 <ul style="list-style-type: none"> <li>・冊子体200部印刷、ホームページでの公表</li> </ul> 5. 闘病記文庫 <ul style="list-style-type: none"> <li>・羽曳野図書センター委託、新刊図書の選書・購入</li> </ul> 6. 専門看護師フォーラムの開催 <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成26年2月17日開催、参加者50名</li> </ul> 7. 運営委員会 <ul style="list-style-type: none"> <li>・委員会開催 9回</li> </ul>
来年度の課題	1. プロジェクト活動・研究の拡大を図る。

委員会名	動物実験委員会
趣旨等および目的	<p>大阪府立大学における動物実験等は、科学的、動物愛護及び環境保全の観点並びに動物実験等を行う教職員及び学生等の安全確保の観点から適正に行わなければならない、実施に当たっては、法令等に即し、動物実験等の原則である代替法の利用、使用数の削減及び苦痛の軽減図り、適正に実施しなければならない。</p> <p>次の各号に掲げる事項について委員会で審議する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 部局が承認した実験計画並びに当該実験計画の実施状況及び結果の適正性に関すること</li> <li>(2) 部局が承認した施設等及び実験動物の飼育保管状況の適正性に関すること</li> <li>(3) 動物実験の実施に係る教育訓練に関すること</li> <li>(4) 動物実験の実施に係る自己点検・評価に関すること</li> <li>(5) その他動物実験等の適正な実施に関し必要なこと</li> </ul>
構成員	堀井教授
活動概要	<p>平成 25 年度において、看護学類では申請がなかった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1. 全学委員会開催 メールによる会議（自己点検評価報告書について）：1 回</li> <li>2. 動物実験計画の審査 メールによる審査：10 回（計 104 件）</li> <li>3. 施設認定の審査 メールによる審査：2 回（計 9 件）</li> </ul>
来年度の課題	



委員会名	羽曳野図書センター運営委員会
目的	<p>委員会は、学術情報センター図書館委員会の諮問を受け、羽曳野図書センターにおける次に掲げる事項を審議する。</p> <p>(1) 図書の選定に関すること</p> <p>(2) 図書の管理に関すること</p> <p>(3) 図書の利用に関すること</p> <p>(4) その他、図書センターの運営に関すること</p>
構成員	<p>簗持教授（委員長）、松田准教授、伊藤助教、椿助教</p> <p>総合リハビリテーション学部（学類）教員 4名</p>
活動概要	<p>1. 運営委員会開催（7回）</p> <p>1) 学術情報センター図書委員会における審議事項等の報告及び羽曳野図書センターとして対応すべき検討事項の審議</p> <p>2) 羽曳野図書センターの運営に係る事項の検討</p> <p>2. 主な活動内容</p> <p>1) 図書カレンダー 開館時間、休館日の承認</p> <p>2) 貸し出し冊数、期間の検討</p> <p>3) 購入雑誌、電子ジャーナル、データベース、AV資料の検討</p> <p>4) 図書館、ライブラリーラウンジ等の利用に関するアンケートの実施と対処</p> <p>5) 選書会議／店頭選書</p> <p>6) 学生選書委員の選出</p> <p>7) 購入雑誌の中止、廃棄雑誌の検討</p> <p>8) オープンキャンパスにおける図書厚生棟ツアーの企画</p> <p>9) 学外文献複写サービスの内容、運営の検討</p> <p>10) 「新入生に推薦する100冊」の選書</p> <p>12) 委員会諸規定の見直し</p> <p>13) その他</p>
来年度の課題	<p>1. 昨年度に引き続き、図書センター内の蔵書等の増加に伴う狭隘化への対処として図書等の整理を行ったが、今後も継続していく必要がある。</p> <p>2. 今年度の為替レートの変動に伴う洋書、電子ジャーナル、データベースの価格高騰により、全学的に大幅な購入図書や雑誌の見直しを要する状況となった。今年度は雑誌の電子ジャーナル化などの予算の効率的な運用を図り、予算削減に努めたが、来年度も引き続き、予算不足が見込まれるため、購入雑誌や予算配分の検討が必要である。</p>

委員会名	羽曳野キャンパス感染対策委員会
目的	<p>委員会は、次に掲げる事項について審議する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 学生及び教職員の感染予防対策に関すること</li> <li>(2) 感染予防対策実施の監視と指導に関すること</li> <li>(3) 感染症発生後の適切な事後処理に関すること</li> <li>(4) 感染症発病者の人権擁護に関すること</li> <li>(5) 学外実習施設等との連絡調整に関すること</li> <li>(6) 前各号に掲げるもののほか、感染予防に関し必要と認められる事項に関すること</li> </ol>
構成員	<p>堀井教授（委員長）、紙野准教授、佐藤准教授、古山講師  総合リハビリテーション学部（学類）教員4名  東妻看護師（健康管理センター分室）、産業医</p>
活動概要	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 健康管理センター分室からの報告受けと指示、学部長報告</li> <li>2. 健康管理センター分室の啓発活動への技術的支援</li> <li>3. 結核発症案件に対する保健所との連携と対応</li> </ol>
来年度の課題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. インフルエンザを含む新興・再興感染症の流行状況の情報収集と対応</li> <li>2. 学生・教職員への感染予防策の啓発（健康管理センター分室との連携）と特に、小児期感染症対策におけるワクチン接種の勧奨</li> </ol>

## 第4章 学生の受け入れ

### 1. 学士課程

#### 1) 入学者受け入れの方針

##### (1) アドミッション・ポリシーとその周知方法

「看護学部入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）」を平成16年度に制定したが、学域・学類入試への変更に伴い、具体的に3項目の選抜方針を追加した「看護学類入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）」を平成23年度に制定した（資料4-1-1-1）。

##### 資料4-1-1-1 看護学類入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）

#### 看護学類入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）

少子化、高齢化、国際化など社会構造の変化と国民のニーズの多様化、医療の高度化、専門化を背景に、わが国の看護・医療は大きく変わりつつあります。その中で看護職の占める役割はますます重要になってきています。看護学類では生命の尊重と個人の尊厳を基盤とし豊かな人間性を形成するとともに、看護の専門的知識・技術をもって社会ニーズに応えて、幅広い分野で活躍できる看護専門職者を育成し、人々の健康の維持・増進に寄与するとともに国際社会に貢献できる人材の育成を目指しています。したがって、看護学類では次のような学生を求めています。

- ①人間の喜び、苦しみ、痛みを分かち合え、生命の尊厳について理解しようとする姿勢をもった人
- ②幅広い学問分野に支えられた専門的な看護に必要な知識・技術を主体的、積極的に修得できる高い基礎学力をもった人
- ③保健・医療・福祉などの場において他のヒューマンサービスを提供する人々と連携することのできる柔軟性を有しリーダーシップのとれる人

以上にに基づき、看護学類の教育理念・目的にふさわしい学生を受け入れるため、次の1～3の能力や適性をもつ学生を選抜します。

- 1 高等学校における教科・科目を文理ともに広く学習し、高い基礎学力を有していること
- 2 他者理解とコミュニケーションの基礎となる国語能力を有していること
- 3 英文を読んで理解し、英文で表現するための基礎的な能力を有していること

看護学類の入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）については、下記の通り、選抜要項や募集要項に掲載したほか、Webページや携帯サイト上にも掲載して公表に努めた。

- ① 平成26年度入学者選抜要項（pp. 6-7）
- ② 平成26年度学生募集要項（一般入試）（pp. 6-7）
- ③ 平成26年度学生募集要項（2年次編入学試験）（p. 1）
- ④ 平成26年度（2014年度）推薦入学学生募集要項（p. 1）
- ⑤ 平成26年度（2014年度）外国人留学生特別選抜学生募集要項（p. 6）
- ⑥ Webページ（URL：[http://www.nursing.osakafu-u.ac.jp/kango\\_gakurui/policy.html](http://www.nursing.osakafu-u.ac.jp/kango_gakurui/policy.html)）
- ⑦ 携帯サイト（URL：<http://osakafu-u.ac.jp/osakafu-u/>）

「平成26年度学生募集要項（2年次編入学試験）」は156の大学・学部を送付し、「平成26年度（2014年度）推薦入学学生募集要項」は、大阪府内の高等学校266校に送付した（出願の多い学校へは3部送付）。平成25年8月3日・4日に開催したオープンキャンパス（高校生他の学生897名、保護者他386名参加）、平成25年10月27日に開催した入試ガイダンス（高校生他の学生57名、保護者他36名参加）では、学類説明の中でアドミッション・ポリシーについて説明し、募集要項等の資料の配布を通して周知の機会とした。

## （2）一般選抜入試

大学入試センター試験については、前期日程、後期日程ともに、平成17年度より5教科6科目としてセンター試験の配点を800点とした。アドミッション・ポリシーの「国際社会に貢献できる人材の育成」の観点から、センター試験では外国語（英語）のリスニングテストを課している。

個別学力検査については、同じくアドミッション・ポリシーの「国際社会に貢献できる人材の育成」の観点から、平成20年度入学者選抜より前期日程試験において新たに外国語（英語）を加え、試験時間60分、配点100点とした。前期日程の小論文試験では試験時間を90分、配点200点とし、アドミッション・ポリシーの「幅広い学問分野に支えられた（中略）高い基礎学力を持った人」の選抜に努めた。後期日程の小論文試験では試験時間120分、配点300点とし、「人間の喜び、苦しみ、痛みを分かち合え、生命の尊厳について理解しようとする姿勢をもった人」を選抜するために、人間理解に関する問題を出題した。

前期日程試験はセンター試験800点、小論文200点、外国語（英語）100点の計1100点で、また後期日程試験はセンター試験800点、小論文300点の計1100点で判定を行った。

## （3）特別選抜入試

### ①外国人留学生特別選抜

平成17年度から新たにTOEFL®を課した。選抜方法は小論文試験、面接試験、日本留学試験の成績、成績証明書、TOEFL®で総合的に判定する。募集人員は若干名である。また、平成19年度から出願資格に次の3点を付加している。

- 1) 日本留学試験の「日本語」の得点が250点以上
- 2) 日本留学試験の「理科」と「数学（コース1またはコース2）」の合計得点が200点以上
- 3) TOEFL®の得点がPBT：450点、iBT：45点以上であること

### ②2年次編入学試験

看護師・保健師・助産師を志す多様な人材を受け入れるために2年次編入学試験を実施している。出願資格としては、修業年限4年以上の大学を卒業した者及び平成26年3月に卒業見込みの者等を条件としている。小論文試験と面接試験については、アドミッション・ポリシーを反映した内容としている。入学者の選抜は、筆記試験、面接試験の成績及び出願書類を総合的に判定して行っている。

### ③推薦入学試験

出願できるのは、「調査書の全体の評定平均値4.0（5点満点）以上である者」「看護学に関する知識と技術の修得に熱意をもち、学力、人物ともに優れ、出身学校長が責任をもって推薦する者」等の条件に該当する者である。各高等学校等で推薦できる人数は、大阪府内の高等学校等は3名以内、その他の高等学校等は1名としている。入学者の選抜は、小論文試験（英文資料の読解を含む）、面接試験の成績、調査書及び推薦書等により総合的に判定して行っている。

## 2) 入学者選抜の実施体制

入学試験に関する企画と適性かつ円滑な実施を図ることを目的として、入学試験運営委員会が設けられている。委員会は学類長を委員長とし、教授会議が選出した教授5名、教授会議が選出した教員5名、羽曳野キャンパス事務所長、その他委員会が必要と認める者から構成され、平成25年度は12名で運営された。さらに、入学試験に関して、大学全体の全学入試運営委員会、入学試験あり方部会、出題採点部会、入試広報部会にも学類の入試委員が参加することで、大学全体との調整を図った。

試験実施は入試委員を中心とする教員が試験監督、面接試験委員を務め、事務担当者が試験会場の設営、入試事務に関する業務を行った。試験当日の実施について、担当者に対しては必ず実施に関するオリエンテーションを行い、担当業務が責任を持って正確に行われるよう確認した。試験実施に関して、受験者からの試験に関するクレーム等は全くなかった。合格者の決定については、試験の種類により決められた選抜基準に基づき、入学試験運営委員会において合否判定資料案を作成した後、学類教授会議の審議により合格者を決定した。

## 3) 入学者受け入れの現状

平成26年4月入学者の現状を次に示す。ほぼ募集人員通りである。

資料4-1-3 平成26年 看護学類入学者

	選抜方法等	募集人員 (名)	入学者数 (名)
一般選抜	前期日程	50	51
	後期日程	15	15
特別選抜	外国人留学生特別選抜	若干名	0
	2年次編入学	10	11
	推薦入学	55	55

## 2. 大学院課程

### 1) 入学者受け入れの方針

#### (1) アドミッション・ポリシーとその周知方法

「看護学研究科入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）」（資料4-2-1-1）を平成16年度に制定した。

資料4-2-1-1 看護学研究科入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）

#### **看護学研究科入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）**

看護学研究科は、多様化、複雑化、高度化する社会環境の中で、生命と人権の尊重を基盤として、看護に求められる社会的使命を遂行し、看護学を実践的・創造的に発展させ、地域社会及び国際社会のあらゆる健康レベルの人々に貢献できる高度な看護分野の実践者、管理者、教育者、研究者を育成することを目指しています。

#### ●前期課程

博士前期課程では、人間の存在と生命の尊厳について深く理解し、広い視野に立って精深なる学識を修め、専門分野における教育研究能力、あるいは高度に専門的な実践能力を有する人材を育成することを目指しています。このような目標を達成するため、博士前期課程では入学者に次の3点を求めます。

1. 看護倫理に基づく看護・看護学へのコミットメントを有していること
2. 論理的思考力や課題探求力と併せて、専攻する学問分野の専門的基礎および応用能力と国際的関心を有していること
3. 高度専門職業人として、看護実践ならびに看護学の発展に貢献する意欲を有していること

#### ●後期課程

博士後期課程では、豊かな学識を有し、看護学分野において学術研究を推進しその深奥を究め、自立して研究活動を行うことができる能力を有する人材を育成することを目指しています。このような目標を達成するため、博士後期課程では入学者に次の3点を求めます。

1. 探究心旺盛で創造的に看護の視点から自立して研究に取り組む姿勢を有していること
2. 専門分野について深い基礎および応用能力を有し、多様な学問分野への高い関心と国際的な視野を備えていること
3. 豊かな人間性ととともに、看護の社会的認知を高め看護学ならびに看護実践・教育の発展に貢献する熱意を有していること

看護学研究科の入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）については、下記の通り、募集要項に掲載したほか、Webページ上にも掲載して公表に努めた。看護学研究科の学生募集要項は、看護系の大学(71件)や病院(306件)に対して送付している。

- ① 大阪府立大学大学院看護学研究科学生募集要項 (p.1)
- ② Webページ (URL: [http://www.nursing.osakafu-u.ac.jp/gra\\_top.html](http://www.nursing.osakafu-u.ac.jp/gra_top.html))

## (2) 入学試験

博士前期課程では外国語（英語）、専攻科目、面接試験を実施し、専攻科目試験はきめ細かく適性を判断するために各領域・分野ごとの出題としている。博士後期課程では外国語（英語）、専門科目（全分野共通）、口述試験を行っている。いずれもアドミッション・ポリシーに見合う専攻科目・専門科目と面接試験・口述試験を実施している。

## 2) 入学者選抜の実施体制

看護学研究科の入学試験についても、入学試験運営委員会において企画とその実施が適性かつ円滑に行われるような体制が整っている。平成 25 年度は博士前期課程、博士後期課程とも第 2 次募集が行われたが、入学試験は問題なく実施された。

## 3) 入学者受け入れの現状

平成 26 年 4 月入学者の現状を次に示す。博士後期課程については募集人員を満たしたが、博士前期課程については募集人員を下回っている。

資料 4-2-3 平成 26 年 看護学研究科入学者

看護学研究科		募集人員 (名)	入学者数 (名)
	博士前期課程	26	20
博士後期課程	5	6	

## 3. 科目等履修生制度、研究生の受け入れについて

看護学部（看護学類）では、高等学校を卒業した者またはそれと同等以上の学力があると認められた者が看護学部（看護学類）の授業科目を履修することのできる科目等履修生を毎年度、前期・後期の計 2 回募集している。平成 25 年度は科目等履修生の受け入れはなかった。

看護学研究科では、看護系大学院修士課程又は博士前期課程を修了した者が、看護学研究科の講義科目を履修することのできる科目等履修生を毎年度、前期・後期の計 2 回募集している。また大学卒業見込み又はこれと同等以上の学力があると認められた者が研究について指導を受けることのできる大学院研究生を毎年度、前期・後期の計 2 回募集している。平成 25 年度の科目等履修生は 0 名、大学院研究生の受け入れは 1 名であった。

## 第5章 教育内容及び方法

### 1. 教育課程の編成・授業科目の内容

#### 1) 学士課程

看護学部（看護学類）では、生命の尊重と個人の尊厳を基盤とし、豊かな人間性を形成するとともに、科学的専門知識・技術を教授し、看護を総合的な視野で捉えられる人材を育成することを教育目的とし、これを達成するために教育課程が編成されている。その編成は、幅広い教養を身につける「教養科目・基盤科目」、看護学の基盤教育としての「専門支持科目」（平成24年度入学生からは「専門基礎科目」）、看護学の「専門科目」からなる。教養教育科目は、大阪府立大学全体の教養教育と基礎教育を担う総合教育研究機構が実施している。看護学の「専門科目」は、平成24年度以降の入学生は「学域共通科目」「基礎看護学」「療養支援看護学」「生活支援看護学」「家族支援看護学」「看護の統合と実践」から構成しており、平成22～23年度入学生は「人・環境支援看護学」「療養支援看護学」「生活支援看護学」「家族支援看護学」「看護の統合と実践」から構成している。

「教養科目・基盤科目」「学域共通科目」「専門支持科目（専門基礎科目）」「専門科目」は、学習の順序性を考えて体系的に配置している（資料5-1-1-1,2）。「教養科目・基盤科目」は、主に1年次に配置し、国際的な視野で貢献できる能力を養う実用英語習得のための英語教育は1年次、2年次に配置している。教養科目は、羽曳野キャンパス開講科目に加え、週1回（平成24年度入学生からは週2回）中百舌鳥キャンパスにおいて開講されている50科目の中から選択することができる。学生は、羽曳野キャンパスおよび中百舌鳥キャンパスにおいて、多くの科目から教養科目・基盤科目を選択することができるようになった。なお、中百舌鳥キャンパスとの交通にはキャンパス間のバスを授業開始時間にあわせて運行している。

「専門支持科目（専門基礎科目）」は、主に1年次、2年次に配置し、からだの構造や機能、病態や疾病、チーム医療に関連する知識や能力等を理解するための科目等を開設している。「専門科目」は、1年次から4年次に配置し、「人・環境支援（基礎）看護学」「療養支援看護学」「生活支援看護学」「家族支援看護学」の専門領域別の科目では、看護に必要な知識と技術および科学的根拠に基づく問題解決能力を養う内容が含まれている。さらに、専門領域別の実習を1年次から4年次に配置し、保健・医療・福祉などの分野において、看護の実践能力および調整的能力を養う内容となっている。「看護の統合と実践」では、看護学への関心を深め、総合的な視野と看護学研究の基礎能力を養うための科目等を開設している。

平成24年度以降の入学生から養護教諭一種免許状取得のための科目を開設しており、「教職に関する科目」「養護に関する科目」「養護又は教職に関する科目」「教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目」を履修することを必修としている。

また、平成18年度より転学部（学類）制度を導入し、南大阪地域の大学と南大阪コンソーシアムとして協定を結び、互換可能な開講科目について単位認定を可能にしている。



資料 5-1-1-1 看護学類 卒業要件 授業科目一覧 (1 年次生・2 年次生用)

卒業要件単位	科目	必修	選択	計
	共通教育科目	18	10	28
	専門基礎科目	21	0	21
	専門科目	73	2	75
	自由選択枠科目	4	0	4
計	116	12	128	

区分	授 業 科 目					単 位	授 業 時 間 数			卒 業 要 件 単 位	備 考	区 分	授 業 科 目					単 位	授 業 時 間 数			卒 業 要 件 単 位	備 考
	授 業 科 目 名	必修	選択	講義	演習		実習	必修	選択				講義	演習	実習	授 業 科 目 名	必修		選択	講義	演習		
共通教育科目	基礎科目										28 単位以上(必修科目) 18 単位+選択科目 10 単位以上)	羽 曳 野 キ ャ ン パ ス で 開 講 さ れ る 科 目	解剖生理学A	2		30			必修科目 21 単位				
	・外国語科目(英語)												解剖生理学B	2		60							
	Academic English IA	2			30								生化学A	1	15								
	Academic English IB	2			30								病理学	1		30							
	Academic English IIA	2			30								医療・治療論A	1		30							
	Academic English IIB	2			30								医療・治療論B	1		30							
	Academic English III	2			30								医療・治療論C	1		30							
	Academic English IV	2			30								医療・治療論D	1		30							
	教養科目												医療遺伝学	1	15								
	統計学入門		2		30								微生物学概論	1		30							
	憲法	2			30								薬理学	1		30							
	(1年次中百舌鳥開講科目・水曜日、木曜日分)												公衆衛生学A	1	15								
	導入科目												栄養学総論	1	15								
	初年次ゼミナール	2			30								疫学	2	30								
	基礎科目												保健統計学	2	30								
	・健康・スポーツ科学科目												医療と社会福祉学	1	15								
	健康・スポーツ科学概論	2	2	30									カウンセリング論	1	15								
	健康・スポーツ科学演習 I	2			30								生命倫理学	2	30								
	健康・スポーツ科学演習 II	2			30								人間支援科学論	1	15								
	・外国語科目(初修外国語)												コラボレーション論	2	30								
	ドイツ語入門 I	2			30								コミュニケーション論	1	15								
	ドイツ語入門 II	2			30								ケアリング論	2	30								
	フランス語入門 I	2			30								看護学概論	2	30								
	フランス語入門 II	2			30								基礎看護技術学 I	1	15								
	中国語入門 I	2			30								基礎看護技術学 II	2	60								
	中国語入門 II	2			30								基礎看護技術学 III	2	60								
	朝鮮語入門 I	2			30								看護過程展開論	1	30								
	朝鮮語入門 II	2			30								看護管理論	1	15								
	・情報基礎科目												看護教育学	1	15								
	情報基礎(情報社会と情報倫理を含む)	2			30								看護学実習 I	1		45							
	教養科目												基礎看護学実習 II	2		90							
	哲学と思考	2	2	30									療養支援看護学概論	2	30								
	心理学への招待	2	2	30									病態看護論	2	60								
	生物と人間	2	2	30									療養支援論：急性 I	1	15								
	文学と社会	2	2	30									療養支援論：急性 II	1	30								
	医療と社会	2	2	30									療養支援論：慢性 I	1	15								
	自然科学への招待	2	2	30									療養支援論：慢性 II	1	30								
	社会の中の数学	2	2	30									療養支援論：がん	1	15								
	ヘルスプロモーション	2	2	30									療養支援論：感染	1	30								
	世界の中のフランス語圏	2	2	30									療養支援看護学実習：急性	3		135							
物語文学を読む	2	2	30							療養支援看護学実習：慢性	3		135										
ジェンダー論への招待	2	2	30							生活支援看護学概論：老年	1	15											
バリアフリー論	2	2	30							生活支援看護学概論：在宅	1	15											
国際文化の視点	2	2	30							生活支援看護学概論：精神	1	15											
人権問題論 A	2	2	30							生活支援論：老年 I	1	15											
科学の歴史	2	2	30							生活支援論：老年 II	1	30											
日本文化学	2	2	30							生活支援論：在宅 I	1	15											
比較文化社会論	2	2	30							生活支援論：在宅 II	1	30											
宗教の諸相	2	2	30							生活支援論：精神 I	1	15											
スポーツと社会	2	2	30							生活支援論：精神 II	1	30											
社会に生きる科学	2	2	30							生活支援看護学実習：老年	3		45										
暮らしと法律	2	2	30							生活援助実習	1		90										
変容する社会と社会学	2	2	30							生活支援看護学実習：在宅	2		90										
人間学入門	2	2	30							生活支援看護学実習：精神	2		90										
地域文化学	2	2	30							保健師 科 目	2	30											
環境・生命・倫理	2	2	30							公衆衛生看護学概論	2	30											
臨床心理学への招待	2	2	30							公衆衛生看護学 I	2	30											
世界の文学	2	2	30							公衆衛生看護学 II	2	60											
現代日本の政治と経済	2	2	30							公衆衛生看護学 III	2	60											
数学の視点	2	2	30							保健医療福祉行政論	2	30											
暮らしと政治	2	2	30							公衆衛生看護学実習	5		225										
生命環境科学入門	2	2	30							家族支援看護学概論：母性	1	15											
造形と生活	2	2	30							家族支援看護学概論：小児	1	15											
文字情報の伝達と文化	2	2	30							家族看護論	2	30											
障害者と心理	2	2	30							家族支援論：母性 I	1	15											
近代を問う	2	2	30							家族支援論：母性 II	1	30											
現代のドイツ	2	2	30							家族支援論：小児 I	1	15											
中国古典文学への招待	2	2	30							家族支援論：小児 II	1	30											
音楽と生活	2	2	30							家族支援看護学実習：母性	2		90										
世界遺産と文芸	2	2	30							家族支援看護学実習：小児	2		90										
からだところの科学	2	2	30							助産師 科 目	1	15											
科学と芸術と人生	2	2	30							基礎助産学	1	15											
スポーツの構造	2	2	30							助産診断技術学 I	1	30											
歴史を学ぶとは	2	2	30							助産診断技術学 II	4	120											
公共性と自由	2	2	30							助産管理	1	15											
問題群としての社会	2	2	30							助産学実習	10		450										
大阪府立大学の歴史	2	2	30							研究方法論	1	15											
英語学への招待	2	2	30							総合研究	2		90										
環境学と社会科学への招待	2	2	30							国際保健	1	15											
自然環境学概論	2	2	30							災害支援看護論	1	15											
										セクシュアリティと看護	1	15											
										看護援助論	1	15											
										総合実習	2		90										

※自由選択枠科目：共通教育科目の所要単位を超えて修得した単位並びに他学類又は他学域が開設する専門科目のうち自由選択枠科目として別に定める科目。

資料 5-1-1-2 看護学部 卒業要件 授業科目一覧 (3年次生・4年次生用)

卒業要件単位	科 目			
	共通教育科目	12	18	30
	専門支持科目	23	1	24
	専門科目	72	2	74
	計	107	21	128

区分	授 業 科 目					卒業要件単位	卒業要件	区分	授 業 科 目					卒業要件単位	卒業要件
	授業科目名	必修	選択	講義	演習				実習	領域	授業科目名	必修	選択		
共	教養科目						30 単位以上 (必修科目 12単位+ 選択科目 18単位以上)	専	解剖生理学Ⅰ	2			60		24 単位以上 (必修科目 23単位+ 選択科目 1単位以上)
	生命倫理学	2		30					解剖生理学Ⅱ	2			60		
	基礎科目								生化学	1			30		
	・健康・スポーツ科学科目								病理学	1	30				
	健康・スポーツ科学演習Ⅰ	2		30					疾病論Ⅰ	1		30			
	健康・スポーツ科学演習Ⅱ	2		30					疾病論Ⅱ	1		30			
	・外国語科目(英語を除く)								疾病論Ⅲ	1		30			
	中国語初級AⅠ(基礎)	2	30						疾病論Ⅳ	1		30			
	中国語初級AⅡ(基礎)	2	30						医療遺伝学	1		30			
	朝鮮語初級AⅠ(基礎)	2	30						微生物学	1		30			
朝鮮語初級AⅡ(基礎)	2	30				薬理学	1		30						
・一般情報科目						栄養学総論	1		30						
情報基礎AⅠ	2	2	30			疫学	2		30						
情報基礎AⅡ	2		30			保健統計学	1		30						
・外国語科目(英語)						医療と社会福祉学	1		30						
英語AⅠ	2		30			コミュニケーション論	1		30						
英語AⅡ	2		30			医療と法	1	30							
英語DⅠ	2		30			チーム医療論	2		30						
英語DⅡ	2		30			公衆衛生学	1		30						
(1年次中百舌鳥開講科目・水曜日分)						カウンセリング論		1	15						
教養科目						臨床心理学		1	30						
健康・スポーツ科学概論	2	30				家族社会学									
哲学と思考	2	30													
生物と人間	2	30													
科学と文化	2	30													
哲学と人生	2	30													
科学の歴史	2	30													
数理学のトピックス	2	30													
環境学と社会科学への招待	2	30													
ゼミナール科学と文化	2	30													
比較文学の世界	2	30													
文学と社会	2	30													
環境・生命・倫理	2	30													
自然科学への招待	2	30													
現代日本の政治と経済	2	30													
医療と社会	2	30													
医療と心理学	2	30													
自然における右と左の関係	2	30													
歴史学の現在	2	30													
世界の文学	2	30													
生命環境科学研究の最前線	2	30													
総合教養科目「近代を問う」	2	30													
ジェンダー論への招待	2	30													
数学的手法	2	30													
現代社会と障害	2	30													
現代文化論	2	30													
「大学」を学ぶ-大阪府立大学史への誘い-	2	30													
人間学入門	2	30													
法と社会	2	30													
問題群としての社会	2	30													
文学の基礎	2	30													
障がい者と心理	2	30													
造形と生活	2	30													
ゼミナール日本文学の世界	2	30													
ゼミナール現代文化論	2	30													
憲法	2	30													
暮らしと法律	2	30													
人権問題論A	2	30													
美術史学入門	2	30													
変容する社会と社会学	2	30													
情報とは何か	2	30													
国際文化の視点	2	30													
ゼミナール教養のための読書サロ	2	30													
現代のドイツ	2	30													
暮らしと経済	2	30													
ゼミナール鑑賞と研究	2	30													
コミュニケーションの諸相と文化	2	30													
比較文化社会論	2	30													
スポーツと臨床心理	2	30													
からだの科学	2	30													
音楽と生活	2	30													
ゼミナール哲学と思考	2	30													
ゼミナール現代思想入門	2	30													
ゼミナール変容する社会と社会学	2	30													
ゼミナール数理学	2	30													
基礎科目															
・外国語科目(英語を除く)															
ドイツ語初級AⅠ(基礎)	2	30													
ドイツ語初級AⅡ(基礎)	2	30													
フランス語初級AⅠ(基礎)<B組>	2	30													
フランス語初級AⅡ(基礎)<B組>	2	30													

1年次中百舌鳥開講科目・水曜日分以外にも他の科目を修得すれば単位認定できる。(自由選択枠等)

## 2) 大学院課程

看護学研究科では、大阪府立大学大学院看護学研究科規程（規程第 61 号第 3 条）に基づき、専攻領域及び分野を定めている。また、平成 25 年度に「看護学研究科の教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）」（資料 5-1-2-1）を作成した。

### 資料 5-1-2-1 看護学研究科教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

#### 看護学研究科の教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

看護学研究科では、以下の方針に基づいて教育課程を構成する。

##### ●博士前期課程

1. 修士論文コースと専門看護師コースにおいて、専門分野における教育研究能力あるいは高度に専門的な実践能力を有する人材を育成する。
2. 高度な看護実践・研究・教育の基盤となる幅広い学識を養うため、基盤教育と専門教育を区分した体系的な教育課程を編成する。
3. 基盤教育においては、コースおよび専門分野を横断した教育研究能力を修める科目を設置する。
4. 専門教育においては、講義、演習、実習を通じて高度な専門的能力を養成する。なお、専門看護師コースには、資格認定のために必要な科目を設置する。
5. 主指導教員と副指導教員による複数教員指導体制のもとで、看護実践に貢献できる修士論文または課題研究の研究指導を行う。
6. 社会人等のニーズに応えるため、特定の分野において長期履修制度を設け、修業年限の弾力化を図る。

##### ●博士後期課程

1. 生活支援看護学領域と療養支援看護学領域において、学術研究を推進しその深奥を究め、自立して研究活動を行うことができる能力を有する人材を育成する。
2. 学際的・国際的な視野に立つ豊かな学識を養うため、基盤教育と専門教育を区分した体系的な教育課程を編成する。
3. 基盤教育においては、関連学問領域の知識・理論・技術を踏まえた諸理論や研究方法論を修める科目を設置する。
4. 専門教育においては、主指導教員と副指導教員による複数教員指導体制のもとで、看護実践および看護学の体系化に貢献できる博士論文の研究指導を行う。

博士前期課程は、人間の存在と生命の尊厳について深く理解し、広い視野に立って精深なる学識を修め、専門分野における教育研究能力、あるいは高度に専門的な実践能力を有する人材を育成することを目的とし、「人・環境支援看護学」「家族支援看護学」「生活支援看護学」「療養支援看護学」の 4 つの専門領域に修士論文コース、「家族支援看護学」「生活支援看護学」「療養支援看護学」の 3 つの専門領域に 11 分野の専門看護師(CNS)コースを設置している。CNS コースは、平成 24 年度に「感染看護」「がん看護」「クリティカルケア看護」「小児看護」「慢性看護」が、平成 25 年度に「精神看護」が 38 単位へ移行した。さらに、職業を有している等の事情により、標準修学年限（博士前期課程 2 年）の大学院の教育課程の履修が困難な学生を対象に、標準修業年限を超えて計

画的に教育課程を履修できる長期履修制度を設置している。教育課程の編成は、教育研究能力を修める「基盤教育科目」と、専門的な実践能力を習得する「専門教育科目」からなる（資料5-1-2-2）。「基盤教育科目」は、「理論看護学」「看護学研究法」等の必修科目、「調査研究処理法」「医療社会福祉学」等の選択科目、「専門教育科目」は専攻領域ごとの特論・演習・実習・研究で構成している。

博士後期課程は、豊かな学識を有し、看護学分野において学術研究を推進しその深奥を究め、自立して研究活動を行うことができる能力を有する人材を育成することを目的とし、「生活支援看護学」「療養支援看護学」の2つの専門領域を設置している。教育課程の編成は、「基盤教育科目」と「専門教育科目」からなり（資料5-1-2-3）、「基盤教育科目」は「看護学研究方法論」の必修科目、「生体科学研究方法論」「健康科学研究方法論」「看護理論開発方法論」等の選択科目、「専門教育科目」は専攻領域ごとの特論・演習・研究で構成している。

資料 5-1-2-2 看護学研究科 博士前期課程 標準履修課程表

区	領域	分野	授業科目	修論コース		CNSコース		授業時間数			学年進行						
				単位数		単位数		講義	演習	実習	1年次		2年次				
				必修	選択	必修	選択				前期	後期	前期	後期			
基盤教育			理論看護学	2	2	2	30				○						
			看護学研究法	2	2	2	30				○						
			看護倫理学	1	2	2	30				○						
			看護政策学	1	1	1	15					○					
			コンサルテーション論	1	1	1	15					○					
			病態生理学	2	2	2	30					○					
			代謝病態生理学	2	2	2	30					○					
			臨床薬理学	2	2	2	30					○					
			臨床疾病治療論	2	2	2	30					○					
			フィジカルアセスメントⅠ	2	2	2	30			30		○					
			フィジカルアセスメントⅡ	2	2	2	30			30		○					
			調査研究処理法Ⅰ	2	2	2	30					○					
			調査研究処理法Ⅱ	2	2	2	30					○					
			医療社会福祉学	2	2	2	30					○					
			臨床生心理学	2	2	2	30					○					
			生体情報論	2	2	2	30					○					
			生体感染防衛論	2	2	2	30					○					
			臨床遺伝学	2	2	2	30					○					
			家族看護学	2	2	2	30					○					
			*共通特論Ⅰ(腫瘍病態生物学)	2	2	2	30					○					
			*共通特論Ⅱ(臨床腫瘍学総論)	2	2	2	30					○					
			専門教育	人・環境支援看護学		看護技術学特論Ⅰ	2	2	2	30				○			
						看護技術学特論Ⅱ	2	2	2	30				○			
						看護技術学演習Ⅰ	2	2	2	60					○		
						看護技術学演習Ⅱ	2	2	2	60					○		
						看護技術学特別研究	6	2	2	60			180			○	○
						看護情報学特論Ⅰ	2	2	2	30					○		
						看護情報学特論Ⅱ	2	2	2	30					○		
						看護情報学演習Ⅰ	2	2	2	60					○		
						看護情報学演習Ⅱ	2	2	2	60					○		
						看護情報学特別研究	6	2	2	60			180			○	○
						看護管理学特論Ⅰ	2	2	2	30					○		
						看護管理学特論Ⅱ	2	2	2	30					○		
						看護管理学演習Ⅰ	2	2	2	60					○		
看護管理学演習Ⅱ	2	2				2	60					○					
看護管理学特別研究	6	2				2	60			180			○	○			
看護教育学特論Ⅰ	2	2				2	30					○					
看護教育学特論Ⅱ	2	2				2	30					○					
看護教育学演習Ⅰ	2	2				2	60					○					
看護教育学演習Ⅱ	2	2				2	60					○					
看護教育学特別研究	6	2				2	60			180			○	○			
専門教育	家族支援看護学					母性看護学特論	2	2	2	30				○			
						母性看護学援助特論	2	2	2	30					○		
						リブ・オブ・リブ・ヘルスケア演習ⅠA	2	2	2	60					○		
						リブ・オブ・リブ・ヘルスケア演習ⅠB	2	2	2	60					○		
			リブ・オブ・リブ・ヘルスケア演習ⅡA	2	2	2	60					○					
			リブ・オブ・リブ・ヘルスケア演習ⅡB	2	2	2	60					○					
			周産期看護演習ⅠA	2	2	2	60					○					
			周産期看護演習ⅠB	2	2	2	60					○					
			周産期看護演習ⅡA	2	2	2	60					○					
			周産期看護演習ⅡB	2	2	2	60					○					
			母性看護学実習	6	2	2	270						○	○			
			周産期看護学実習	6	2	2	270						○	○			
			母性看護学課題研究	6	2	2	60						○	○			
			母性看護学特別研究	6	2	2	60			180			○	○			
			家族看護学特論	2	2	2	30					○					
			家族看護学援助特論Ⅰ	2	2	2	30					○					
			家族看護学援助特論Ⅱ	2	2	2	30					○					
			家族看護学演習ⅠA	2	2	2	60					○					
			家族看護学演習ⅠB	2	2	2	60					○					
			家族看護学演習ⅡA	2	2	2	60					○					
			家族看護学演習ⅡB	2	2	2	60					○					
			家族看護学実習	6	2	2	270						○	○			
			家族看護学課題研究	6	2	2	60						○	○			
			家族看護学特別研究	6	2	2	60			180			○	○			
専門教育	小児看護学		小児看護学特論	2	2	2	30				○						
			小児看護学援助特論Ⅰ	2	2	2	30					○					
			小児看護学援助特論Ⅱ	2	2	2	30					○					
			小児看護学援助特論Ⅲ	2	2	2	30					○					
			小児看護学演習ⅠA	2	2	2	60					○					
			小児看護学演習ⅠB	2	2	2	60					○					
			小児看護学演習ⅡA	2	2	2	60					○					
			小児看護学演習ⅡB	2	2	2	60					○					
			小児看護学実習Ⅰ	8	2	2	360						○	○			
			小児看護学実習Ⅱ	8	2	2	360						○	○			
			小児看護学課題研究	6	2	2	60						○	○			
			小児看護学特別研究	6	2	2	60			180			○	○			
			専門教育	在宅看護学		在宅看護学特論	2	2	2	30				○			
						在宅看護学援助特論Ⅰ	2	2	2	30					○		
						在宅看護学援助特論Ⅱ	2	2	2	30					○		
						在宅看護学援助特論Ⅲ	2	2	2	30					○		
						在宅看護学演習ⅠA	2	2	2	60					○		
						在宅看護学演習ⅠB	2	2	2	60					○		
						在宅看護学演習ⅡA	2	2	2	60					○		
						在宅看護学演習ⅡB	2	2	2	60					○		
						在宅看護学実習Ⅰ	6	2	2	270						○	○
						在宅看護学実習Ⅱ	4	2	2	180						○	○
						在宅看護学課題研究	6	2	2	60						○	○
						在宅看護学特別研究	6	2	2	60			180			○	○
専門教育	急性看護学					急性看護学特論	2	2	2	30				○			
						急性看護学援助特論Ⅰ	2	2	2	30					○		
						急性看護学援助特論Ⅱ	2	2	2	30					○		
						急性看護学演習ⅠA	2	2	2	60					○		
						急性看護学演習ⅠB	2	2	2	60					○		
						急性看護学演習ⅡA	2	2	2	60					○		
						急性看護学演習ⅡB	2	2	2	60					○		
						急性看護学実習Ⅰ	6	2	2	270						○	○
						急性看護学実習Ⅱ	4	2	2	180						○	○
						急性看護学課題研究	6	2	2	60						○	○
						急性看護学特別研究	6	2	2	60			180			○	○
						専門教育	慢性看護学		慢性看護学特論	2	2	2	30				○
			慢性看護学援助特論Ⅰ	2	2				2	30					○		
			慢性看護学援助特論Ⅱ	2	2				2	30					○		
			慢性看護学演習ⅠA	2	2				2	60					○		
			慢性看護学演習ⅠB	2	2				2	60					○		
			慢性看護学演習ⅡA	2	2				2	60					○		
			慢性看護学演習ⅡB	2	2				2	60					○		
			慢性看護学実習Ⅰ	6	2				2	270						○	○
			慢性看護学実習Ⅱ	2	2				2	90						○	○
			慢性看護学実習Ⅲ	2	2				2	90						○	○
			慢性看護学課題研究	6	2				2	60						○	○
			慢性看護学特別研究	6	2				2	60			180			○	○
			専門教育	がん看護学					がん看護学特論	2	2	2	30				○
がん看護学援助特論	2	2							2	30					○		
がん緩和ケア論	2	2							2	30					○		
がん薬物療法看護論	2	2							2	30					○		
がん看護学演習ⅠA	2	2							2	60					○		
がん看護学演習ⅠB	2	2							2	60					○		
がん看護学演習ⅡA	2	2							2	60					○		
がん看護学演習ⅡB	2	2							2	60					○		
*職種横断的「ナース」演習	1	1							1	15						○	
*SPを用いた職種横断的臨床課題演習	1	1							1	15						○	
がん看護学実習Ⅰ	6	2							2	270						○	○
がん看護学実習Ⅱ	2	2							2	90						○	○
がん看護学実習Ⅲ	2	2				2	90						○	○			
がん看護学課題研究	6	2				2	60						○	○			
がん看護学特別研究	6	2				2	60			180			○	○			
専門教育	感染症看護学					感染症看護学特論	2	2	2	30				○			
						感染症看護学援助特論	2	2	2	30					○		
						感染症看護学演習ⅠA	2	2	2	60					○		
						感染症看護学演習ⅠB	2	2	2	60					○		
						感染症看護学演習ⅡA	2	2	2	60					○		
						感染症看護学演習ⅡB	2	2	2	60					○		
						感染症看護学実習Ⅰ	6	2	2	270						○	○
						感染症看護学実習Ⅱ	4	2	2	180						○	○
						感染症看護学課題研究	6	2	2	60						○	○
			感染症看護学特別研究	6	2	2	60			180			○	○			

「[ ]」付き科目については、がんプロフェッショナル養成プランがん専門看護師養成コース開講科目のため、がん看護分野CNSコース以外の者は受講を申請することができない。

資料 5-1-2-3 看護学研究科 博士後期課程 標準履修課程表

区分	領域	授業科目	単位数		授業時間数		1年次		2年次		3年次	
			必修	選択	講義	演習	前期	後期	前期	後期	前期	後期
基盤教育		看護学研究方法論	2		30		○					
		看護学研究方法論演習		1	30		○					
		生体科学研究方法論		1	15		○					
		健康科学研究方法論Ⅰ		1	15		○					
		健康科学研究方法論Ⅱ		1	15			○				
		看護理論開発方法論		1	15			○				
専門教育	生活支援看護学	看護技術・情報学特論		2	30		○					
		看護技術・情報学演習		2	60			○				
		看護管理・教育学特論		2	30		○					
		看護管理・教育学演習		2	60			○				
		母子健康看護学特論		2	30		○					
		母子健康看護学演習		2	60			○				
		家族健康看護学特論		2	30		○					
	家族健康看護学演習		2	60			○					
	地域・精神看護学特論		2	30		○						
	地域・精神看護学演習		2	60			○					
	在宅・老年看護学特論		2	30		○						
	在宅・老年看護学演習		2	60			○					
		生活支援看護学特別研究		6		270			○	○	○	
	療養支援看護学	急性療養看護学特論		2	30		○					
		急性療養看護学演習		2	60			○				
慢性療養看護学特論			2	30		○						
慢性療養看護学演習			2	60			○					
がん療養看護学特論			2	30		○						
がん療養看護学演習			2	60			○					
	感染療養看護学特論		2	30		○						
	感染療養看護学演習		2	60			○					
	療養支援看護学特別研究		6		270			○	○	○		

## 2. 教育方法

### 1) 学士課程

授業形態は、学習効果を上げるために、「教養科目・基盤科目」「専門支持科目」（平成24年度以降の入学生からは「専門基礎科目」）は講義・演習、「専門科目」は講義・演習・実習で構成している。具体的な授業形態および指導形態の例として、「情報基礎」ではコンピュータを使用して情報処理の演習を行い、「解剖生理学Ⅰ、Ⅱ」ではビジュランを活用して授業を行っている。各領域の「支援論」などにおいては、少人数による対話・討論型授業を行っている。臨地実習では、病院、老人保健施設、保健所、市町村保健センターなどの様々なフィールド型実習を行っている。さらに、平成17年度に採択された文部科学省による現代的教育ニーズ取り組み支援プログラム「看護実践能力の獲得を支援するeラーニング」の教材を授業や実習に活用し、学習指導法を工夫している。

教育の目的に応じた成績評価基準は、大阪府立大学履修規程（規程第78号第12条 [http://www.osakafu-u.ac.jp/info/about/kitei/reiki\\_honbun/ax94001481.html](http://www.osakafu-u.ac.jp/info/about/kitei/reiki_honbun/ax94001481.html)）、各科目の成績評価基準は、学生必携の授業科目概要に記載している。授業科目および臨地実習の成績評価および単位認定は、各科目の単位認定者が基準に従って実施している。成績評価に関する学生からの異議申し立ては、学生個人から学生グループ学部教務担当または当該科目担当教員に、口頭もしくは書面で行われている。卒業要件基準は、大阪府立大学看護学部規程に則り（規程第54号第8条）、平成24年度以降の入学生は卒業要件128単位、必修単位116単位、平成22～23年度入学生は卒業要件128単位、必修単位107単位としている。これは、平成22～23年度に入学した学士課程の卒業者に、看護師および保健師の国家試験受験資格を与えるためである。平成24年度以降の入学生に対しては助産師に加え保健師も選択制となり、助産師国家試験受験資格の取得を希望する学生に対しては、14単位（平成24年度以降の入学生からは17単位）の助産科目・助産師科目を、保健師国家試験受験資格の取得を希望する学生に対しては、11単位の保健師科目を開設している。また、平成24年度以降の入学生から、養護教諭一種免許状取得のための科目を開設している。入学前の既修得単位の認定は、大阪府立大学学則（規程第47号第36条）に則り、新入学者に対しては、本学入学前に他大学等で修得した科目は個別に審査し、卒業要件単位に認定している。2年次編入の教養科目は生命倫理学以外の教養科目28単位を上限として個別に審査し、卒業要件単位に認定している。卒業認定は、卒業要件に照らし合わせて教授会議で行っている。

### 2) 大学院課程

博士前期課程の授業形態および指導形態は、修士論文コースでは講義・演習、専門看護師（CNS）コースでは講義・演習・実習で構成され、少人数教育を基本としている。講義では質疑応答を含めた対話・討論型授業、演習では情報機器の活用や実験、演習及び実習ではフィールド型授業などを行っている。さらに、学部（学類）の授業におけるティーチングアシスタント（TA）としての活動を通して、教育能力を高められるようにしている。

研究指導は、博士前期課程、博士後期課程ともに複数指導教員体制のもとで行い、主指導教員はテーマの選定及び研究方法の検討から論文作成までのすべてのプロセスを直接指導している。副指導教員は主指導教員と緊密な連携を取りつつ、指導に当たっている。論文審査のプロセスとして、博士前期課程では、研究テーマおよび研究計画書を研究科会議で審査し、研究倫理委員会の審査を経て、再度、研究科会議で最終承認する。修士論文・課題研究論文の審査は、研究科会議で選出された主査1名と副査2名以上で行い、研究科会議で最終承認を行う。博士後期課程では、研究テーマおよび研究計画書を研究科会議で審査し、研究倫理委員会の審査を経て、再度、研究科会議で最終承認する。2年次には中間報告を行い、教員および他の大学院生の意見を広く求め、研究能力を育成する場としている。博士論文の審査は、研究科会議の全教員で行う予備審査、研究科会議で選出された主査1名と副査2名以上で行う本審査を経て、研究科会議で最終承認を行う。

修了要件及び成績評価基準は、大阪府立大学大学院看護学研究科規程（規程第61号第10条、第15条）に則り、成績評価及び単位認定は、各科目の単位認定者が基準に従って実施し、修了認定は、研究科会議の議を経て学長が行っている。成績評価に関する学生からの異議申し立ては、学生個人から当該科目担当教員または学生グループ教務担当に、口頭もしくは書面で行われている。

また、「看護学研究科の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）」（資料5-2-2）を平成24年度に制定した。

#### 資料5-2-2 看護学研究科の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

##### 看護学研究科の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

###### ●博士前期課程

1. 看護専門領域に関する理論への精通および研究の批判的吟味により、質の高い看護ケアが実践できる能力を修得している。
2. 看護専門領域に関する研究に取り組み、看護研究能力を修得している。
3. 高い倫理観を持ち、複雑な倫理的問題を判断し、調整できる能力を修得している。
4. 看護実践・研究・教育を通して国際社会に貢献できる能力を修得している。

###### ●博士後期課程

1. 看護実践の改革を目指し、専門性の高い看護ケアを開発できる能力を修得している。
2. エビデンスに基づく看護実践、関連領域の知識・研究を用いて、研究活動、看護活動を行い、看護学の発展に寄与できる能力を修得している。
3. 保健・医療・福祉及び社会の諸変化に対応できる指導的・管理的リーダーシップを発揮できる能力を修得している。
4. 学際的・国際的な視野に立ち、学術交流、研究活動、保健医療活動に貢献できる能力を修得している。

### 3. その他

#### 1) 7大学連携先端的がん教育基盤創造プラン

大阪府立大学大学院看護学研究科は、近畿大学、大阪市立大学、神戸大学、兵庫医科大学、神戸市看護大学、関西医科大学の看護・医学・薬学系大学院研究科とともに、平成23年度に文部科学省に「7大学連携先端的がん教育基盤創造プラン」を共同申請し、採択された。本プロジェクトは平成24年度から平成28年度にかけての5年間で、高度ながん医療と研究を実践できる人材育成の基盤整備をするための取り組みであり、がん教育拠点の構築のために、教育改革部門、地域連携部門、研究者養成部門の3部門を設置し、組織での連携教育を行っている。

本学研究科では、高度ながん看護を実践できるがん看護専門看護師を育成する基盤整備を行っている。高度な看護実践で経験する多様な病態・状況に対応できる能力の育成を目的として、臨床薬理学、病態生理学、フィジカルアセスメントの基盤教育科目を研究科として新たに設置した。また、専門教育科目としてがん緩和ケア論、がん薬物療法看護論を新たに設け、疾患・治療に伴う症状や、心理・社会・霊的側面をアセスメントする能力の向上と患者のセルフケア能力向上のための方略についての教育内容を強化した。これらの知識を基盤としてがん



患者を包括的にアセスメントすること、エビデンスに基づいたケアを対象の状況に合わせて提供することができるようになることを目指している。

また本学研究科における企画として、事例検討会と研究抄読会を開催している。事例検討会の開催は月1回程度、1回約2時間で、専門的な看護実践について事例を用いて討議を行うとともに、専門看護師としての専門的な看護実践の遂行および役割開発についての講義を行い、実践の場ではがん看護専門看護師として役割遂行するための能力の発展を目指している。研究抄読会の開催は隔月、1回約3時間程度で、研究発表や文献クリティーク等を行い、研究の活用や研究を遂行する能力の発展を目指している。これらの企画の参加者は教員（教授、准教授、助教）や大学院後期課程学生、大学院前期課程がん看護専門看護師コース修了生および在学生である。

## 第6章 学生支援

### 1. 学習支援

#### 1) 学士課程

看護学部（看護学類）では、「教養科目・基盤科目」、「専門支持科目」（平成24年度以降の入学生からは「専門基礎科目」）、「専門科目」に属する科目群を有機的に連携させて学習効果を上げることを目指した授業科目概要を作成している。授業科目概要の構成は、担当者や配当年次、開講時期などの基本的な情報と、授業目標、授業の概要、試験・成績評価等の項目からなり、これらの定型化された書式に従って各教員が作成している。学習支援として、入学時および年度当初には履修ガイダンスを行い、成績評価基準、卒業認定基準、授業科目概要等を記載した学生必携を学生全員に配布し、履修指導を行っている。また、選考に基づき助産科目又は保健師科目（平成24年度入学生から）を履修することができ、その説明を入学時と3年次に実施している。さらに、学生が学習相談のために来室あるいはメールによる質問・相談ができるよう、授業科目概要には、授業科目ごとに、教員のオフィスアワーおよびメールアドレスを記載している。国家試験対策としては、教員のアドバイスのもと4年次の学生の代表が中心となって、国家試験の模擬試験を年7回（看護師3回、保健師2回、助産師2回）実施している。

学生の自主的学習を支援する環境は、羽曳野図書センター、情報科学演習室・視聴覚室、自習室（ラーニングコモンズ）等の施設整備に加え、携帯型のマルチメディア端末を用いたデジタル教材などを整備している。羽曳野図書センターの開館時間は、平日8時30分～21時（授業のない日は9時～19時）、土曜日10時30分～19時で、AVブース・AV機器を備えたグループ学習室等を使用することができる。さらに、看護に関する蔵書は日本でもトップクラスであり、他大学図書館との相互利用サービス、データベース・サービス等も充実している。図書館のガイダンスは、新入生および新採用教員へ年度当初に行うとともに、利用についても案内・周知している。情報科学演習室・視聴覚室は、基本的には授業時間を除く平日9時～20時に開放し、パソコンは情報科学演習室50台、視聴覚室22台を整備している。看護技術習得のためには、学内での各専門分野に応じた実習室を整備している。

学生相談を含む学生生活全般への支援は、1～3年次生13～15名に2名の教員、4年次生には総合研究を担当する教員が、アドバイザーとして履修上・生活上の問題について継続的に支援を行うアドバイザー制度がある。アドバイザーは、交流会・ミーティングの開催、メール配信や電話による状況把握、面接・個人指導の他、単位の実質化を推進するための指導等を行っている（資料6-1-1）。

資料6-1-1 アドバイザーグループ活動の状況

項目	平成23年度 (グループ数：29)	平成24年度 (グループ数：29)	平成25年度 (グループ数：27)
交流会・ミーティングの開催	21G (のべ31回)	21G (のべ37回)	25G (のべ37回)
メール配信による状況把握	27G	26G	23G
電話による状況把握	1G	2G	0G
面接・個人指導	26G	28G	26G
名簿・連絡先等の配布	19G	17G	13G
期末試験結果の把握	23G	26G	25G
家族への連絡・家族との相談	2G	3G	2G
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループ写真配布 1G</li> <li>・バイク通学申請の承認 2G</li> <li>・実習担当教員との情報交換 1G</li> <li>・提出書類未提出者への緊急連絡 1G</li> <li>・中百舌鳥の臨床心理士への相談 1G</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バイク通学申請の承認 9G</li> <li>・提出書類未提出者への緊急連絡 2G</li> <li>・長期休暇前の注意喚起 2G</li> <li>・学外での交流会 1G</li> <li>・推薦状の記載 1G</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バイク通学申請の承認 14G</li> <li>・長期休暇前の注意喚起 10G</li> <li>・推薦状の記載・作成指導 2G</li> <li>・進路相談 1G</li> <li>・就職相談 1G</li> <li>・メール配信による休暇中の注意喚起 1G</li> <li>・保護者を含めた面接 1G</li> <li>・保護者とのメール・電話相談 1G</li> </ul>
活動なし(4月当初のオリエンテーション期間の活動のみ)	7G	0G	0G

羽曳野キャンパス学内団体・サークルとしては、体育系11、文化系11の計22団体が活動している。学内団体・サークルは、自治会が交付する活動資金により活動し、教員が必ず顧問として関わるほか、教授会議がサークルの新規申請を承認する前に、学生委員会で活動内容の妥当性について検討している。平成25年度は、文化系2団体の新規登録が承認された。サークル室は、図書厚生棟3階に整備しており、学内で施設を利用する場合は所定の書式で申請することにより、ほぼ全面的な施設利用が認められている。自治会活動に対する支援としては、集会室を図書厚生棟3階に整備し、活動資金は入学時に徴収される自治会費に加えて、後援会からの交付金に基づいている。

また、学習支援に関する学生のニーズをより詳細に把握するために、「学生提案箱・BOX21」を学生の目につきやすい事務所入口に設置し、投函された意見は、月1回学生グループ長が開封している。さらに、WEB学生サービスセンター(WEBSC)では、WEBSCサイトに「Web提案箱」を設置し、提案した学生に当日中に返信するとともに、寄せられた意見・提案および対応内容をWEBSCサイトで紹介している。平成25年度の学生提案箱への意見は2件、Web提案箱への意見は3件であった。その他、随時アドバイザーから、学生委員長、教務委員長、学部長(学類長)等へ、学生のニーズに関する情報を報告している。

## 2) 大学院課程

看護学研究科では「基盤教育科目」と「専門教育科目」に属する科目群を有機的に連携させて学習効果をあげることを目指した授業科目概要を作成している。授業科目概要の構成は、担当者や配当年次、開講時期などの基本的な情報と、授業目標、授業の概要、試験・成績評価等の項目からなり、これらの定型化された書式に従って各教員が作成している。学習支援として、入学時および年度当初には履修ガイダンスを行い、成績評価基準、修了認定基準、授業科目概要等を記載した学生必携を学生全員に配布し、履修指導を行っている。さらに、学生が学習相談のために来室あるいはメールによる質問・相談ができるよう、授業科目概要には、授業科目ごとに、教員のオフィスアワーおよびメールアドレスを記載している。

学生の自主的学習を支援する環境は、羽曳野図書館センター、情報科学演習室・視聴覚室のほか、看護学研究科大学院自習室、17台のパソコンを設置した大学院棟内情報処理室を整備している。

なお、学習支援に関する学生のニーズをより詳細に把握するための方法は、看護学部（看護学類）同様である。

## 2. 生活支援

看護学部（看護学類）および看護学研究科では、学生の生活や就職、経済面での援助に関する支援のほか、特別な配慮が必要な学生への支援やハラスメントに関する支援を行っている。

学生の健康相談は、保健室に配置された看護師1名が常勤で対応している。さらに、外科、産婦人科、精神科・心療内科の3名の学校医、内科の産業医1名との契約を結び、学生の健康管理と受診対応の体制をとっている。心理的問題に対応できる体制として羽曳野キャンパスカウンセリングルームでは、専門のカウンセラーによる対面相談のほか、WEB学生サービスセンター（WEBSC）所属の専門カウンセラーによるテレビ電話を用いた電話相談で対応している。平成25年度の年間相談件数（実数）は、対面相談27件、電話相談0件であった。

学士課程の進路相談に関しては、年間5回の就職ガイダンスを計画的に実施している。さらに、大阪府立病院機構説明会の開催、4年次の希望学生を対象にした就職の模擬面接等を実施している。平成25年度の模擬面接は4月と7月に実施し、参加者は合計67名であった。

奨学金制度および授業料減免は、学生ガイダンス、学生生活の手引、掲示板やパンフレットにおいて周知し、より詳細な情報を必要とする学生からの問い合わせや相談は、学生グループにおいて対応している。平成25年度の奨学金の採用数は、学部（学類）生64名、大学院生7名の合計71名であり、うち日本学生支援機構奨学金では、第一種（無利子）、第二種（有利子）合わせて学部（学類）生57名、大学院生6名が採用された。

外国人留学生には、奨学金制度や授業料減免制度が外国人留学生枠で設けられている。アドバイザー制度により、外国人留学生寮の紹介・調整、アルバイトや書類手続き時のアドバイスなど、生活の支援体制を整備している。さらに、教員、先輩学生各1名で構成するチューター制度では、外国人留学生に対する学習支援体制も整備している。担当する先輩学生（チューター）は、学生委員会により選出され、一定の費用が支払われる。平成25年度の外国人留学生数は1名である。その他、特別な支援を行うことが必要と考えられる者は、現在のところ在学していない。

各種ハラスメントに関する支援は、公立大学法人大阪府立大学ハラスメントの防止等に関する規程（規程第29号 [http://www.osakafu-u.ac.jp/info/about/kitei/reiki\\_honbun/ax94000601.html](http://www.osakafu-u.ac.jp/info/about/kitei/reiki_honbun/ax94000601.html)）に則り、相談・助言体制を整備し、機能している。

なお、生活支援に関する学生のニーズをより詳細に把握するための方法は、学習支援と同様であり、学生の実情とニーズを把握したうえで、対処方法を回答している。

## 第7章 教育の成果と教育の質の向上及び改善のためのシステム

### 1. 評価

#### 1) 学生による評価

##### (1) 授業評価アンケートによる学生の評価

学生による授業評価および学習環境や履修指導についての意見聴取および同データの公開は、Webによるポータルを用いて年2回定期的実施している。授業評価や意見聴取した内容は、今後の授業方法の検討に活用されることを意図して担当科目の教員にフィードバックしている。平成21年度に看護学部の授業評価アンケート実施科目のリストを作成し、以降毎年更新している。なお、平成24年度入学生から地域保健学域看護学類の所属となり、学生による実習の目標設定と自己評価を中心とした学習教育・支援サイト（ポートフォリオ）が導入された。半期ごとの目標設定と授業科目単位での学習自己評価（授業振り返り）を入力する本システムを通じて、授業評価アンケートも実施した。

授業評価アンケートの学生への周知については、実施期間中に講義等において、学生に回答を求める呼びかけを行い、アンケートへの回答を促す啓発ポスターを掲示した。その結果、看護学類前期アンケート回答率28.06%、後期アンケート回答率9.22%、看護学部前期アンケート回答率0.22%、後期アンケート回答率0%、看護学研究科前期アンケート回答率9.09%、後期アンケート回答率0%であった。

学習教育・支援サイトの導入により、看護学部と比較して看護学類のアンケート回答率は改善されたが、今後も学生がポータル入力しやすい環境整備を行うとともに、授業評価アンケートの意義についての啓発活動を継続していくことが求められる。また、授業評価アンケート結果に対する教員コメントの入力についても強化することにより、Webでの公開を通して教育改善を更に推進していく必要がある。

##### (2) 学生による臨地実習評価

臨地実習については、実習科目毎に学生による評価を実施しており、その結果を担当教員はもとより、臨地実習連絡会などの機会に実習指導者にもフィードバックすることで、実習内容や実習環境の改善に役立てている。

平成24年度後期から平成25年度前期において評価項目毎に評価結果（平均）をみると、「授業で学んだ内容が実習を通してより深く理解できた」と回答した者は96.8%、「対象者への理解を深め、その対象者に合う看護が展開できた」と回答した者は82.6%であった。臨地実習の総合目的である「さまざまな健康レベル・健康障害にある人々に対して、既習の知識・技術・態度を実際の場面に適用し、理論と実践を統合して看護活動が展開できる能力を養う」が概ね達成できていると考えられる。また、「教員は学生の必要に応じたアドバイス、指導、説明を行った」と回答した者は90.1%、「指導者から適切な助言が得られた」と回答した者は96.9%で、学生の学習ニーズに応えられる実習体制であったと考える。

#### 2) 教員相互による評価

平成17年度より実施してきたピア授業評価と並行し、平成22年度よりピア授業参観を試行的に行ってきたが、平成24年度から教員相互による評価をピア授業参観に一本化させた。ピア参観実施要項、ピア授業参観実施手順に基づいて、参観科目提供の呼びかけを年4回（3月末、5月末、7月末、11月末）行い、平成25年度は92件（平成24年度は70件）の参観科目が提供され、参観の実施は20件（平成24年度は19件）であった。

平成24年度と比較しても提供科目数、参観実施数とも順調に増加していることから、ピア授業参観が教員相互

による評価として定着していると考えられる。今後も参観科目の情報提供時に参観実施を呼び掛け、活発な評価活動の推進を継続していくことが求められる。

### 3) 教員による自己点検評価

本学では、平成19年度から教員による教員活動自己点検報告を毎年実施している。本学部(学類)独自の評価項目として、教育活動、研究活動、社会貢献活動、大学運営に関して、「非常に積極的に行った」から「行わなかった」まで4段階で自己評価している。平成25年度在籍の教員56名のうち55名が教員活動自己点検評価を提出した。なお未提出の教員1名は、年度途中から休職したものであり対象外であった。

教育活動の授業活動については、学部(学類)が掲げる教育目的のもと個々の授業目標に従った授業展開を、93%の教員が「非常に積極的に行った」または「積極的に行った」と評価していた。さらに学部(学類)が掲げる教育目的に応じた授業内容、教材、教授技術等の改善を82%の教員が「非常に積極的に行った」または「積極的に行った」と評価していた。学位取得に向けての研究指導活動も87%の教員が「非常に積極的に行った」または「積極的に行った」と評価していた。教育活動全般にわたり、大半の教員が積極的に教育活動を行っていた。学術論文等による研究発表活動においては、60%の教員が「非常に活発であった」または「活発であった」、20%の教員が「普通であった」と評価していた。学術論文等による質の高い研究発表活動は、46%の教員が「特段に高い質が確保された」または「高い質が確保された」と評価していた。学会等における研究発表活動は、64%の教員が「非常に活発であった」または「活発であった」、18%の教員が「普通であった」と評価していた。競争的資金獲得のため代表者として「積極的に申請した」または「申請した」と評価した教員は75%(41人)であり、競争的資金を獲得した教員は42%(23人)であった。国・府・市町村・職能団体等の委員会への参画は、29%の教員が「非常に積極的に行った」または「積極的に行った」と評価していた。地域に密着した学習支援活動は、69%の教員が「非常に積極的に行った」または「積極的に行った」と評価していた。各委員会活動は、100%の教員が「十分に寄与した」または「寄与した」と評価していた。

平成25年度の自己点検評価の教育活動の授業活動、教育改善活動、研究指導活動において、「非常に積極的に行った」または「積極的に行った」ものの比率は昨年度と変わりなく、教員の教育活動は毎年積極的に行われている。研究活動の学術論文等による研究発表活動、学会等における研究発表活動において、「非常に積極的に行った」または「積極的に行った」ものの比率は昨年度より上昇し、競争的資金の申請・獲得状況も昨年度(申請35人・獲得20人)より増加している。社会貢献活動として、国・府・市町村・職能団体等の委員会への参画を3割程度の教員が非常に積極的または積極的に行い、地域に密着した学習支援活動を7割程度の教員が非常に積極的または積極的に行っていた。公立大学の使命としての地域貢献にも積極的に参画している。また、大学運営活動では、積極的に携わっているものが100%であり、全員の教員が大学運営に対して積極的であった。

看護学部(看護学類)教員は、教育活動、研究活動、社会貢献活動、大学運営活動の全てにおいて、積極的に活動しているものが多いと考えられる。

## 2. 教育の質の向上及び改善のためのシステム

看護学部(看護学類)におけるファカルティ・ディベロップメント(FD)は、FD委員会を設置し取り組んでいる。FD委員会の主な活動としては、学生や教員のニーズや、社会の変化に対応した内容を検討して取り上げている。平成25年度の実施日およびテーマ、参加人数等を資料7-2に示した。

FDによるセミナーは、大阪府立大学高度教育開発センターでは6回(報告会、ワークショップを含む)、看護学類独自のものでは2回開催された。その内容を資料7-2に示す。

資料7-2 平成25年度 FDセミナー

<p>平成25年度 高度教育開発セン ター</p>	<p>新任教員FDセミナー 日時：平成25年4月4日 講師：高等教育推進機構 星野 聡孝氏 他 看護系教員7名参加</p> <p>セミナー・ワークショップ カリキュラム理解の向上及びカリキュラムの検証を目的としたカリキュラム チェックリストの作成を行った 日時：平成25年7月5日 看護系教員3名参加</p> <p>初年次ゼミナール報告会 日時：平成25年10月29日 看護系教員3名参加</p> <p>FDワークショップ 自課程・専攻のカリキュラムの特徴や重視している内容を示すカリキュラムマッ プを作成した 日時：平成25年11月1日 看護系教員3名参加</p> <p>ルーブリック評価 入門講座 日時：平成25年12月5日 講師：深野 政之氏(高等教育開発センター主任)</p> <p>実践ワークショップ 日時：平成26年2月20日 講師：深野 政之氏(高等教育開発センター主任)</p>
<p>平成25年度 看護学類セミナー</p>	<p>第1回看護学類FDセミナー テーマ「看護学生と医療安全」 日時：平成25年8月23日 講師：恩田 清美氏（東京海上日動メディカルサービス(株) メディカルリスクマネジメント室 上席研究員） 出席人数：61名</p> <p>第2回看護学類FDセミナー テーマ「問題解決型スキルの基本と活用 ―看護教育現場をプチ変革―」 日時：平成26年3月6日 講師：田中 智恵子氏（看護師・保健師、(株)メディカルクリエイト教育研修事業部 コンサルタント、(株)メディカ 取締役） 出席人数：58名</p>

## 第8章 研究活動

### 1. 研究体制及び支援

研究の実施体制は、健康科学と看護学4領域の計5領域から構成されている。同組織への研究支援組織としては、羽曳野キャンパスの場合、総務課を中心とした事務職員および文献等の検索や収集のために羽曳野図書センターの司書などから、総合的・機能的に支援を受けている。

研究推進については、産学官連携機構から研究助成の広報・申請手続き・予算執行等、療養学習支援センターにおける地域社会との連携等が、組織的に行われている。コーディネーターが定期的に羽曳野キャンパスに来学し、研究助成に関する情報提供など支援を行っている。外部研究資金獲得に関して、文部科学省の科学研究費補助金の場合には経営企画課経理グループによる申請方法の説明会を行っているとともに、外部資金獲得に関するセミナーの開催なども実施している。このように研究が推進できるような施策が図られている。

研究資金の配分は、学類運営会議において原案を作成し、教授会議および看護学研究科委員会で決定する施策が実施されている。その他の支援としては、療養学習支援センターによる研究プロジェクトに対する研究助成、研究者の育成に関する施策(新人教員に0.5～1.5倍の研究費が上乘せ)、実習施設との共同研究助成などがある。

看護学部(看護学類)および看護学研究科における独自の研究成果の発信や刊行のための組織として、広報委員会および紀要委員会があり、各教員の研究成果の概略をホームページなどで公開している。研究活動の状況を把握する取組として、各教員は毎年度末に教員活動情報データベースに自己の研究活動の申告を実施している。教員活動情報データベースは教員の個人情報に関する部分を除いて公開を原則としている。さらに、各教員は、教員活動自己点検・評価報告書を提出し、自己評価を行っている。これらは、評価・企画実施委員会が、看護学部(看護学類)教員全体の評価をまとめて報告している。

看護学部(看護学類)における研究活動の質の向上に関する取組としては、看護学研究倫理委員会および動物実験委員会がある。看護学研究倫理委員会では、教員および学生の研究のうち、人を対象とした場合には学外の有識者を含む委員会において、研究倫理の審査で承認したものだけが研究を実施できるようになっている。実験動物を用いた研究については、動物実験ガイドラインが定められ、研究計画書を動物実験委員会に提出し、その審査を経たもののみが実施可能となる。このように倫理的に配慮した研究を支援するための研究倫理委員会、動物実験に関する委員会等が整備され機能している。

本学の研究活動の一層の活性化を図ることを目的として、学部(学類)・研究科の枠を超えた学際あるいは分野横断型研究を進める「21世紀科学研究所」群で構成する研究組織「21世紀科学研究機構」が設立されている。この機構は、柔軟性と組織性を併せ持つ3群の設置形態の研究所で構成されており、地域に貢献する拠点大学としての役割と府民・府政のシンクタンク機能も担える組織として、本学の研究スタイルに新たな息吹を吹き込む存在として位置づけられている。看護教育・研究に関して「看護経営システム研究所」「看護教育教材開発研究センター」などがある。

### 2. 研究実績

看護学部(看護学類)および看護学研究科の研究活動の実施状況と研究成果は、「資料 大阪府立大学看護学部(看護学類)教員業績一覧」に示した。学術論文の発表はのべ100件、学会発表件数はのべ233件であった。

競争的研究資金の申請・採択状況を資料8-2-1に示した。日本学術振興会科学研究費助成事業への新規申請は25件であった。競争的資金等の採択件数は新規・継続を合わせ58件(49,023,123円)であり、その実績を、日



本学術振興会科学研究費助成事業（資料8-2-2）、厚生労働科学研究費補助金（資料8-2-3）、財団等による研究助成（資料8-2-4）、企業等による共同研究、研究助成（資料8-2-5）、省庁・自治体による補助金（資料8-2-6）の各一覧に示した。その他の研究資金は資料8-2-7に示した。

資料8-2-1 平成25年度 看護学部（看護学類）の競争的研究資金等の申請・採択状況

研究活動			新規申請件数	新規採択件数	継続件数	合計金額(円)
日本学術振興会 科学研究費助成事業	基盤研究（A）	代表	0	0	0	0
		分担	—	1	0	260,000
	基盤研究（B）	代表	3	0	4	15,730,000
		分担	—	2	2	1,950,000
	基盤研究（C）	代表	13	7	7	18,663,123
		分担	—	8	10	1,820,000
	萌芽的研究	代表	0	0	2	1,690,000
		分担	—	0	0	0
	若手研究（B）	代表	9	3	3	4,810,000
		分担	—	0	0	0
研究活動スタート支援	代表	0	0	2	2,080,000	
厚生労働科学研究費補助金			—	0	1	1,600,000
財団等による研究助成			—	0	3	0
企業等による共同研究、研究助成			—	1	1	115,000
その他省庁・自治体による補助金			—	1	0	305,000
総合計						49,023,123

資料 8-2-2 平成 25 年度日本学術振興会科学研究費助成事業一覧

(研究代表者)

研究種目審査区分	氏名	研究課題名	獲得金額(円)
基盤研究(B)	中山 美由紀	N I C U から住宅への移行を支える看護実践能力育成プログラムの開発	3,510,000
基盤研究(B)	上野 昌江	「社会的不利」な状況にある親に対する虐待発生予防のための支援プログラムの開発	2,860,000
基盤研究(B)	中村 裕美子	看護職のための再就職支援研修プログラムにおけるメンター機能システムの開発と評価	6,500,000
基盤研究(B)	高見沢 恵美子	急性心筋梗塞患者が必要とする周手術期医療情報と情報提供への看護介入	2,860,000
基盤研究(C)	長畑 多代	生活の場である特別養護老人ホームでの看取りにおける看護・介護連携モデルの構築	1,820,000
基盤研究(C)	旗持 知恵子	高血圧患者の塩分摂取測定を活用したセルフモニタリングの効果	650,000
基盤研究(C)	志田 京子	看護職の専門的自律性に影響を与える組織文化要因の検討	1,164,061
基盤研究(C)	細田 泰子	実践的風土を創造する臨床学習環境デザイナー育成プログラムの構築	1,560,000
基盤研究(C)	岡本 双美子	在宅終末期がん患者を看取る家族のグリーフケアに関する看護師の教育プログラムの開発	1,170,000
基盤研究(C)	佐保 美奈子	身体的障がいを持つ子どもと家族へのセクシュアリティ支援に関する研究	910,000
基盤研究(C)	中嶋 有加里	胎児・乳幼児の命を守る妊娠期からの自動車利用時の安全教育プログラムの構築と実践	1,170,000
基盤研究(C)	木村 洋子	リワーク(復職)につなげるうつ病者とうつ病者家族の支援プログラムの構築と評価	520,000
基盤研究(C)	松田 千登勢	特別養護老人ホームにおける看護師が実践する感染症リスクマネジメント指標の開発	2,080,000
基盤研究(C)	紙野 雪香	ナラティブ・アプローチによる中堅看護師のキャリア形成プログラムの開発	2,159,062
基盤研究(C)	中岡 亜希子	質の高い患者ケアをめざす看護師-看護補助者協働システム確立のための基礎的研究	1,170,000
基盤研究(C)	撫養 真紀子	中小規模病院に勤務する中堅看護師の職務満足度を促す看護管理者の支援プログラムの開発	1,820,000
基盤研究(C)	井上 奈々	消化のよいものから元気がでる食事へ、胃切除患者の食生活の再構築に対するアプローチ	1,430,000
基盤研究(C)	松本 智晴	D P C に対応した日本版Nursing Minimum Data Setの開発	1,040,000
挑戦的萌芽研究	町浦 美智子	分娩助産技術としてのハンズオフ手法の実態と根拠に基づく会陰保護の再検討	650,000
挑戦的萌芽研究	藪下 八重	炎症性腸疾患とともに生きる患者が“無理はしない”療養法を獲得するプロセス	1,040,000
若手研究(B)	大川 聡子	10代で出産した母親のライフプラン構築を支援する包括的プログラムの開発と評価	650,000
若手研究(B)	山内 加絵	施設入所高齢者の健康管理のためのアセスメント指標の開発	650,000
若手研究(B)	根来 佐由美	高齢者の生活実態から見たスキンケアの必要性	1,170,000
若手研究(B)	深山 華織	要介護高齢者を支える同居家族の日中留守にすることによる心情	260,000
若手研究(B)	角野 雅春	慢性心不全患者のヘルスリテラシーに基づく症状マネジメント評価尺度の開発	780,000
若手研究(B)	岩崎 幸恵	体型別褥瘡予防ケア開発の為に基礎的研究-肥満体型高齢者の褥瘡好発部位の検討-	1,300,000
研究活動スタート支援	南村 二美代	糖尿病の開示・非開示の意思決定に関する研究へ意思決定支援プログラムの開発にむけて	1,300,000
研究活動スタート支援	山口 舞子	人工膝関節全置換術後患者の下肢の疼痛を緩和する温電法の効果	780,000
合計			42,973,123

(研究分担者)

研究種目審査区分	氏名	研究課題名	獲得金額(円)
基盤研究(A)	紙野 雪香	生活史法による臨床物語論の構築と公共化	260,000
基盤研究(B)	檜木野 裕美	プレパレーションの普及-モバイルeラーニングを応用した実践と評価-	520,000
基盤研究(B)	杉本 吉恵	障害高齢者の自立支援に向けた「看護・介護のシーティング・ガイドライン」の開発	65,000
基盤研究(B)	和泉 京子	在宅虚弱高齢者に対する学際的予防訪問プログラムの効果と標準化の確立	1,300,000
基盤研究(B)	木村 洋子	(一部基金)うつ病者の自殺予防に関する感情調整療法アプローチの開発	65,000
基盤研究(C)	中山 美由紀	母娘の世代間妊孕性に関するリスク因子の探求と妊孕性支援教育プログラムの構築	130,000
基盤研究(C)	檜木野 裕美	不妊治療後の母親のペアレンティング・プログラムの開発と普及	260,000
基盤研究(C)	檜木野 裕美	検査・処置を受ける幼児後期の子供の調整能力の発揮への支援プログラム開発と効果測定	156,000
基盤研究(C)	檜木野 裕美	すべての看護職が使える子どもの虐待予防活動のためのアセスメント指標の開発と効果判定	39,000
基盤研究(C)	町浦 美智子	更年期女性の健康増進に向けた行動変容を促す健康貯金ノートを用いた介入プログラム	39,000
基盤研究(C)	上野 昌江	すべての看護職が使える子どもの虐待予防活動のためのアセスメント指標の開発と効果判定	39,000
基盤研究(C)	上野 昌江	児童虐待による一時保護児童と家族の親子再統合に向けての子育て支援プログラム	130,000
基盤研究(C)	旗持 知恵子	クローン病患者のセルフマネジメントの実態に基づく患者教育のプログラムの検討	130,000
基盤研究(C)	細田 泰子	新人期看護師の社会人基礎力と関連要因の検討	65,000
基盤研究(C)	細田 泰子	子育て世代の潜在看護師に対する復職準備教育の開発と検証	65,000
基盤研究(C)	細田 泰子	看護系大学に所属する若手教員の学習支援力に関する研究	65,000
基盤研究(C)	細田 泰子	臨床判断を導く患者理解と看護師による患者像の口述に関する研究	39,000
基盤研究(C)	細田 泰子	看護学生のコミュニケーション能力の向上を目指した継続的教育方法の検討	52,000
基盤研究(C)	細田 泰子	新人看護師教育指導担当者の教育育成プログラムの開発	78,000
基盤研究(C)	藪下 八重	クローン病患者のセルフマネジメントの実態に基づく患者教育のプログラムの検討	130,000
基盤研究(C)	中岡 亜希子	看護プロフェッショナルリズムの育成をコアとする卒後教育システム試案の開発	91,000
基盤研究(C)	撫養 真紀子	医療における多職種連携機構のための組織化、役割認識、専門職倫理に関する実証研究	260,000
基盤研究(C)	隅田 千絵	新人看護師教育指導担当者の教育育成プログラムの開発	52,000
合計			4,030,000

資料 8-2-3 平成 25 年度厚生労働科学研究費補助金一覧

事業名	研究分担者	研究課題名	補助金額(円)
エイズ対策研究事業	佐保 美奈子	H I V感染症及びその合併症の課題を克服する研究	1,600,000

資料 8-2-4 平成 25 年度財団等による研究助成一覧

事業名	研究代表者	研究課題名
三菱財団福祉事業	檜木野 裕美	被虐待児に対する環境療法的アプローチによるケアモデルの構築
三菱財団福祉事業	上野 昌江	子ども虐待による死亡を予防するための保健師への研修プログラムの開発と評価
日本死の臨床研究会	池内 香織	緩和ケアのエキスパートナースによる終末期がん患者の倦怠感に関するアセスメントとケアの実態

資料 8-2-5 平成 25 年度企業等による共同研究、研究助成一覧

契約会社名	研究代表者	研究課題名	補助金額(円)
シャープ株式会社	中村 裕美子	看護教育での臨地実習における学習支援用タブレット端末の開発と評価	0
積水ホームテクノ(株)	杉本 吉恵	看護、介護技術の研究	115,000

資料 8-2-6 平成 25 年度省庁・自治体による補助金一覧

事業名	研究代表者	研究課題名	補助金額(円)
堺市産学官連携推進協議会	大川 聡子	堺市における若年母親の社会参加を促進するためのサポーター育成事業	305,000

資料 8-2-7 平成 25 年度その他の研究資金一覧

研究種目	研究代表者	研究課題名	獲得金額(円)
大阪府立大学異分野研修シーズ発掘・連携推進・融合領域創成支援事業	根来 佐由美	自宅で生活する高齢者の健康に対する予防行動を促進する見守りシステムの構築	1,900,000
日本母性看護学会 戦略的プロジェクトに関わる研究	山田 加奈子	妊娠糖尿病妊産褥婦へのケアについて先駆的に活動する施設および専門家の実践の明確化	370,000

看護学部(看護学類)が独自に実施している研究助成として、療養学習支援センター研究・活動助成(資料8-2-8)、実習施設との共同研究補助金(資料8-2-9)がある。特に療養学習支援センターでの研究活動状況は、療養学習支援センター年報第10巻に記述し、公表している。

資料8-2-8 療養学習支援センター研究・活動助成一覧

区分	代表者	研究課題・活動名	助成金額(円)
研究	中村 裕美子	在宅高齢者のための認知機能低下予防教室への経年参加による変化	650,000
	岡本 双美子	家族看護に関する看護師の認識と実践の変化ー研修会前後の比較ー	476,000
活動	田嶋 長子	心の健康啓蒙活動	51,000
	藪下 八重	病気を管理しながら元気に生きる方を応援する「ホッと&ハートの会」	138,000
	齋野 貴史	地域住民への感染予防対策の普及	51,000
	山田 加奈子	高校生の性行動の多様化の則した性教育教材作成と性教育プログラムの実践〜おつきあいマナーかるたの作成〜	300,000

資料8-2-9 実習施設との共同研究補助金一覧

研究代表者	研究課題名	補助金額(円)
和泉 京子	社会経済格差をふまえた国保特定健診未受診者への家庭訪問による健康支援方略の検討	170,000
岡本 双美子	訪問看護ステーションから病院へ向けた看看連携の評価ー病棟看護師の退院支援への認識の変化ー	170,000
古山 美穂	DVや子ども虐待のリスクをはらむ高校生の実態と性教育プログラムの評価尺度の開発	170,000

## 第9章 社会貢献と国際交流

### 1. 地域社会への貢献

#### 1) 公開講座

地域社会への貢献として、大阪府立大学羽曳野キャンパス公開講座、府大講座、出前講義を実施している。

大阪府立大学羽曳野キャンパス公開講座は、看護学部（看護学類）と総合リハビリテーション学部（学類）の合同で開催している。また羽曳野市の事業である「はびきの市民大学」と連携することで、より地域社会に密着したサービスを展開している。平成25年度は看護学部（看護学類）が主担当であり、その概要は資料9-1-1-1の通りであった。募集人員100名（内50名は「はびきの市民大学」と同時に募集）に対し、申込者95名、受講者89名で、延べ参加者は309名であった。受講者77名からのアンケートの結果、男女比率は4:6、年代は70歳代45.5%、60歳代33.7%でほとんどが60歳以上であった。また「市の広報誌で知った」と回答した受講者が一番多く（29.8%）、受講者の63.6%が羽曳野市民であった。全体の印象として77%が「とてもよかった・よかった」とし、「役立つ知識が得られた」は79%、「来年もまた参加したい」は80%であった。

資料9-1-1-1 平成25年度 大阪府立大学羽曳野キャンパス公開講座

テーマ 「医療との付き合い方 ～あなたや家族が病気になったとき～」

第1日目：10月16日(水)13:00～14:30

《開講式》	あいさつ	看護学部	学部長	高見沢 恵美子
《講義》	あなたや家族が手術を受けるとき	看護学部	准教授	石田 宜子

第2日目：10月23日(水)13:00～14:30

《講義》	あなたや家族ががんになったとき	看護学部	准教授	林田 裕美
------	-----------------	------	-----	-------

第3日目：10月30日(水)13:00～14:30

《講義》	病気を持つ人の家族 一心の健康の視点から	看護学部	准教授	木村 洋子
------	----------------------	------	-----	-------

第4日目：11月6日(水)13:00～14:30

《講義》	「感染症とは何？」～正しく知ろう感染症～	総合リハビリテーション学部	准教授	神谷 重樹
《閉講式》	あいさつ	総合リハビリテーション学部	学部長	高畑 進一

府大講座は、府立大学全学部の分担により平成25年度は8月29日から9月19日の日程で開催した。看護学部（看護学類）は9月7日の第2講義を担当し、担当講師は長畑多代教授、講義題名は「認知症を正しく知って備える」であった。

出前講義は「教員データベース」に出前可能項目を記載することで公表され、地域社会からのニーズに対応している。平成25年度において看護学部（看護学類）からは1名の教員が対応した（資料9-1-1-2）。

担当教員名	実施日	申込者	講義タイトル
佐保美奈子准教授	平成25年6月6日	大阪商業大学附属高等学校	おつきあいのマナーとおしゃれ障害の予防

## 2) 地域サービス：療養学習支援センター活動

療養学習支援センターは、大学院看護学研究科の附置研究所として位置付けられ、療養学習支援に関する研究・教育、実践、情報提供、学術交流を図ることを目的としている。地域貢献活動として、プロジェクト活動、闘病記文庫の充実、健康フェアの開催を行った。

プロジェクト活動では、電話や来所相談として「家族の心の相談」「手術についての悩み相談」を行っている。療養学習支援センターに来所する教室として「脳いきいき教室」「うつ病の家族教室」「こころの健康教室」を開催した。また、当事者や家族の集まりとして「肺がん患者さんのご家族のためのサロン」「ホッと&ハートの会」を開催した。1回の参加人数は、プロジェクトにより数名から40名と差がみられるが、年間通じて延べ500名程度の参加があり、地域での活動が定着し、拡大してきている。

健康フェアは、杏樹祭（羽曳野キャンパス祭）時に、健康に関する身体測定（体組成、骨密度、動脈硬化度、脳年齢測定等）、健康体操、健康相談を内容として開催したところ、60名の市民参加があり、地域の健康づくりに貢献することができている。

闘病記文庫は、羽曳野図書センター内に開架し、学生や市民に利用されている。新刊図書を購入し、活動の充実に努めている。

療養学習支援センターの活動に関する報告は年報として刊行し、学内関係者に配布、更にWeb上にも公開している。以上のことから、療養学習支援センターにおける地域への教育サービス活動の成果は上がっている。

## 3) 高大連携

青少年の学習意欲に応えた教育サービスの提供については、高大連携推進委員会や療養学習支援センターのプロジェクト活動によって実施されている。平成25年度は、高校生が受講できる科目として看護学部（看護学類）で開講している授業科目「セクシュアリティと看護」（1単位15時間）を提供した。講義日程等は資料9-1-3に示した。受講者は10名であり、受講終了後に修了証が交付された。

### 資料9-1-3 「セクシュアリティと看護」の講義日程

1. 開講日時	平成25年11月26日 ～ 平成26年1月25日（5限目 全8回） 羽曳野キャンパス L棟402講義室
2. 対象	高校2年生（看護学類1年次生、2年次編入生と一緒に講義を受ける）
3. 講義内容	ヒューマンセクシュアリティについて理解を深め、人間の性、生き方を洞察しながら自己のセクシュアリティ観を育むことを目指しています。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ヒューマン・セクシュアリティの概念を学ぶ</li> <li>・自己のセクシュアリティについて考える</li> <li>・現代社会におけるセクシュアリティの問題・課題を認識できる</li> </ul>

また、高大連携推進委員会や療養学習支援センターのプロジェクト活動の一環である「学校などにおけるセクシュアリティ教育」を通して出張講義を行っている。平成25年度は大阪府立及びその他の市立・私立高等学校

17校において総計3,479名の高校生に、看護について、デートバイオレンス予防や避妊・性感染症予防について、命の大切さ、自分探しなどをテーマに出張講義を行った。

青少年の学習意欲に応えた教育サービスの提供については、高校生と看護学部（看護学類）生と一緒に受講できる科目の開講や高校生を対象とした出張講義を実施しており、適切に行われている。

#### 4) 教員の社会貢献

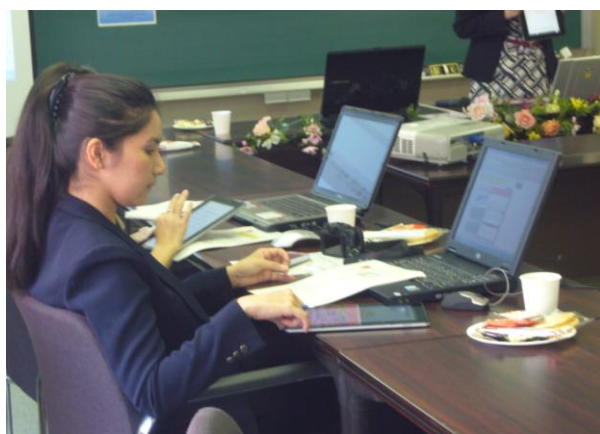
看護学部（看護学類）に所属する教員は、保健、医療、福祉などの分野と関連を保ち、専門看護や専門基盤についての研究・教育に携わりながら、審議会等に積極的に参画している。参画する審議会等の公的団体としては、厚生労働省、独立行政法人国立病院機構、地方独立行政法人大阪府立病院機構、大阪府または府下市町村、看護協会、各教員が所属する学会等である。具体的な社会貢献活動は「資料 大阪府立大学看護学部（看護学類）教員業績一覧」に示すとおりである。

## 2. 国際交流

### 1) マヒドン大学との学術交流

#### (1) マヒドン大学ファカルティ研修の受け入れ

平成25年5月21日に、タイ王国・マヒドン大学医学部看護学科の教員6名が本学看護学部現代GPプロジェクトである「看護実践能力の獲得を支援するe-learning」で開発された看護実践事例学習用eラーニング教材“CanGo®”の活用状況と学習支援環境の現況についての視察に来日された。マヒドン大学でも導入を検討中とのことでプランニングの段階や、学生の活用状況、評価方法など積極的な情報収集が行われた。



#### (2) マヒドン大学大学院生の受け入れ

平成20年4月に結ばれたタイ王国・マヒドン大学看護学部並びに同大学医学部看護学科との学術交流協定（平成25年4月更新）に基づき、大学院生の学生交換プログラムを実施した。マヒドン大学とは大学院生の受け入れと派遣を隔年に実施してきており、本年度は平成25年9月から10月にマヒドン大学のラマティボディ校、シリラート校より看護学研究科の学生各2名が訪日し、本学羽曳野キャンパスにおいて2週間の研修を行った（資料9-2-1-1）。研修生にとっては府内の病院やケア施設、小学校や看護協会を訪問し、看護実践者や教育者からの説明を受けるとともに、設備や環境を自身の五感を使って体験する機会となった。研修プログラムの他に、交流会、研究計画発表会や観光案内を通じて、本学大学院生とマヒドン大学院生間の交流を図ることができた。

来年度は協定により本学よりマヒドン大学へ研修生を送る予定である。

院生交流会での「ゆかた」着付け



送別会での記念写真



資料9-2-1-1 平成25年度マヒドン大学大学院生 研修概要

日	曜日	活動	担当者
9月29日	日	関西空港着 ホテルチェックイン	院生ボランティア 国際交流委員(山地、岩崎、井上)
9月30日	月	キャンパス見学 ブリーフィング 歓迎会 研修オリエンテーション	国際交流委員(根来)、院生ボランティア 国際交流委員(志田、岩崎) 研究科長、教員、大学院生 研修担当教員
10月1日	火	羽曳野市ゆうゆうクラブ 見学	生活支援看護学(根来)
10月2日	水	大阪府立藤井寺支援学校 見学 院生交流会	生活支援看護学(北川) 大学院生
10月3日	木	国立循環器病研究センター、関西電力病院 見学 訪問看護ステーションハートフリーやすらぎ 見学	療養支援看護学(井上) 家族支援看護学(岡本)
10月4日	金	大阪赤十字病院、大阪府立呼吸器・アレルギー医療センター 見学 大阪発達総合療育センター 見学	療養支援看護学(田中、堀井、佐藤) 家族支援看護学(中山)
10月5日	土	文化交流	院生ボランティア
10月6日	日	文化交流	(自由行動)
10月7日	月	大阪府看護協会 見学	人・環境支援看護学(志田)
10月8日	火	医療福祉複合施設ベルアンサンプル 見学	生活支援看護学(長畑)
10月9日	水	羽曳野市立羽曳が丘小学校 見学 基礎看護学技術演習 見学	国際交流委員(南村) 生活支援看護学(北川) 人・環境支援看護学(杉本、中岡)
10月10日	木	学内学習	
10月11日	金	研究計画発表会 送別会・表彰式	国際交流委員(志田、高橋)、大学院生 研究科長、教員、大学院生
10月12日	土	文化交流	院生ボランティア
10月13日	日	関西空港発	国際交流委員(井上)、院生ボランティア



## (2) オレゴンヘルスサイエンス大学と学術交流協定の締結と教員の招へい

平成 25 年 10 月にオレゴンヘルスサイエンス大学と、大阪府立大学間において学術交流協定の調印が執行された。本年度は看護教育学分野の Paula Gubrud-Howe 上級准学部長を招へいし、大学院生を対象とした看護教育学の授業および研究指導を実施した。本事業は、看護学部国際交流委員会が中心となって看護学研究科として全学の外国人招へい事業の一つに同教員を招いたものである。3 週間の滞在中、本学の看護学部および大学院看護学研究科の学生に対して、授業や演習の中で英語のみで講義を行い、米国における看護教育プログラムなどについて教鞭を取り、学生にとって貴重な体験となった(資料 9-2-1-2)。また、招へい教員は講義や講演、個人指導のみならず地域の保健施設にも訪問し、交流機会がもてた。



資料 9-2-1-2 オレゴンヘルスサイエンス大学 教員招へい (Paula Gubrud-Howe 上級准学部長) 授業概要等

	科目名等	日時	内 容
看護学研究科の授業	看護教育学特論 II	10 月 22 日	講義「Instructional design」 伝統的な instructional design と学習者中心の学習活動となる Backward instructional design の違いについて、事例を示しながら講義が行われた。(出席学生数：博士前期課程 9 名)
	看護教育学特論 II	10 月 24 日	講義「Curriculum design (OCNE)」 米国で注目されるコンピテンシーに基づく看護教育カリキュラムの重要な構成要素を Oregon Consortium for Nursing Education (OCNE) の取り組み、そのカリキュラムデザインについて説明された。(出席学生数：博士前期課程 3 名、博士後期課程 4 名)
	看護教育学特論 II	10 月 29 日	講義「Simulation education」 オレゴンヘルスサイエンス大学にある Simulation & Clinical Learning Center の人体シミュレータ、模擬患者、ロールプレイングを用いた多様なシミュレーション教育、振り返り学習のためのディブリーフィング、シナリオ開発に関して説明された。 (出席学生数：博士前期課程 11 名、博士後期課程 2 名)

	看護教育学特論Ⅱ	11月5日	講義「Educational evaluation」 学生の学習を評価するためのよい実践の9原則、形式的評価と総合的評価の区分とオーセンティックアセスメントの特徴、ルーブリックの3つの機能と構成要素と評価時の留意点に関して説明された。(出席学生数：博士前期課程11名)
	看護管理・教育学演習	11月7日	講義「Faculty development」 教育実践の7つの慣習が示され、学生からも professional development 活動への提案が示され、効果的な議論ができた。(出席学生数：博士前期課程1名、博士後期課程3名)
看護学部の授業	人・環境支援論：管理/教育	10月28日	講義「Clinical teaching and learning」 全米看護連盟の推奨として、臨床教育の新しいモデル、エビデンスに基づく教育実践と学習効果、臨床現場の学習や実践の重要な側面が示され、プリセプターシップなど具体的な教育方法が説明された。OCNEの臨床教育カリキュラムについて、Concept Based, Intervention Skill Based, Case Based Simulation, Direct Focused Care, Integrative Practicum からなる臨床教育モデルを示し、それぞれの概念と学年進行による焦点を説明された。(出席学生数：学部生124名)
その他	大学院生との教育ディスカッション	11月5日	看護教育学分野の博士前期課程の学生より自身の修士論文研究に関して、米国の臨床教育におけるプリセプターの役割についての質問があり、公的な役割であることや、他のメンターなどの用語との違いが説明された。その後日本におけるプリセプターとの類似や相違など意見交換がされた。(学生数：博士前期課程1名)
	学部生との教育ディスカッション	10月28日	将来米国で看護を学び実践したいと考える学生からの質問に米国の臨床状況を説明された。オレゴンヘルスサイエンス大学病院で働く邦人看護師との連絡がとれるよう調整を行った。(学生数：学部生1名)
	施設見学・研修	10月25日	招へい教員より学生の臨地実習の状況および高度救急救命センターを有する施設の見学研修の希望があり、大阪府立急性期・総合医療センターでの受け入れを依頼し、研修を実施した。
	施設見学・研修	10月31日	招へい教員よりホスピス病院施設の見学研修の希望があり、淀川キリスト教病院での受け入れを依頼し、研修を実施した。

## 2) 国際看護セミナー開催

第18回国際看護セミナーを開催した(資料9-2-2)。全米看護連盟の推奨として、臨床教育の新しいモデル、エビデンスに基づく教育実践と学習効果、臨床現場の学習や実践の重要な側面が示され、プリセプターシップなど具体的な教育方法が説明された。OCNEの臨床教育カリキュラムについて、Concept Based、Intervention Skill Based、Case Based Simulation、Direct Focused Care、Integrative Practicum からなる臨床教育モデルを示し、それぞれの概念と学年進行による焦点を説明された。

資料9-2-2 平成25年度国際看護セミナー

第18回国際看護セミナー 平成25年10月28日	講師：Paula Gubrud-Howe, EdD, MS, RN, FAAN (オレゴンヘルスサイエンス大学看護学部 上級准学部長、准教授) 演題：Clinical Teaching & Learning (アメリカにおける臨床教育と学習について) 参加者：学部生124名、大学院生13名、大学教員19名、外部参加者12名
-----------------------------	--

**3) 研究者の派遣**

延べ14名の研究者が海外に派遣された(資料9-2-3)。

資料9-2-3 平成25年度研究者の海外派遣

氏名	旅行日(発)	旅行日(着)	派遣国	用務
長畑 多代	2013/6/23	2013/6/26	大韓民国	学会出席
江口 恭子	2013/6/23	2013/6/26	大韓民国	学会出席
山内 加絵	2013/6/23	2013/6/25	大韓民国	学会出席
松田 千登勢	2013/6/25	2013/6/27	大韓民国	学会出席
山地 佳代	2013/6/25	2013/6/27	大韓民国	学会出席
中村 裕美子	2013/7/22	2013/7/28	アメリカ合衆国	学会出席
中山 美由紀	2013/10/11	2013/10/18	アメリカ合衆国	学会出席
籀持 知恵子	2013/10/17	2013/10/19	大韓民国	学会出席
南村 二美代	2013/11/7	2013/11/9	大韓民国	学会出席
細田 泰子	2013/11/17	2013/11/21	アメリカ合衆国	学会出席
徳岡 良恵	2013/11/21	2013/11/24	タイ王国	学会出席
中山 美由紀	2014/2/19	2014/2/22	フィリピン共和国	学会出席
岡本 双美子	2014/2/19	2014/2/22	フィリピン共和国	学会出席
岡本 双美子	2014/2/27	2014/3/6	アメリカ合衆国	研修

資料 大阪府立大学看護学部（看護学類）教員業績一覧

1) 著書

氏名	出版年月	分担題名	著者名	書名	出版社名	掲載頁
町浦 美智子	201402	第1章 助産師が行う分娩期のケア, 第4章 分娩経過に伴う診断・アセスメントとケア	町浦美智子, 大橋一友, 中嶋有加里, 佐々木くみ子, 村上明美, 田村正徳, 中野美佳	助産師基礎教育テキスト 第5巻 分娩期の診断とケア 2014年版	日本看護協会出版会	2-11 104-146
田嶋 長子	201312	第2章 1. 平成21年度調査のまとめ, 第4章 4. 早期発見のための面接技術	大森昌夫, 黒田祐二, 清水聡, 田嶋長子, 垂水公男, 塚本利率	実践・職場のメンタルヘルス-地方自治体と大学の協働	創造出版	21-37 114-128
長畑 多代	201401	転倒のアセスメントと看護	北川公子, 井出訓, 植田恵, 岡本充子, 長畑多代, 他16名	系統看護学講座 老年看護学	医学書院	151-159
高見沢 恵美子	201310	第3章 患者家族の倫理的課題と看護介入	江川幸二, 木下佳子, 明石恵子, 平尾明美, 黒田裕子, 高見沢恵美子, 他26名	看護のためのクリティカルケア場面の問題解決ガイド	三輪書店	52-61
階堂 武郎	201310	(単著)	階堂武郎	医系の統計入門(第2版)	森北出版	(全)
志田 京子	201401	coping with emergencies	箕道子, 宮津多美子, Philip Hiveler, 志田京子, 杉田雅子, 山下巖	Caring for People	ゼンゲージャーニング社	80-86
中嶋 有加里	201402	第3章 分娩経過の判断・アセスメントの視点, 第4章 分娩経過に伴う診断・アセスメントとケア, 第6章 分娩進行に伴う感情経過逸脱の予測と予防	町浦美智子, 大橋一友, 中嶋有加里, 佐々木くみ子, 村上明美, 田村正徳, 中野美佳	助産師基礎教育テキスト 第5巻 分娩期の診断とケア 2014年版	日本看護協会出版会	50-81 117-122 212-223
北川 末幾子	201308	第1章 特別支援学校における保健室経営, 第2章 Q&A	北川末幾子, 篠矢理恵, 他9名	特別支援教育にかかわる養護教諭のための本	ジアース教育新社	8-16 18-103
佐藤 淑子	201403	感染予防	香春知永, 林智子, 松谷美和子, 南川雅子, 佐藤淑子, 大久保暢子, 他15名	看護学テキストNICE-基礎看護技術:看護過程の展開の中で技術を理解する(改訂第2版)	南江堂	87-101
古山 美穂	201310	マイナートラブルの診断, 正常妊娠逸脱時の診断, 妊娠時合併症を有する診断, 正常産褥から逸脱時の診断	北川眞理子, 内山和美, 古山美穂, 田中満由美, 谷口千絵, 本間裕子, 他20名	今日の助産 改訂第3版	南江堂	106-133 134-243 244-238 832-902
大川 聡子	201307	第1部第2章 若年母親への対人援助学的アプローチ	桑田道子, 大川聡子, 荒木晃子, 安田裕子, 飯田奈美子, 三野宏治, 他25名	対人援助学を拓く	晃洋書房	16-28

2) 学会誌・雑誌等の発表論文

氏名	出版年月	発表論文の標題	著者名	掲載誌名	主催団体名・出版社名	巻号	掲載頁
高辻 功一	201304	健康人に対する両膝関節部温電法と音楽聴取がもたらす生理的・心理的变化	福満舞子, 杉本吉恵, 田中結華, 高辻功一	日本看護技術学会誌	日本看護技術学会	12 1	74-84
	201401	洗髪におけるナノミストシャワーの有用性 - 洗髪車と比較して -	横山友子, 杉本吉恵, 中岡亜希子, 田中結華, 高辻功二	日本看護技術学会誌	日本看護技術学会	12 3	24-33
中山 美由紀	201403	家庭間における延命治療についての話し合いに影響する要因-大学生の意識に焦点をあてて-	藤原真弓, 中山美由紀, 岡本双美子	日本救急看護学会雑誌	日本救急看護学会	16 1	10-19
楢木野 裕美	201307	授乳および点滴挿入時に看護師が“この子ならできる”とアセスメントしてプレパレーションを実践している2歳児のすがた	小笠原真織, 楢木野裕美	日本小児看護学会誌	日本小児看護学会	22 2	17-24
	201311	看護師がとらえる検査・処置を受ける幼児後期の子どものがんばる姿	小幡善美, 楢木野裕美	日本小児看護学会誌	日本小児看護学会	22 3	57-62
	201402	小児医療の場におけるプレパレーションとは	楢木野裕美	チャイルドヘルス	診断と治療社	17 2	4-6
	201403	A県の周産期に関する看護職の子ども虐待に対する認識及び対応の現状と課題	牛之濱久代, 日比千恵, 大平肇子, 鈴木敦子, 山本美佐子, 飯田加寿子, 橋爪永子, 山本美佐子, 栗原喜代子, 楢木野裕美, 上野昌江	四日市看護医療大学紀要	四日市看護医療大学	7 1	9-19
	201403	子ども虐待予防の先進的B地域における看護職の子ども虐待に対する認識とアセスメント	大平肇子, 飯田加寿子, 鈴木敦子, 牛之濱久代, 橋爪永子, 日比千恵, 山本美佐子, 栗原喜代子, 楢木野裕美, 上野昌江	四日市看護医療大学紀要	四日市看護医療大学	7 1	29-38
	201403	看護系大学教員の子どもの虐待に関する認識	橋爪永子, 大平肇子, 飯田加寿子, 鈴木敦子, 山本美佐子, 牛之濱久代, 日比千恵, 栗原喜代子, 楢木野裕美, 上野昌江	四日市看護医療大学紀要	四日市看護医療大学	7 1	39-48
町浦 美智子	201307	妊婦の安全な運転姿勢のためのWeb動画教材に対する評価	中嶋有加里, 山田加奈子, 椿知恵, 町浦美智子	大阪母性衛生学会雑誌	大阪母性衛生学会	49 1	67-72
	201307	在日韓国・朝鮮人若者の性に関する調査	椿知恵, 町浦美智子, 佐保美奈子, 古山美穂, 山田加奈子	大阪母性衛生学会雑誌	大阪母性衛生学会	49 1	94-99
	201403	A literature review of the effects of singing intervention for healthy people or patients with various health condition	Masako Miyamoto, Michiko Machiura	大阪府立大学看護学部紀要	大阪府立大学看護学部	20 1	101-111
	201403	第2子出産後3か月間に母親が経験した感情の変化	谷郷智美, 町浦美智子	日本母性看護学会誌	日本母性看護学会	14 1	43-49
上野 昌江	201307	生活機能評価を受診した女性高齢者における自宅内転倒者の実態とその要因	土井有羽子, 上野昌江, 和泉京子	日本地域看護学会誌	日本地域看護学会	16 1	4-11
	201307	中小規模事業場における勤労者の抑うつとその関連要因	足立安正, 上野昌江, 和泉京子	日本地域看護学会誌	日本地域看護学会	16 1	48-55
	201403	A県の周産期に関わる看護職の子ども虐待に対する認識及び対応の現状と課題	牛之濱久代, 日比千恵, 大平肇子, 鈴木敦子, 山本美佐子, 飯田加寿子, 橋爪永子, 山本美佐子, 栗原喜代子, 楢木野裕美, 上野昌江	四日市看護医療大学紀要	四日市看護医療大学	7 1	9-19
	201403	子ども虐待予防の先進的B地域における看護職の子ども虐待に対する認識とアセスメント	大平肇子, 飯田加寿子, 鈴木敦子, 牛之濱久代, 橋爪永子, 日比千恵, 山本美佐子, 栗原喜代子, 楢木野裕美, 上野昌江	四日市看護医療大学紀要	四日市看護医療大学	7 1	29-38
	201403	看護系大学教員の子どもの虐待に関する認識	橋爪永子, 大平肇子, 飯田加寿子, 鈴木敦子, 山本美佐子, 牛之濱久代, 日比千恵, 栗原喜代子, 楢木野裕美, 上野昌江	四日市看護医療大学紀要	四日市看護医療大学	7 1	39-48
田嶋 長子	201403	精神科看護における「対応困難」に関する文献検討	日下部祥子, 田嶋長子, 別宮直子	大阪府立大学看護学部紀要	大阪府立大学看護学部	20 1	93-100
長畑 多代	201403	急性期病院の退院調整看護師が感じている高齢者の退院支援における困難	原田かおる, 松田千登勢, 長畑多代	日本老年看護学会誌 老年看護学	日本老年看護学会	18 2	67-75
中村 裕美子	201307	在宅で終末期がん患者を看取った家族の悲嘆反応と対処	岡本双美子, 中村裕美子	日本地域看護学会誌	日本地域看護学会	16 1	63-69
	201307	看護学生へのタブレットPCによる臨地実習での学習支援と臨床への応用	中村裕美子, 深山華織, 真嶋由貴恵	臨床看護	へるす出版	39 11	1480-1485
	201401	医療系教育におけるeラーニングの動向	真嶋由貴恵, 中村裕美子, 丹羽雅之, 木下淳博, 吉田素文	教育システム情報学会誌	教育システム情報学会	31 1	8-18
	201402	CanGoプロジェクトの展開	真嶋由貴恵, 中村裕美子	看護教育	医学書院	55 2	102-108
	201403	高齢者のための認知機能低下予防教室「脳いきいき教室」への継続参加の評価	中村裕美子, 深山華織, 北島洋子, 眞壁美香	療養学習支援センター年報	大阪府立大学大学院看護学研究科	16 1	63-69

高見沢 恵美子	201403	冠動脈バイパス術後患者が必要と考える情報と情報獲得に関する看護援助	石田宜子, 古谷緑, 高見沢恵美子, 井上奈々, 松本智晴, 稲垣美紀, 石澤美保子	大阪府立大学看護学部紀要	大阪府立大学看護学部	20	1	39-46
田中 京子	201309	広汎子宮全摘術を受けた患者が変化したと捉えた自己概念	河原風砂子, 田中京子	日本がん看護学会誌	日本がん看護学会	27	2	74-82
旗持 知恵子	201308	生きる喜びを支える循環器看護	三浦雅郁子, 旗持知恵子	日本循環器看護学会誌	日本循環器看護学会	9	1	39-40
	201311	保存期糖尿病腎症女性患者の食事療法継続のための意欲にかかわる要因	須森美枝子, 松下由美子, 旗持知恵子	日本腎不全看護学会誌	日本腎不全看護学会	23		25-34
	201312	安定期慢性閉塞性肺疾患(COPD)患者の栄養状態と食生活の実態	毛利貴子, 旗持知恵子, 有本太一郎, 岩崎吉伸	京都府立医科大学看護学科紀要	京都府立医科大学看護学科	15	2	75-83
	201403	糖尿病性神経障害患者の徴候, 症状と日常生活の支障との関連	金村美和, 旗持知恵子	大阪府立大学看護学部紀要	大阪府立大学看護学部	20	1	57-65
	201403	慢性疾患看護専門看護師による倫理的看護実践支援の試みと評価	藪下八重, 竹川幸恵, 旗持知恵子	大阪府立大学看護学部紀要	大阪府立大学看護学部	20	1	77-83
	201304	疾病と看護がわかる看護過程ナーシングプロセス	角野雅春, 武田真理, 旗持知恵子	クリニカルスタディ	メヂカルフレンド社	34	3	49
堀井 理司	201307	風疹の流行が繰り返される理由	堀井理司	ヘルシスト 220号	株式会社ヤクルト本社	37	4	12-15
	201403	介護老人保健施設におけるノロウイルス感染対策としての行動規制により引き起こされる入所者にとって不利益な反応—看護師への面接を通して—	金崎美奈子, 佐藤 淑子, 堀井理司	医療の質・安全学会誌	医療の質・安全学会	9	1	31-39
志田 京子	201403	病院統合を経験した看護師の認識の変化と看護管理上の支援	撫養真紀子, 池亀みどり, 河村美枝子, 清水厚子, 志田京子, 勝山貴美子, 北居明, 上野恭裕, 青山ヒフミ	大阪府立大学看護学部紀要	大阪府立大学看護学部	20	1	19-28
	201403	病院に勤務する看護師の職業継続意思に関連する要因の検討	撫養真紀子, 池亀みどり, 河村美枝子, 清水厚子, 志田京子, 勝山貴美子, 北居明, 上野恭裕, 青山ヒフミ	大阪府立大学看護学部紀要	大阪府立大学看護学部	20	1	29-38
杉本 吉恵	201304	健康人に対する両膝関節部温電法と音楽聴取がもたらす生理的・心理的变化	福満舞子, 杉本吉恵, 田中結華, 高辻功一	日本看護技術学会誌	日本看護技術学会	12	1	74-84
	201401	洗髪におけるナノミストシャワーの有用性—洗髪車と比較して—	横山友子, 杉本吉恵, 中岡亜希子, 田中結華, 高辻功一	日本看護技術学会誌	日本看護技術学会	12	3	24-33
	201403	洗髪による頭皮のATP値と皮脂量の変化	横山友子, 杉本吉恵, 田中結華, 中岡亜希子	大阪府立大学看護学部紀要	大阪府立大学看護学部	20	1	9-17
細田 泰子	201306	看護系大学生の臨地実習におけるレジリエンスの構成要素	隅田千絵, 細田泰子, 星和美	日本看護研究学会誌	日本看護研究学会	36	2	59-67
	201403	新卒看護職者や看護学生を支援する教育指導者の育成プログラムに関する取り組みとニーズ	池内香織, 細田泰子, 中岡亜希子, 中橋苗代	大阪府立大学看護学部紀要	大阪府立大学看護学部	20	1	1-8
岡本 双美子	201306	ホームホスピス「愛逢の家」の入所者と家族の生活の認識の変化	岡本双美子, 兼行栄子	死の臨床	日本死の臨床研究会	36	1	163-168
	201309	在宅で終末期がん患者を看取った家族の悲嘆反応と対処	岡本双美子, 中村裕美子	日本地域看護学会誌	日本地域看護学会	16	1	63-69
	201312	手術後の消化器がん患者に対する多職種チームのサポートによるQOLの変化	白田久美子, 吉村弥彦子, 前田勇子, 別宮直子, 岡本双美子, 花房陽子	日本がん看護学会誌	日本がん看護学会	27	3	71-76
	201403	家庭間における延命治療についての話し合いに影響する要因—大学生の意識に焦点をあてて—	藤原真弓, 中山美由紀, 岡本双美子	日本救急看護学会雑誌	日本救急看護学会	16	1	10-19
佐保 美奈子	201401	妊娠前の20~30歳代就労女性の食習慣, やせに関する知識, 価値観の実態—やせ体型群と普通体型群の比較—	美甘祥子, 町浦美智子, 佐保美奈子	母性衛生	日本母性衛生学会	53	4	522-529
	201403	地域HIV看護の質の向上に関する研究	佐保美奈子	平成24年度研究報告書	厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業			99-113
	201403	HIV感染症及びその合併症の課題を克服する研究	白阪琢磨, 佐保美奈子, 他21名	平成24年度エイズ対策研究事業研究成果抄録集	厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業			118-121
中嶋 有加里	201307	妊婦の安全な運転姿勢のためのWeb動画教材に対する評価	中嶋有加里, 山田加奈子, 椿知恵, 町浦美智子	大阪母性衛生学会雑誌	大阪母性衛生学会	49	1	67-72
	201307	おむつなし育児の認知と排泄の自立に対する看護学生の意識調査	山中友理, 中嶋有加里	大阪母性衛生学会雑誌	大阪母性衛生学会	49	1	88-93
和泉 京子	201307	生活機能評価を受診した女性高齢者における自宅内転倒者の実態とその要因	土井有羽子, 上野昌江, 和泉京子	日本地域看護学会誌	日本地域看護学	16	1	4-11
	201307	中小規模事業場における勤労者の抑うつとその関連要因	足立安正, 上野昌江, 和泉京子	日本地域看護学会誌	日本地域看護学	16	1	48-55
北川 末幾子	201309	障害の重い児童生徒の危機管理	北川末幾子	特別支援教育	文部科学省初等中等教育局支援教育課	51		44-47
松田 千登勢	201403	急性期病棟の退院調整看護師が感じている高齢者の退院支援における困難	原田かおる, 松田千登勢, 長畑多代	日本老年看護学会誌 老年看護学	日本老年看護学会	18	2	67-75
石田 宜子	201403	急性心筋梗塞で経皮的冠動脈形成術を受けた患者が必要と考える情報と情報提供に関する看護介入	石田宜子, 古谷緑, 高見沢恵美子, 井上奈々, 松本智晴, 稲垣美紀, 石澤美保子	大阪府立大学看護学部紀要	大阪府立大学看護学部	20	1	39-46
香川 由美子	201403	がん関連倦怠感における研究の進展と今後の課題	香川由美子	大阪府立大学看護学部紀要	大阪府立大学看護学部	20	1	67-75
佐藤 淑子	201403	介護老人保健施設におけるノロウイルス感染対策としての行動規制により引き起こされる入所者にとって不利益な反応—看護師への面接を通して—	金崎美奈子, 佐藤淑子, 堀井理司	医療の質・安全学会誌	医療の質・安全学会	9	1	31-39
	201403	病床規模の異なる6病院における感染対策の実態	佐藤淑子, 平尾百合子	奈良女子大学社会学論集	奈良女子大学社会学研究会	21		107-121
藪下 八重	201403	慢性疾患看護CNSIによる倫理的看護実践支援の試みと評価	藪下八重, 竹川幸恵, 旗持知恵子	大阪府立大学看護学部紀要	大阪府立大学看護学部	20	1	77-83
紙野 雪香	201403	ナラティブ・アプローチに基づいた看護実践のとらえ直し	紙野雪香	奈良女子大学大学院人間文化研究科年報	奈良女子大学人間文化研究科	29		23-32
中岡 亜希子	201401	洗髪におけるナノミストシャワーの有用性-洗髪車と比較して-	横山友子, 杉本吉恵, 中岡亜希子, 田中結華, 高辻功一	日本看護技術学会誌	日本看護技術学会	12	3	24-33
	201403	新卒看護職者看護学生を支援する教育指導者の育成プログラムに関する取り組みとニーズ	池内香織, 細田泰子, 中岡亜希子, 中橋苗代	大阪府立大学看護学部紀要	大阪府立大学看護学部	20	1	1-8
	201403	洗髪による頭皮のATP値と皮脂量の変化	横山友子, 杉本吉恵, 田中結華, 中岡亜希子	大阪府立大学看護学部紀要	大阪府立大学看護学部	20	1	9-17
古山 美穂	201307	市区町村における要支援児童等の援助に関する周産期医療への要望	古山美穂, 才村純	大阪母性衛生学会誌	大阪母性衛生学会	49	1	40-44
	201307	在日韓国・朝鮮人若者の性に関する調査	椿知恵, 町浦美智子, 佐保美奈子, 古山美穂, 山田加奈子	大阪母性衛生学会誌	大阪母性衛生学会	49	1	94-99
大川 聡子	201306	10代の母という生き方③	大川聡子	対人援助学マガジン	対人援助学会	1	13	174-185
	201309	10代の母という生き方④	大川聡子	対人援助学マガジン	対人援助学会	1	14	182-190

	201312	10代の母という生き方⑤	大川聡子	対人援助学マガジン	対人援助学会	1	15	182-192
	201403	10代の母という生き方⑥	大川聡子	対人援助学マガジン	対人援助学会	1	16	189-194
別宮 直子	201312	手術後の消化器がん患者に対する他職種チームのサポートによるQOLの変化	白田久美子, 吉村弥須子, 前田勇子, 別宮直子, 岡本双美子, 花房陽子	日本がん看護学会誌	日本がん看護学会	27	3	71-76
	201403	精神科看護における「対応困難」に関する文献検討	日下部祥子, 田嶋長子, 別宮直子	大阪府立大学看護学部紀要	大阪府立大学看護学部	20	1	93-100
	201403	真正ラベンダーの精油吸入とフットマッサージがもつリラクゼーション効果-自律神経機能を指標とした生理的効果と心理的効果-	別宮直子, 佐保美奈子	大阪府立大学看護学部紀要	大阪府立大学看護学部	20	1	47-56
撫養 真紀子	201304	Development of a scale measuring the job satisfaction of Japanese hospital nurses	Makiko Muva, Kimiko Katsuyama, Fusako Ozaki, Hifumi Aoyama	Japan Journal of Nursing Science (Online Journal)	Japan Academy of Nursing Science	12	1	1-11
	201403	病院統合を経験した看護師の認識の変化と看護管理上の支援	撫養真紀子, 池亀みどり, 河村美枝子, 清水厚子, 志田京子, 勝山貴美子, 北居明, 上野恭裕, 青山ヒフミ	大阪府立大学看護学部紀要	大阪府立大学看護学部	20	1	19-28
	201403	病院に勤務する看護師の職業継続意思に関連する要因の検討	撫養真紀子, 池亀みどり, 河村美枝子, 清水厚子, 志田京子, 勝山貴美子, 北居明, 上野恭裕, 青山ヒフミ	大阪府立大学看護学部紀要	大阪府立大学看護学部	20	1	29-38
	201403	病院に勤務する看護師の職務満足測定尺度の信頼性・妥当性の検討	撫養真紀子, 勝山貴美子, 青山ヒフミ	社会医学研究	社会医学研究会	31	1	37-45
樺 知恵	201307	在日韓国・朝鮮人若者の性に関する調査	樺知恵, 町浦美智子, 佐保美奈子, 古山美穂, 山田加奈子	大阪母性衛生学会雑誌	大阪母性衛生学会	49	1	94-99
	201307	妊婦の安全な運転姿勢のためのWeb動画教材に対する評価	中嶋有加里, 山田加奈子, 樺知恵, 町浦美智子	大阪母性衛生学会雑誌	大阪母性衛生学会	49	1	67-72
	201312	日本の朝鮮初級学校に通う子どもの保護者による家庭での性に関する教育と学校での性教育へのニーズ	樺知恵(高知恵)	国際保健医療	日本国際保健医療学会	28	4	325
山田 加奈子	201307	在日韓国・朝鮮人若者の性に関する調査	樺知恵, 町浦美智子, 佐保美奈子, 古山美穂, 山田加奈子	大阪母性衛生学会雑誌	大阪母性衛生学会	49	1	94-99
	201307	妊婦の安全な運転姿勢のためのWeb動画教材に対する評価	中嶋有加里, 山田加奈子, 樺知恵, 町浦美智子	大阪母性衛生学会雑誌	大阪母性衛生学会	49	1	67-72
江口 恭子	201311	Videophone-based multimodal home telecare support system for patients with diabetes	Masakazu Kubota, Kiminori Hosoda, Kyoko Esuchi, Ayana Furuya, Yuki Nishijima, Kazuwa Nakao, Ayae Kinoshita	Diabetology International	Springer	4		52-59
日下部 祥子	201403	精神科看護における「対応困難」に関する文献検討	日下部祥子, 田嶋長子, 別宮直子	大阪府立大学看護学部紀要	大阪府立大学看護学部	20	1	93-100
深山 華織	201307	看護学生へのタブレットPCによる臨地実習での学習支援と臨床への応用	中村裕美子, 深山華織, 真嶋由貴恵	臨床看護	へるす出版	39	11	1480-1485
井上 奈々	201307	臨地実習における看護学生の学習効果を高める電子カルテの活用に関する研究	松本智晴, 鳥越千秋, 山本むつみ, 井上奈々, 宇都由美子, 熊本一朗	第14回日本医療情報学会看護学術大会論文集	有限責任中間法人日本医療情報学会			17-20
	201403	急性心筋梗塞で経皮的冠動脈形成術を受けた患者が必要と考える情報と情報提供に関する看護介入	石田宜子, 古谷緑, 高見沢恵美子, 井上奈々, 松本智晴, 稲垣美紀, 石澤美保子	大阪府立大学看護学部紀要	大阪府立大学看護学部	20	1	39-46
角野 雅春	201304	疾病と看護がわかる看護過程ナミングプロセス	角野雅春, 武田真理, 旗持知恵子	クリニカルスタディ	メヂカルフレンド社	34	3	49
徳岡 良恵	201309	ストレス・コーピング理論	徳岡良恵	Oncology NURSE	日総研出版	7	3	62-69
	201401	自己効力感	徳岡良恵	Oncology NURSE	日総研出版	7	3	71-77
松本 智晴	201307	臨地実習における看護学生の学習効果を高める電子カルテの活用に関する研究	松本智晴, 鳥越千秋, 山本むつみ, 井上奈々, 宇都由美子, 熊本一朗	第14回日本医療情報学会看護学術大会論文集	有限責任中間法人日本医療情報学会			17-20
	201307	看護必要度の評価項目からみた患者像と評価基準との関係	山本むつみ, 松本智晴, 宇都由美子, 熊本一朗	第14回日本医療情報学会看護学術大会論文集	有限責任中間法人日本医療情報学会			27-30
	201312	Visualization of Amount of Nursing Care Provided and Accessibility to Nursing Care Using DPC in Acute-Phase Inpatient Hospital Care	Matsumoto Chiharu, Uto Yumiko, Muranaga Fuminori, Kumamoto Ichiro	Methods of Information in Medicine	Schattauer	52	6	522-535
	201403	急性心筋梗塞で経皮的冠動脈形成術を受けた患者が必要と考える情報と情報提供に関する看護介入	石田宜子, 古谷緑, 高見沢恵美子, 井上奈々, 松本智晴, 稲垣美紀, 石澤美保子	大阪府立大学看護学部紀要	大阪府立大学看護学部	20	1	39-46
南村 二美代	201403	糖尿病の開示を視座にしたセルフマネジメント教育プログラムの検討:一事例をととして	南村二美代	大阪府立大学看護学部紀要	大阪府立大学看護学部	20	1	85-92
池内 香織	201305	終末期がん患者を抱える家族の家族機能の特徴とその影響要因	中橋苗代, 小笠原知枝, 吉岡さおり, 伊藤朗子, 池内香織	日本がん看護学会誌	日本がん看護学会	27	1	43-51
	201403	新卒看護職や看護学生を支援する教育指導者の育成プログラムに関する取り組みとニーズ	池内香織, 細田泰子, 中岡亜希子, 中橋苗代	大阪府立大学看護学部紀要	大阪府立大学看護学部	20	1	1-8
伊藤 良子	201311	ミニコミにみる性暴力の社会問題化	伊藤良子	女性学年報	日本女性学会	34		67-87
隅田 千絵	201306	看護系大学生の臨地実習におけるレジリエンスの構成要素	隅田千絵, 細田泰子, 星和美	日本看護研究学会誌	日本看護研究学会	36	2	59-67
山口 舞子	201304	健康人に対する両膝関節部温電法と音楽聴取がもたらす生理的・心理的变化	山口舞子, 杉本吉恵, 田中結華, 高辻功一	日本看護技術学会誌	日本看護技術学会	12	1	74-84

### 3) 学術講演・学会発表

氏名	発表年月	発表課題名	会議・学会名	発表者名
高辻 功一	201309	健康成人に対する足浴とハンドマッサージを組み合わせたケアによる生理的・心理的变化	第12回日本看護技術学会学術集会	金田典子, 林愛美, 増山栄利, 山口舞子, 杉本吉恵, 中岡亜希子, 岩崎幸恵, 高辻功一
中山 美由紀	201308	NICUにおける親子関係形成支援に関する熟練看護師のアセスメントと実践	日本家族看護学会第20回学術集会	田和なつ美, 中山美由紀, 岡本双美子
	201308	家族間における延命治療についての話し合いと家族機能	日本家族看護学会第20回学術集会	藤原真弓, 中山美由紀, 岡本双美子
	201310	家族間における延命治療についての話し合いに影響する要因-大学生の意識に焦点をあてて-	第15回日本救急看護学会学術集会	藤原真弓, 中山美由紀, 岡本双美子
	201312	NICUにおける親子関係形成の支援に関する熟練看護師の臨床判断	第33回日本看護科学学会学術集会	田和なつ美, 中山美由紀, 岡本双美子
	201402	Nursing Practice for Families with Infants Transitioning from NICUs to Their Homes	17th EAFONS	Miyuki Nakayama, Natsumi Tawa, Atsuko Inoue, Ayako Okada
	201402	Association between Family Discussions about Life-prolong Treatment and Attitudes toward Death among university Student TS	17th EAFONS	Mayumi Fujiwara, Miyuki Nakayama, Fumiko Okamoto
	201403	子どもの誕生と家族発達第8報-幼児期の子どもの問題行動と親の心理的健康度との関連-	日本発達心理学会第25回大会	中山美由紀, 福丸由佳, 小泉智恵, 無藤隆

榎木野 裕美	201307	看護師がとらえる検査・処置を受ける幼児後期の子どもの“がんばる”姿	第23回日本小児看護学会	小幡善美, 榎木野裕美
	201307	虐待を受けた子どもをケアするなかで病棟看護師が抱いた感情とそのコントロール	第23回日本小児看護学会	川口めぐみ, 榎木野裕美
	201307	ブレインレーションを行った子どもの反応を看護師はどのようにみているのか、事例をとらえて考えてみよう	第23回日本小児看護学会	小野智美, 榎木野裕美, 岡崎裕子, 今野美紀, 田畑久江, 浅利剛
	201308	Status of Adaptation to Motherhood by Women who Became Pregnant in In Vitro Fertilization	2nd NUS-NUH International Nursing Conference	Hisae Miyata, Masako Abe, <a href="#">Hiromi Naragino</a>
	201310	体外受精によって妊娠・出産した母親の育児状況 —アンケート調査から—	第54回日本母性衛生学会	宮田久枝, 八木佳奈子, 阿部正子, 榎木野裕美
	201312	体外受精による母親の育児困難	日本子ども虐待防止学会 第19回学術集会	宮田久枝, 榎木野裕美, 阿部正子
町浦 美智子	201307	妊婦の飲料水摂取に関する実態	第15回日本母性看護学会学術集会	大東千晃, 町浦美智子, 中嶋有加里
	201310	中国人女性留学生のリプロダクティブヘルスに関連する知識の実態調査	第54回日本母性衛生学会学術集会	齊藤早苗, カルデナス暁東, 黒田裕子, 町浦美智子, 末原紀美代
	201310	妊婦の飲料水摂取行動に関連する要因	第54回日本母性衛生学会学術集会	大東千晃, 中嶋有加里, 町浦美智子
	201312	更年期女性の健康行動の増進に向けた健康行動記録ノートについて	第33回日本看護科学学会学術集会	中西伸子, 町浦美智子, 齊藤早苗
	201312	中国人女性留学生の女性の健康に関する知識と行動	第33回日本看護科学学会学術集会	齊藤早苗, カルデナス暁東, 黒田裕子, 町浦美智子, 末原紀美代
上野 昌江	201310	妊娠中および授乳期の女性の飲酒行動の実態とその関連要因	第72回日本公衆衛生学会	今城治世子, 上野昌江, 和泉京子
	201310	A市における乳児早期家庭訪問から4か月児健診で継続支援が必要になった事例の特徴	第72回日本公衆衛生学会	湯原寛子, 蔦谷裕美, 上野昌江, 和泉京子, 大川聡子, 根来佐由美
	201310	A市における乳児早期家庭訪問の医療機関紹介事例の特徴	第72回日本公衆衛生学会	上野昌江, 和泉京子, 大川聡子, 根来佐由美, 湯原寛子, 蔦谷裕美
	201310	出産前後における母親の里帰りの実態と父親のサポートとの関連	第72回日本公衆衛生学会	唐澤里子, 上野昌江, 和泉京子
	201310	周産期からの医療機関との連携による虐待発生予防の支援の実態と保健師の役割	第72回日本公衆衛生学会	岡本かおり, 上野昌江
	201310	ネグレクト事例に関わる保健師が関係機関との連携に用いた技術	第72回日本公衆衛生学会	光安早織, 上野昌江, 和泉京子
	201312	0歳児の虐待による死亡または重症事例の検討	第19回学術集会信州大会	上野昌江, 山田和子, 小林美智子
	201312	ネグレクト事例の支援において保健師が関係機関との連携に用いた技術—関係機関との信頼関係の構築に焦点をあてて—	第19回学術集会信州大会	光安早織, 上野昌江, 和泉京子
田嶋 長子	201306	否定的感情を抱いた患者に対する精神科看護師の援助体験	日本精神保健看護学会 第23回学術集会	浮舟裕介, 田嶋長子
長畑 多代	201306	介護拒否の強い若年性アルツハイマー病利用者のケアに関する一考察	第14回日本認知症ケア学会大会	江口恭子, 長畑多代, 宇原奈穂子, 北浦一代
	201306	急性期病院の退院調整看護師が感じている高齢者の退院支援における困難	日本老年看護学会第18回学術集会	原田かおる, 松田千登勢, 長畑多代
	201306	特別養護老人ホームにおける感染管理の実態調査(第一報)感染対策委員会の活動に焦点をあてて	日本老年看護学会第18回学術集会	松田千登勢, 山地佳代, 佐藤淑子, 江口恭子, 長畑多代
	201306	特別養護老人ホームにおける感染管理の実態調査(第二報)感染管理活動に焦点をあてて	日本老年看護学会第18回学術集会	山地佳代, 松田千登勢, 佐藤淑子, 江口恭子, 長畑多代
	201306	Development of Educational Programs for the Nursing Staff to Support End-of-Life Care in Nursing Homes	The 20th IAGG World Congress of Gerontology and Geriatrics	<a href="#">Tayo Nagahata</a> , Chitose Matsuda, Kae Yamauchi, Kyoko Eguchi, Kayo Ymaji
	201312	特別養護老人ホームの感染管理活動とその関連要因	第33回日本看護科学学会学術集会	山地佳代, 松田千登勢, 佐藤淑子, 江口恭子, 長畑多代
	201312	特別養護老人ホームにおける感染管理の課題	第33回日本看護科学学会学術集会	松田千登勢, 山地佳代, 佐藤淑子, 江口恭子, 長畑多代
	201403	特別養護老人ホームでの看取りにおける看護・介護職の連携内容	第18回日本在宅ケア学会学術集会	江口恭子, 長畑多代, 松田千登勢, 山地佳代, 笹谷真由美, 山内加絵
中村 裕美子	201307	Terminal Tablet as Electric Textbooks for Nursing Practicum	15th HCII 2013	Yumiko Nakamura, Yuki Majima, Kaori Fukayama
	201310	在宅高齢者の認知機能低下予防教室への経年参加による認知機能の変化	第72回日本公衆衛生学会	中村裕美子, 深山華織
高見沢 恵美子	201306	小児集中治療室における乳幼児の至適鎮痛鎮静震度の維持に向けた看護師のアセスメントと実践	第9回日本クリティカルケア看護学会学術集会	辻尾有利子, 高見沢恵美子
	201306	クリティカルケア領域における代理意思決定に対して専門看護師が行う倫理調整	第9回日本クリティカルケア看護学会学術集会	北別府孝輔, 高見沢恵美子
	201306	クリティカルケア領域の終末期ケアに対して看護師が認識する困難の内容とその対処および必要とする支援	第9回日本クリティカルケア看護学会学術集会	辻本雄大, 高見沢恵美子
	201308	集中治療室の看護師が認識する多臓器不全患者の家族に対する看護実践への影響要因	第39回日本看護研究学会学術集会	中山智代美, 高見沢恵美子, 石澤美保子
	201312	形態素分析を活用したPCIおよびCABGを受ける患者に必要な情報提供への援助	第33回日本看護科学学会学術集会	井上奈々, 松本智晴, 石田宜子, 高見沢恵美子, 石澤美保子, 稲垣美紀
	201312	PCIおよびCABGを受ける患者に必要な情報と提供するための看護介入	第33回日本看護科学学会学術集会	松本智晴, 井上奈々, 石田宜子, 高見沢恵美子, 石澤美穂子, 稲垣美紀, 正井崇史
	201312	心筋梗塞患者が実践しているセルフケアの内容	第33回日本看護科学学会学術集会	稲垣美紀, 高見沢恵美子
	201312	看護学における若手研究者育成のために	第33回日本看護科学学会学術集会	西沢義子, 高見沢恵美子, 箕作康志, 加藤尚子
	201403	PCIおよびCABG術後患者が必要と考える情報および情報獲得に必要な看護介入に関する研究	第24回日本医学看護学教育学会学術集会	松本智晴, 井上奈々, 石田宜子, 高見沢恵美子, 山田聡子, 杉野由起子, 稲垣美紀, 石澤美保子
	201403	狭心症または心筋梗塞でPCIを受ける患者への情報提供のための看護介入に関する研究	第24回日本医学看護学教育学会学術集会	石田宜子, 松本智晴, 井上奈々, 高見沢恵美子, 石澤美保子, 稲垣美紀, 牧野恵子, 山田聡子, 大名美記子
	201403	CABGを受ける患者に必要な情報および情報提供のための看護介入に関する研究	第24回日本医学看護学教育学会学術集会	井上奈々, 松本智晴, 石田宜子, 高見沢恵美子, 玉井照美, 道端由美子, 竹下エミ子, 大名美記子, 杉野由起子, 稲垣美紀, 石澤美保子
田中 京子	201311	DIFFICULTIES AND LEARNING NEEDS OF HOME CARE NURSES CARING FOR END-STAGE CANCER PATIENTS AND THEIR FAMILIES	The 1st Asian Oncology Nursing Society Conference	古谷緑, 徳岡良恵, 田中京子, 林田裕美, 香川由美子
	201402	進行・再発治療期のがん患者・家族に対する訪問看護師の看護実践上の困難と求める学習内容	第28回日本がん看護学会学術集会	徳岡良恵, 古谷緑, 林田裕美, 香川由美子, 田中京子
	201402	終末期がん患者の疼痛マネジメントを行う際に訪問看護師が感じる困難	第28回日本がん看護学会学術集会	森井淳子, 林田裕美, 田中京子



	201402	化学放射線療法を受けているがん患者のレジリエンス	第28回日本がん看護学会学術集会	中村由美, 田中京子, 林田裕美
	201402	積極的治療が困難になったがん患者の家族の思い〜緩和ケア病棟に入院中の患者の家族を対象に〜	第28回日本がん看護学会学術集会	後藤佐知子, 田中京子, 林田裕美, 香川由美子
旗持 知恵子	201306	慢性疾患看護CNSによる倫理的看護実践支援の試みと評価	第7回日本慢性看護学会学術集会	藪下八重, 竹川幸恵, 旗持知恵子
	201306	高血圧患者の塩分計を用いたセルフモニタリングの評価	第7回日本慢性看護学会学術集会	旗持知恵子, 角野雅春, 武田真弓, 中村美知子, 松下由美子
	201306	血液透析患者の食事療法に関するストレス・コーピングと自己管理行動との関連	第7回日本慢性看護学会学術集会	中村雅美, 旗持知恵子, 藪下八重
	201306	慢性閉塞性肺疾患患者における嚥下障害のリスクと影響要因の検討	第7回日本慢性看護学会学術集会	西依見子, 竹川幸恵, 藪下八重, 旗持知恵子
	201306	慢性心不全患者の自己管理に向けたヘルスリテラシーの様相—心不全初発患者と増悪経験のある患者の比較—	第7回日本慢性看護学会学術集会	角野雅春, 旗持知恵子
	201310	Evaluation of self-monitoring methods with the salt monitor in middle-aged male hypertension outpatients	9th International Nursing Conference	Chieko Hatamochi, Michiko Nakamura, Masaharu Kadono, Yumiko Matsushita, Kayo Yokota, Mayumi Takeda
	201311	Coping with Dietary Therapy-Related Stress in Hemodialysis Patients	9th International Nursing Conference	Masami Nakamura, Chieko Hatamochi
	201312	高血圧患者の減塩に向けた支援方法の検討—健康手帳と減塩計を活用した試験的取り組み	第33回日本看護科学学会学術集会	旗持知恵子, 角野雅春, 中村美知子, 松下由美子, 武田真弓, 横田香世
	201312	臨床看護における患者の食事・栄養摂取量測定方法の検討—食事指導への活用—	第33回日本看護科学学会学術集会	中村美知子, 旗持知恵子, 西田頼子, 内田一美, 古屋洋子, 長崎ひとみ, 大日向陽子
	201312	安定期慢性閉塞性肺疾患患者における栄養状態と食生活の実態	第33回日本看護科学学会学術集会	毛利貴子, 旗持知恵子
志田 京子	201308	看護学生一年次を対象としたICLS講習での学びに関するテキストマイニング手法を用いた質的内容分析	日本救急医学学会学術集会	松尾正人, 増永恵子, 卯津羅雅彦, 志田京子
	201402	JTAS研修実施前後のトリアージ適合性についての検討	静岡県看護学会	増永恵子, 多田信也, 飯田敏秀, 野澤陽子, 志田京子
杉本 吉恵	201306	介護保険施設におけるシーティングの効果と課題	International Association of Gerontology and Geriatrics	佐々木八千代, 白井みどり, 北村有香, 杉本吉恵, 臼井キミカ, 廣瀬秀行
	201307	看護師と介護職員のためのシーティング・ガイドライン車いすを使用する虚弱高齢者のために—	第8回 応用福祉工学シンポジウム	白井みどり, 佐々木八千代, 廣瀬秀行, 北村有香, 杉本吉恵, 臼井キミカ
	201309	健康成人に対する足浴とハンドマッサージを組み合わせたケアによる生理的・心理的变化	第12回日本看護技術学会学術集会	金田典子, 林愛美, 増山栄利, 山口舞子, 杉本吉恵, 中岡亜希子, 岩崎幸恵, 高辻功一
細田 泰子	201308	基礎看護学実習における看護学生のアーティファクトに対する状況的認知	日本看護学教育学会第23回学術集会	岡島規子, 細田泰子, 星和美
	201308	救急領域に勤務する新人期看護師の技能習得に影響を及ぼす経験—実践共同体における相互作用に焦点をあてて	日本看護学教育学会第23回学術集会	鈴木亜衣美, 細田泰子, 星和美
	201308	日本語版Peer Group Caring Interaction Scale (PGCIS)の信頼性と妥当性の検討	日本看護学教育学会第23回学術集会	梶喜子, 細田泰子, 星和美
	201308	新卒看護師や看護学生を支援する教育指導者の育成プログラムに関する取り組み	日本看護学教育学会第23回学術集会	池内香織, 細田泰子, 中岡亜希子, 中橋苗代
	201308	新卒看護師や看護学生を支援する教育指導者の育成プログラムに関する成果	日本看護学教育学会第23回学術集会	中橋苗代, 細田泰子, 中岡亜希子, 池内香織
	201308	新卒看護師や看護学生を支援する教育指導者の育成プログラムに関する課題	日本看護学教育学会第23回学術集会	中岡亜希子, 細田泰子, 中橋苗代, 池内香織
	201308	看護技術学習方略尺度の開発	第39回日本看護研究会学術集会	三吉友美子, 細田泰子, 星和美
	201311	Perspectives held by faculty and students on clinical learning environments in United States and Japanese baccalaureate nursing programs	Sigma Theta Tau International 42nd Biennial Convention	Yasuko Hosoda, Mayumi Negishi, Paula Gubrud-Howe
	201402	The effect of critical thinking on emotional labor in nurses	17th East Asian Forum of Nursing Scholars	Yukari Katayama, Yasuko Hosoda, Aimi Suzuki
	201402	Effects of Nursing Students' Critical Thinking on Their Clinical Competence	17th East Asian Forum of Nursing Scholars	Aimi Suzuki, Yasuko Hosoda, Yukari Katayama
	201312	看護系大学教員に必要とされる能力の検討—大学教員経験を3年以上有する教員への面接調査の結果から—	第33回日本看護科学学会学術集会	土肥美子, 細田泰子
	201312	新人期の看護師の看護コンピテンシーに寄与する中堅期の看護師からの支援	第33回日本看護科学学会学術集会	隅田千絵, 細田泰子
	201312	看護学実習の臨床学習環境における日米の看護大学生の状況的認知	第33回日本看護科学学会学術集会	細田泰子, 根岸まゆみ
	201403	新卒看護師や看護学生を支援する教育指導者の育成プログラムに関するニーズ	第24回日本医学看護学教育学会学術集会	細田泰子, 中岡亜希子, 中橋苗代, 池内香織
	201403	看護系大学に所属する若手教員が必要とする能力の検討	第24回日本医学看護学教育学会学術集会	土肥美子, 細田泰子
	201403	実習指導者のクリティカルシンキングと看護実践力の関連	第24回日本医学看護学教育学会学術集会	鈴木亜衣美, 細田泰子, 片山由加里
岡本 双美子	201309	家族間における延命治療についての話し合いと家族機能	第20回日本家族看護学会	藤原真弓, 中山美由紀, 岡本双美子
	201309	NICUにおける親子関係形成の支援に関する熟練看護師のアセスメントと実践	第20回日本家族看護学会	田和なつ美, 中山美由紀, 岡本双美子
	201309	家族間における延命治療についての話し合いに影響する要因—大学生の意識に焦点をあてて—	第15回救急看護学会学術集会	藤原真弓, 中山美由紀, 岡本双美子
	201311	葬儀社によるグリーフケアの試み (10)—教育・研修の機会の提供とその効果—	第37回日本死の臨床研究会 年次大会	廣江輝夫, 泉原久美, 黒川雅代子, 岡本双美子, 坂口幸弘
	201312	NICUにおける親子関係形成の支援に関する熟練看護師の臨床判断	第33回日本看護科学学会学術集会	田和なつ美, 中山美由紀, 岡本双美子
	201402	Association between Family Discussions about Life-prolonging Treatment and Attitudes Toward Death among University Students	17th EAFONS	Mayumi Fujiwara, Miyuki Nakayama, Fumiko Okamoto
	201402	Difficult feelings of visiting nurses regarding grief care for families providing end-of-life care for cancer patients at home	17th EAFONS	Fumiko Okamoto, Mizuko Hiramatsu
	201403	終末期がん患者とその家族への在宅療養移行における支援内容とその評価—遺族のインタビューから—	第18回日本在宅ケア学会学術集会	河野政子, 岡本双美子, 梅田信一郎, 大坪よし子, 石川奈名, 松延さゆり, 川口いずみ, 上原美智代
佐保 美奈子	201305	思春期の女性オストメイトの性の多様性を大切にされたセクシュアリティ支援	第27回日本小児ストーマ排泄研究会	佐保美奈子
	201306	HIVサポートリーダー養成研修の取り組み —研修にアクティビティーを取り入れた効果—	第27回 近畿エイズ研究会 in大阪	山田加奈子, 佐保美奈子, 古山美穂, 椿知恵, 工藤里香

	201307	総排泄腔症思春期女子の恋愛へのチャレンジ	第22回日本小児泌尿器科学会	佐保美奈子, 山田加奈子, 古山美穂, 椿知恵
	201307	膀胱外反症・総排泄腔外反症 治療の現状および成年期の問題	第22回日本小児泌尿器科学会	松井太, 黒川哲之, 矢沢浩治, 松本富美, 島田憲次, 松尾規佐, 佐保美奈子
	201308	病院での人権研修においてHIV/AIDSから学べること	日本人権教育研究会第14回大会(神戸)	佐保美奈子
	201308	総排泄腔症の思春期女性のセクシュアルヘルスへの支援	第32回日本思春期学会(和歌山)	佐保美奈子
	201311	エイズ予防講座からの高校生の学び	第27回 日本エイズ学会(熊本)	佐保美奈子, 鈴木光次, 古山美穂, 椿知恵, 山田加奈子
	201311	HIVサポーターリーダー養成研修での新たな試み ～実地見学を通して得られる体験～	第27回 日本エイズ学会(熊本)	椿知恵, 佐保美奈子, 古山美穂, 山田加奈子, 工藤里香
	201312	高校生の発達段階に応じたデートバイオレンス予防についての出前講義の試み-おつきあいのマナーかるた、ディスカッションシートを使用して-	第52回大阪母性衛生学会学術集会	佐保美奈子, 古山美穂, 椿知恵, 山田加奈子
	201312	総排泄腔遺残症をもつ思春期・青年期患者の昼食会の試み	第24回近畿小児ストーマ・排泄・創傷研究会	佐保美奈子
中嶋 有加里	201307	妊婦の飲料水摂取行動の実態	第15回日本母性看護学会学術集会	大東千晃, 町浦美智子, 中嶋有加里
	201310	妊婦の飲料水摂取行動に関連する要因	第54回日本母性衛生学会学術集会	大東千晃, 中嶋有加里, 町浦美智子
	201310	女子大生の起立性調節障害と睡眠	第54回日本母性衛生学会学術集会	毛受矩子, 佐藤拓代, 中嶋有加里
和泉 京子	201308	乳がん検診・自己触診法の意識を高める啓発活動一年齢差に着目して-	第16回日本地域看護学会学術集会	大川聡子, 根来佐由美, 和泉京子, 上野昌江
	201308	大学と地域住民による協働活動の実態 -大学と近隣地区小学校とのコラボレーション授業の評価-	第16回日本地域看護学会学術集会	根来佐由美, 北川末幾子, 上野昌江, 和泉京子, 真砂隆太郎
木村 洋子	201310	An Intervention for Depression Suicidal Behavior Patients with Emotiona Mudulation Therapy	World Psychiatric Association International Congress 2013(Vienna,Austria)	Masami Hasegawa, Yoko Kimura
松田 千登勢	201306	特別養護老人ホームにおける感染管理の実態(第1報) 感染管理委員会の活動に焦点を当てて	日本老年看護学会第18回学術集会	山地佳代, 松田千登勢, 佐藤淑子, 江口恭子, 長畑多代
	201306	Development of Educational Programs for the Nursing Staff to Support End-of-Life Care in Nursing Homes	The 20th IAGG World Congress of Gerontology and Geriatrics	Tayo Nagahata, Chitose Matsuda, Kae Yamauchi, Kyoko Eguchi, Kayo Ymaji
	201307	特別養護老人ホームにおける感染管理の実態(第2報) 感染管理活動に焦点を当てて	日本老年看護学会第18回学術集会	松田千登勢, 山地佳代, 佐藤淑子, 江口恭子, 長畑多代
	201308	急性期病院の退院調整看護師が感じている高齢者の退院支援における困難	日本老年看護学会第18回学術集会	原田かおる, 松田千登勢, 長畑多代
	201312	特別養護老人ホームの感染管理活動とその関連要因	第33回日本看護科学学会学術集会	山地佳代, 松田千登勢, 佐藤淑子, 江口恭子, 長畑多代
	201312	特別養護老人ホームにおける感染管理の課題	第33回日本看護科学学会学術集会	松田千登勢, 山地佳代, 佐藤淑子, 江口恭子, 長畑多代
	201403	特別養護老人ホームでの看取りケアにおける看護・介護職の連携内容	第18回日本在宅ケア学会学術集会	江口恭子, 長畑多代, 松田千登勢, 山地佳代, 山内加絵, 笹谷真由美
石田 宣子	201310	救命救急センター看護師が 初療時に特に援助困難と感じる家族およびその看護	第15回日本救急看護学会学術集会	石田宣子
	201312	PCIおよびCABGを受ける患者に必要な情報と提供するための看護介入	第33回日本看護学会学術集会	松本智晴, 井上奈々, 石田宣子, 高見沢恵美子, 石澤美穂子, 稲垣美紀, 正井崇史
	201312	形態素分析を活用したPCIおよびCABGを受ける患者に必要な情報提供への援助	第33回日本看護学会学術集会	井上奈々, 松本智晴, 石田宣子, 高見沢恵美子, 石澤美保子, 稲垣美紀
	201403	狭心症または心筋梗塞でPCIを受ける患者への情報提供のための看護介入に関する研究	第24回日本医学看護学教育学会学術集会	石田宣子, 松本智晴, 井上奈々, 高見沢恵美子, 石澤美保子, 稲垣美紀, 牧野恵子, 山田聡子, 大名美記子
	201403	PCIおよびCABG術後患者が必要と考える情報および情報獲得に必要な看護介入に関する研究	第24回日本医学看護学教育学会学術集会	松本智晴, 井上奈々, 石田宣子, 高見沢恵美子, 山田聡子, 杉野由起子, 稲垣美紀, 石澤美保子
	201403	CABGを受ける患者に必要な情報および情報提供のための看護介入に関する研究	第24回日本医学看護学教育学会学術集会	井上奈々, 松本智晴, 石田宣子, 高見沢恵美子, 玉井照美, 道端由美子, 竹下エミ子, 大名美記子, 杉野由起子, 稲垣美紀, 石澤美保子
佐藤 淑子	201306	特別養護老人ホームにおける感染管理の実態調査(第1報)	日本老年看護学会第18回学術集会	松田千登勢, 山地佳代, 佐藤淑子, 江口恭子, 長畑多代
	201306	特別養護老人ホームにおける感染管理の実態調査(第2報)	日本老年看護学会第18回学術集会	山地佳代, 松田千登勢, 佐藤淑子, 江口恭子, 長畑多代
	201312	特別養護老人ホームの感染管理活動とその関連要因	第33回日本看護科学学会学術集会	山地佳代, 松田千登勢, 佐藤淑子, 江口恭子, 長畑多代
	201312	特別養護老人ホームにおける感染管理の課題	第33回日本看護科学学会学術集会	松田千登勢, 山地佳代, 佐藤淑子, 江口恭子, 長畑多代
林田 裕美	201311	DIFFICULTIES AND LEARNING NEEDS OF HOME CARE NURSES CARING FOR END-STAGE CANCER PATIENTS AND THEIR FAMILIES	The 1st Asian Oncology Nursing Society Conference	古谷緑, 徳岡良恵, 田中京子, 林田裕美, 香川由美子
	201402	進行・再発治療期のがん患者・家族に対する訪問看護師の看護実践上の困難と求める学習内容	第28回日本がん看護学会学術集会	徳岡良恵, 古谷緑, 林田裕美, 香川由美子, 田中京子
	201402	終末期がん患者の疼痛マネジメントを行う際に訪問看護師が感じる困難	第28回日本がん看護学会学術集会	森井淳子, 林田裕美, 田中京子
	201402	化学放射線療法を受けているがん患者のレジリエンス	第28回日本がん看護学会学術集会	中村由美, 田中京子, 林田裕美
	201402	積極的治療が困難になったがん患者の家族の思い～緩和ケア病棟に入院中の患者の家族を対象に～	第28回日本がん看護学会学術集会	後藤佐知子, 田中京子, 林田裕美, 香川由美子
敷下 八重	201306	慢性疾患看護CNSによる倫理的看護実践支援の試みと評価	第7回日本慢性看護学会学術集会	敷下八重, 竹川幸恵, 旗持知恵子
	201306	慢性閉塞性肺疾患患者における嚥下障害のリスクと影響要因の検討	第7回日本慢性看護学会学術集会	西依見子, 竹川幸恵, 敷下八重, 旗持知恵子
	201306	血液透析患者の食事療法に関するストレス・コーピングと自己管理行動との関連	第7回日本慢性看護学会学術集会	中村雅美, 旗持知恵子, 敷下八重
中岡 亜希子	201308	新卒看護職者や看護学生を支援する教育指導者の育成プログラムに関する取り組み	日本看護学教育学会第23回学術集会	池内香織, 細田泰子, 中岡亜希子, 中橋苗代
	201308	新卒看護職者看護学生を支援する教育指導者の育成プログラムに関する課題	日本看護学教育学会第23回学術集会	中岡亜希子, 細田泰子, 中橋苗代, 池内香織
	201308	新卒看護職者看護学生を支援する教育指導者の育成プログラムに関する成果	日本看護学教育学会第23回学術集会	中橋苗代, 細田泰子, 中岡亜希子, 池内香織
	201309	健康成人に対する足浴とハンドマッサージを組み合わせたケアによる生理的・心理的变化	日本看護技術学会第12回学術集会	金田典子, 林愛実, 増山栄利, 山口舞子, 杉本吉恵, 中岡亜希子, 岩崎幸恵, 高辻功一
	201312	臨地実習において清潔援助技術を実施する看護学生の学びの様相	第33回日本看護科学学会学術集会	中岡亜希子, 伊藤朗子, 富澤理恵, 山本直美

	201312	現役模擬患者 (Simulated Patient:SP)が語るSPに求められる資質	第33回日本看護科学学会学術集会	山本直美, 久米弥寿子, 中岡亜希子, 伊藤朗子, 富澤理恵, 山本純子, 梅川奈々
	201403	新卒看護職者や看護学生を支援する教育指導者の育成プログラムに関するニーズ	第24回日本医学看護学教育学会学術集会	細田泰子, 中岡亜希子, 中橋苗代, 池内香織
古山 美穂	201307	総排泄腔症思春期女子への恋愛へのチャレンジ	第22回日本小児泌尿器科学学会	佐保美奈子, 古山美穂, 椿知恵, 山田加奈子, 工藤里香
	201306	HIVサポートリーダー養成研修の取り組み-研修にアクティビティを取り入れた効果-	第27回近畿エイズ研究会	山田加奈子, 佐保美奈子, 古山美穂, 椿知恵, 工藤里香
	201308	親権者不同意の一時保護ケースからみた思春期後期にある子どもの被害の実態	第32回日本思春期学会学術集会	古山美穂, 才村純
	201309	勤務看護職の高校生への出張性教育活動「体験から考える」、活動継続への支援	第44回日本看護学会看護管理	椿知恵, 山田加奈子, 古山美穂, 佐保美奈子
	201310	勤務看護職の高校生への出張性教育活動	第54回日本母性衛生学会学術集会	山田加奈子, 椿知恵, 古山美穂, 佐保美奈子
	201310	Nusing Teachers' Views of Menstrual Problems in Primary and Secondary Schools in Japan:A Qualitative Study	9th INC&3rd WANS	Rika Kudo, Miho Furuvama
	201311	HIVサポートリーダー養成研修での新たな試み-実地見学を通して得られる体験-	第27回日本エイズ学会学術集会	椿知恵, 佐保美奈子, 古山美穂, 山田加奈子, 工藤里香
	201311	人権講演会「エイズ予防講座」からの高校生の学び	第27回日本エイズ学会学術集会	佐保美奈子, 鈴木光次, 古山美穂, 山田加奈子, 椿知恵
	201312	熟練助産師が特定妊婦と判断し、保健・福祉との円滑な連携に努めるプロセス	第33回日本看護科学学会学術集会	古山美穂
	201312	要対協への周産期医療機関の参加状況と、必要性に関する市区町村の見解	日本子ども虐待防止学会第19回学術集会信州大会	古山美穂, 才村純
	201312	高校生の発達段階に応じたデートバイオレンス予防についての出前講義の試み-おつきあいのマナーから、ディスカッションシートを使用して-	第52回大阪母性衛生学会学術集会	佐保美奈子, 山田加奈子, 椿知恵, 古山美穂
大川 聡子	201305	日本の若年母親の社会的特徴-アメリカ・イギリスの事例を参照して	第39回日本保健医療社会学会	大川聡子
	201308	乳がん検診・自己触診法の意識を高める啓発活動-年齢差に着目して-	第16回日本地域看護学会学術集会	大川聡子, 根来佐由美, 和泉京子, 上野昌江
	201308	大学と地域住民による協働活動の実践-大学と近隣地区小学校とのコラボレーション事業の評価	第16回日本地域看護学会学術集会	根来佐由美, 北川末幾子, 上野昌江, 大川聡子, 和泉京子, 真砂隆太郎
	201308	10代女性が母親となるプロセス-出産を選択する社会的特徴に着目して	第10回日本質の心理学会	大川聡子
	201310	A市における乳児早期家庭訪問から4か月児健診で継続支援が必要になった事例の特徴	第72回日本公衆衛生学会	上野昌江, 和泉京子, 大川聡子, 根来佐由美, 湯原寛子, 高谷裕美
	201310	A市における乳児早期家庭訪問の医療機関紹介事例の特徴(第2報)	第72回日本公衆衛生学会	湯原寛子, 高谷裕美, 上野昌江, 和泉京子, 大川聡子, 根来佐由美
	201401	若年母親グループにおけるライフプラン構築を支援する取り組み	第2回日本公衆衛生看護学会	大川聡子, 薬師川厚子
山内 加絵	201306	Development of Educational Programs for the Nursing Staff to Support End-of-Life Care in Nursing Homes	The 20th IAGG World Congress of Gerontology and Geriatrics	Tayo Nagahata, Chitose Matsuda, Kae Yamauchi, Kyoko Eguchi, Kayo Ymaji
	201403	特別養護老人ホームでの看取りケアにおける看護・介護連携内容	第18回日本在宅ケア学会学術集会	江口恭子, 長畑多代, 松田千登勢, 山地佳代, 山内加絵, 笹谷真由美
撫養 真紀子	201308	病院の管理体制と看護職の組織コミットメント、バーンアウトの関連	第17回日本看護管理学会学術集会	撫養真紀子, 青山ヒフミ, 池亀みどり, 河村美枝子, 清水厚子
	201308	統合した病院の看護管理体制と組織文化が看護職へ与える影響	第17回日本看護管理学会学術集会	河村美枝子, 清水厚子, 青山ヒフミ, 撫養真紀子, 池亀みどり
	201308	病院の合併・再編成等における看護師長による病棟の組織化	第17回日本看護管理学会学術集会	池亀みどり, 青山ヒフミ, 撫養真紀子
	201308	民間中小規模病院の人的資源管理における看護管理者のリテンション・マネジメント	第17回日本看護管理学会学術集会	稲垣伊津穂, 青山ヒフミ, 撫養真紀子
岡崎 裕子	201307	プレパレーションを行った子どもの反応を看護師はどのようにみているか	日本小児看護学会第23回学術集会	小野智美, 檜木野裕美, 今野美紀, 井坂久美子, 岡崎裕子, 栗林佑季, 長谷川由香
椿 知恵	201306	HIVサポートリーダー養成研修の取り組み-研修にアクティビティを取り入れた効果-	第27回近畿エイズ研究会	山田加奈子, 佐保美奈子, 古山美穂, 椿知恵, 工藤里香
	201307	総排泄腔症思春期女子の恋愛へのチャレンジ	第22回日本小児泌尿器科学学会	佐保美奈子, 古山美穂, 椿知恵, 山田加奈子, 工藤里香
	201308	朝鮮初級学校に通う思春期男女へのセクシュアリティ支援	第32回日本思春期学会	椿知恵(高知恵)
	201309	勤務看護職の高校生への出張性教育活動「体験」から考える、活動継続への支援	第44回日本看護学会看護管理学会学術集会	椿知恵, 山田加奈子, 古山美穂, 佐保美奈子
	201310	勤務看護職の高校生への出張性教育活動	第54回日本母性衛生学会	山田加奈子, 椿知恵, 古山美穂, 佐保美奈子
	201311	HIVサポートリーダー養成研修での新たな試み-実地見学を通して得られる体験-	第27回日本エイズ学会	椿知恵, 佐保美奈子, 古山美穂, 山田加奈子, 工藤里香
	201311	人権講演会「エイズ予防講座」からの高校生の学び	第27回日本エイズ学会	佐保美奈子, 鈴木光次, 古山美穂, 山田加奈子, 椿知恵
	201311	在日韓国・朝鮮人若者の家族や婚姻に関する価値観と婚前交渉に対する意識	第28回日本国際保健医療学会	椿知恵(高知恵)
山田 加奈子	201306	HIVサポートリーダー養成研修の取り組み-研修にアクティビティを取り入れた効果-	第27回近畿エイズ研究会	山田加奈子, 佐保美奈子, 古山美穂, 椿知恵, 工藤里香
	201309	勤務看護職の高校生への主張による性教育活動-「体験」から考える、活動継続への支援-	第44回日本看護学会看護管理学会学術集会	椿知恵, 山田加奈子, 古山美穂, 佐保美奈子
	201310	総排泄腔症思春期女子の恋愛へのチャレンジ	第22回日本小児泌尿器科学学会	佐保美奈子, 古山美穂, 椿知恵, 山田加奈子, 工藤里香
	201310	勤務看護職の高校生への出張性教育活動	第54回日本母性衛生学会学術集会	山田加奈子, 椿知恵, 古山美穂, 佐保美奈子
	201311	HIVサポートリーダー養成研修での新たな試み-実地見学を通して得られる体験-	第27回日本エイズ学会学術集会	椿知恵, 佐保美奈子, 古山美穂, 山田加奈子, 工藤里香
	201311	人権講演会「エイズ予防講座」からの高校生の学び	第27回日本エイズ学会学術集会	佐保美奈子, 鈴木光次, 古山美穂, 山田加奈子, 椿知恵
	201312	アフリカ諸国における熟練助産介助者(SBA)による分娩の動向に関する要因-人口保健調査(DHS)を用いた年代別の比較-	第28回日本国際保健医療学会	山田加奈子, 垣本和宏
	201312	高校生の発達段階に応じたデートバイオレンス予防についての出前講義の試み-おつきあいのマナーから、ディスカッションシートを使用して-	第52回大阪母性衛生学会学術集会	佐保美奈子, 山田加奈子, 椿知恵, 古山美穂
江口 恭子	201306	介護拒否の強い若年性アルツハイマー病患者のケアに関する一考察	日本認知症ケア学会	江口恭子, 長畑多代

	201306	特別養護老人ホームにおける感染管理の実態調査(第1報)	日本老年看護学会	松田千登勢, 山地佳代, 江口恭子, 長畑多代
	201306	特別養護老人ホームにおける感染管理の実態調査(第2報)	日本老年看護学会	山地佳代, 松田千登勢, 江口恭子, 長畑多代
	201306	Development of educational programs for the nursing staff to support end-of-life care in nursing homes	The 20th IAGG World Congress of Gerontology and Geriatrics	Tayo Nagahata, Chitose Matsuda, Kae Yamauchi, <u>Kyoko Eguchi</u> , Kayo Ymaji
	201312	特別養護老人ホームの感染管理活動とその関連要因	第33回日本看護科学学会学術集会	山地佳代, 松田千登勢, 佐藤淑子, 江口恭子, 長畑多代
	201312	特別養護老人ホームにおける感染管理の課題	第33回日本看護科学学会学術集会	松田千登勢, 山地佳代, 佐藤淑子, 江口恭子, 長畑多代
	201312	認知症の人と家族が安心して集える場としての認知症カフェ及びそれに類する集いの場の効果	第33回日本看護科学学会学術集会	江口恭子, 鈴木和代
	201403	特別養護老人ホームでの看取りケアにおける看護・介護職の連携内容	第18回日本在宅ケア学会学術集会	江口恭子, 長畑多代, 松田千歳, 山内加絵, 山地佳代, 笹谷真由美
根来 佐由美	201308	乳がん検診・自己触診法の意識を高める啓発活動一年齢差に着目して	第16回日本地域看護学会学術集会	大川聡子, 根来佐由美, 和泉京子, 上野昌江, 長塚真理, 寺田美貴, 小笠原未来
	201308	大学と地域住民による協働活動の実態 大学と近隣地区小学校とのコラボレーション授業の評価	第16回日本地域看護学会	根来佐由美, 北川末幾子, 上野昌江, 大川聡子, 和泉京子, 真砂隆太郎
	201310	A市における乳児早期家庭訪問から4か月児健診で継続支援が必要になった事例の特徴(第1報)	第72回日本公衆衛生学会総会	湯原寛子, 菟谷裕美, 上野昌江, 和泉京子, 大川聡子, 根来佐由美
	201310	A市における乳児早期家庭訪問の医療機関紹介事例の特徴(第2報)	第72回日本公衆衛生学会総会	上野昌江, 和泉京子, 大川聡子, 根来佐由美
深山 華織	201307	Terminal Tablet as Electric Textbooks for Nursing Practicum	15th HCI 2013	Yumiko Nakamura, Yukie Majima, <u>Kaori Fukayama</u>
	201310	在宅高齢者の認知機能低下予防教室への経年参加による認知機能の変化	第72回日本公衆衛生学会総会	中村裕美子, 深山華織
山地 佳代	201306	特別養護老人ホームにおける感染管理の実態調査(第1報)	日本老年看護学会第18回学術集会	松田千登勢, 山地佳代, 佐藤淑子, 江口恭子, 長畑多代
	201306	特別養護老人ホームにおける感染管理の実態調査(第2報)	日本老年看護学会第18回学術集会	山地佳代, 松田千登勢, 佐藤淑子, 江口恭子, 長畑多代
	201306	Development of Educational Programs for the Nursing Staff to Support End-of-Life Care in Nursing Homes	The 20th IAGG World Congress of Gerontology and Geriatrics	Tayo Nagahata, Chitose Matsuda, Kae Yamauchi, Kyoko Eguchi, <u>Kayo Ymaji</u>
	201312	特別養護老人ホームの感染管理活動とその関連要因	第33回日本看護科学学会学術集会	山地佳代, 松田千登勢, 佐藤淑子, 江口恭子, 長畑多代
	201312	特別養護老人ホームにおける感染管理の課題	第33回日本看護科学学会学術集会	松田千登勢, 山地佳代, 佐藤淑子, 江口恭子, 長畑多代
	201403	特別養護老人ホームでの看取りケアにおける看護・介護職の連携内容	第18回日本在宅ケア学会学術集会	江口恭子, 長畑多代, 松田千歳, 山内加絵, 山地佳代, 笹谷真由美
井上 奈々	201307	臨床実習における看護学生の学習効果を高める電子カルテの活用に関する研究	第14回日本医療情報学会看護学大会	松本智晴, 鳥越千秋, 山本むつみ, 井上奈々, 宇都由美子, 熊本一朗
	201312	PCIおよびCABGを受ける患者に必要な情報と提供するための看護介入	第24回日本看護科学学会学術集会	井上奈々, 松本智晴, 石田宜子, 稲垣美紀, 石澤美保子, 高見沢恵美子
	201312	形態素分析を活用したPCIおよびCABGを受ける患者に必要な情報提供への援助	第24回日本看護科学学会学術集会	松本智晴, 井上奈々, 石田宜子, 稲垣美紀, 石澤美保子, 高見沢恵美子
	201403	PCIおよびCABG術後患者が必要と考える情報および情報獲得に必要な看護介入に関する研究	第24回日本医学看護学教育学会学術集会	松本智晴, 井上奈々, 石田宜子, 高見沢恵美子, 山田聡子, 杉野由起子, 稲垣美紀, 石澤美保子
	201403	狭心症または心筋梗塞でPCIを受ける患者への情報提供のための看護介入に関する研究	第24回日本医学看護学教育学会学術集会	石田宜子, 松本智晴, 井上奈々, 高見沢恵美子, 石澤美保子, 稲垣美紀, 牧野恵子, 山田聡子, 大名美記子
	201403	CABGを受ける患者に必要な情報および情報提供のための看護介入に関する研究	第24回日本医学看護学教育学会学術集会	井上奈々, 松本智晴, 石田宜子, 高見沢恵美子, 玉井照美, 道端由美子, 竹下エミ子, 大名美記子, 杉野由起子, 稲垣美紀, 石澤美保子
角野 雅春	201306	慢性心不全患者の自己管理に向けたヘルスリテラシーの核相—心不全初発患者と増悪経験のある患者の比較—	第7回日本慢性看護学会学術集会	角野雅春, 旗持知恵子
	201306	高血圧患者の塩分計を用いたセルフモニタリングの評価	第7回日本慢性看護学会学術集会	旗持知恵子, 角野雅春, 武田真弓, 中村美知子, 松下由美子
	201310	Evaluation of self-monitoring methods with the salt monitor in middle-aged male hypertension outpatients	9th International Nursing Conference	Chieko Hatamochi, Michiko Nakamura, Masaharu Kadono, Yumiko Matsushita, Kayo Yokota, Mayumi Takeda
	201312	高血圧患者の減塩に向けた支援方法の検討—健康手帳と減塩計を活用した試験的取り組み	第33回日本看護科学学会学術集会	旗持知恵子, 角野雅春, 中村美知子, 松下由美子, 武田真弓, 横田香世
徳岡 良恵	201311	DIFFICULTIES AND LEARNING NEEDS OF HOME CARE NURSES CARING FOR END-STAGE CANCER PATIENTS AND THEIR FAMILIES	The 1st Asian Oncology Nursing Society Conference	古谷緑, 徳岡良恵, 田中京子, 林田裕美, 香川由美子
	201402	進行・再発治療期のがん患者・家族に対する訪問看護師の看護実践上の困難と求める学習	第28回日本がん看護学会学術集会	徳岡良恵, 古谷緑, 林田裕美, 香川由美子, 田中京子
	201402	がん看護専門看護師によるがん看護外来に関する文献レビュー	第28回日本がん看護学会学術集会	徳岡良恵, 岩崎多津代, 奥明子, 田代真理, 中混子, 成松恵, 細田志衣, 吉田こずえ, 笠谷美保, 高山良子, 吉田智美
	201402	がん看護外来におけるがん看護専門看護師の実践内容と成果の特徴(第1報)~患者の力を引き出す『単純実践型』を中心に~	第28回日本がん看護学会学術集会	高山良子, 笠谷美保, 徳岡良恵, 根岸恵, 田中結美, 宇野さつき, 成松恵, 二宮由紀恵, 中混子, 岩崎多津代, 吉田こずえ, 渡壁晃子, 吉田智美
	201402	がん看護外来におけるがん看護専門看護師の実践内容と成果の特徴(第2報)~患者・家族・地域を包括的にとらえる『複合調整型』を中心に~	第28回日本がん看護学会学術集会	笠谷美保, 高山良子, 徳岡良恵, 根岸恵, 田中結美, 宇野さつき, 成松恵, 二宮由紀恵, 中混子, 岩崎多津代, 吉田こずえ, 渡壁晃子, 吉田智美
松本 智晴	201307	臨床実習における看護学生の学習効果を高める電子カルテの活用に関する研究	第14回日本医療情報学会看護学大会	松本智晴, 鳥越千秋, 山本むつみ, 井上奈々, 宇都由美子, 熊本一朗
	201312	臨床実習における看護学生の電子カルテ活用に関する要因の分析	第33回医療情報学連合大会	松本智晴
	201312	PCIおよびCABGを受ける患者に必要な情報と提供するための看護介入	第24回日本看護科学学会学術集会	井上奈々, 松本智晴, 石田宜子, 稲垣美紀, 石澤美保子, 高見沢恵美子
	201312	形態素分析を活用したPCIおよびCABGを受ける患者に必要な情報提供への援助	第24回日本看護科学学会学術集会	松本智晴, 井上奈々, 石田宜子, 稲垣美紀, 石澤美保子, 高見沢恵美子
	201403	PCIおよびCABG術後患者が必要と考える情報および情報獲得に必要な看護介入に関する研究	第24回日本医学看護学教育学会学術集会	松本智晴, 井上奈々, 石田宜子, 高見沢恵美子, 山田聡子, 杉野由起子, 稲垣美紀, 石澤美保子
	201403	狭心症または心筋梗塞でPCIを受ける患者への情報提供のための看護介入に関する研究	第24回日本医学看護学教育学会学術集会	石田宜子, 松本智晴, 井上奈々, 高見沢恵美子, 石澤美保子, 稲垣美紀, 牧野恵子, 山田聡子, 大名美記子
	201403	CABGを受ける患者に必要な情報および情報提供のための看護介入に関する研究	第24回日本医学看護学教育学会学術集会	井上奈々, 松本智晴, 石田宜子, 高見沢恵美子, 玉井照美, 道端由美子, 竹下エミ子, 大名美記子, 杉野由起子, 稲垣美紀, 石澤美保子
南村 二美代	201306	糖尿病の開示を視座にしたセルフマネジメント教育プログラムの検討~事例をとおして~	第7回日本慢性看護学会学術集会	南村二美代
	201311	The effect of a diabetes self-management education program including disease disclosure sessions	2013 International Conference on Diabetes and Metabolism & 5th Scientific Meeting of The Asian Association for the Study of Diabetes	Fumio Minamimura

池内 香織	201308	新卒看護職者や看護学生を支援する教育指導者の育成プログラムに関する成果	日本看護学教育学会第23回学術集会	中橋苗代, 細田泰子, 中岡亜希子, 池内香織
	201308	新卒看護職者や看護学生を支援する教育指導者の育成プログラムに関する課題	日本看護学教育学会第23回学術集会	中岡亜希子, 細田泰子, 中橋苗代, 池内香織
	201308	新卒看護職者や看護学生を支援する教育指導者の育成プログラムに関する取り組み	日本看護学教育学会第23回学術集会	池内香織, 細田泰子, 中岡亜希子, 中橋苗代
	201403	新卒看護職者や看護学生を支援する教育指導者の育成プログラムに関するニーズ	第24回日本医学看護学教育学会学術集会	細田泰子, 中岡亜希子, 中橋苗代, 池内香織
伊藤 良子	201306	リブとフェミニズム運動による性暴力の社会問題化—ミニコミにみる性暴力ストーリーの転換—	2013年度日本女性学会大会	伊藤良子
隅田 千絵	201312	新人期の看護師の看護コンピテンシーに寄与する中堅期の看護師からの支援	第33回日本看護科学学会学術集会	隅田千絵, 細田泰子
山口 舞子	201309	健康成人に対する足浴とハンドマッサージを組み合わせたケアによる生理的・心理的变化	日本看護技術学会第12回学術集会	金田典子, 林愛実, 増山利栄, 山口舞子, 杉本吉恵, 中岡亜希子, 岩崎幸恵, 高辻功一

#### 4) 講演会・シンポジウム・研究会等の講演

氏名	講演会・シンポジウム・研究会等の講演	題名	会場等	講演年月日	参加者数(人)
中山 美由紀	小児訪問看護啓発研修会	グループワークにおけるファシリテーター	大阪府看護協会ナースングアート大阪	2013年7月13日	59
	小児訪問看護フィジカルアセスメント研修	小児訪問看護フィジカルアセスメント	大阪府看護協会桃谷研修センター	①2013年10月6日, ②11月23日	①45 ②41
檜木野 裕美	大阪府看護協会 実習指導者研修会	小児看護学実習	大阪府看護協会ナースングアート大阪	2013年6月3日, 10月25日, 2014年2月3日	各80
	看護研究	小児看護における研究の実際	滋賀県立小児保健医療センター	2014年1月25日	60
上野 昌江	平成25年度児童虐待対応保健職員指導者研修	死亡事例から学ぶ—虐待に至った親について—	子どもの虹情報研修センター(日本虐待・思春期情報研修センター)	2013年8月21日	70
	乳児全戸訪問事業従事者研修会	乳児全戸訪問事業 支援を必要とする家庭の早期発見・支援のポイント	セラビーいこま	2013年8月29日	30
	母子保健の基礎(出生体重児、発達障害児、児童虐待の支援)	児童虐待における保健師活動～予防から支援まで～	エル・大阪(大阪府立労働センター)	2013年10月31日	50
	子育て支援者研修会	子ども虐待予防における妊娠期からの切れ目のない支援	ビューアリティまきび	2013年11月1日	30
	母子保健活動における保健指導—新任期保健師・指導保健師の役割を考える—	母子保健活動・子ども虐待予防における保健師の支援方略	和歌山県看護研修センター	2013年12月8日	40
	発達障害児支援・虐待未然防止等従事者研修会	子育てのしにくさを感じている母への支援と支援者の役割	山城北保健所綴喜分室	2013年12月11日	20
	平成25年度大阪府保健指導研究会自主勉強会	ステップファミリーが持つ課題について	大阪市職員人材開発センター	2014年1月29日	20
	平成25年度地域保健従事者研修会	子ども虐待予防における保健師の役割と支援方法	備中保健所	2014年2月17日	30
	「地域で支えられ支えることの関係性を創造する」～産む人の妊娠中・出産・産後の満足感が子育て力にかかわる時～	切れ目のない支援・地域で子育てを支えること	KCC会館	2014年3月8日	50
	平成25年度テーマ別研修「家族への支援」	死亡事例から学ぶ—虐待に至った親について—	子どもの虹情報研修センター(日本虐待・思春期情報研修センター)	2014年3月4日	100
長畑 多代	大阪府看護協会短期研修(老年看護) 講師	高齢者の理解と認知症看護①, ②	大阪府看護協会ナースングアート大阪	①2013年8月7日, ②12月11日	各250
中村 裕美子	電子教科書セミナー 講師	タブレットPCによる看護教育	シャープ(株) 東京本社	2013年9月6日, 9日	各30
	医学書院セミナー 講師	看護教育におけるICTを活用した教育実践	大宮法科大学院ビル	2013年10月8日	80
	電子教科書セミナー 講師	タブレットPCによる看護教育	独協医科大学	2013年11月21日	50
	大阪府保健師2年目研修	地区活動について	大阪府がん循環器病予防センター	2014年2月12日	60
田中 京子	大阪府看護協会 がん性疼痛看護認定看護師教育課程 講師	看護学総論	大阪府看護協会桃谷センター	2013年6月11日, 7月30日	18
	大阪府立大学大学院看護学研究科 講演会「看護管理者からみたがん看護専門看護師の活用と課題」	教育の場におけるがん看護専門看護師の育成	AP梅田大阪	2013年11月30日	61
	鳥取大学 がん医療セミナー 講師	がん看護専門看護師の教育	鳥取大学医学部アレスコ棟	2014年2月15日	40
	鳥取大学 がん医療セミナー 講師	がん看護専門看護師教育課程の構築	鳥取大学医学部アレスコ棟	2014年2月15日	15
旗持 知恵子	職員研修会(看護研究研修) 講師	看護研究とは: 概論編	大阪府立呼吸器・アレルギー医療センター	2013年5月31日	30
	職員研修会(看護研究研修) 講師	看護研究とは: 実践編	大阪府立呼吸器・アレルギー医療センター	2013年7月30日	30
	職員研修会(看護研究研修) 講師	「看護研修指導」1～4回	大阪府立呼吸器・アレルギー医療センター	2013年9月10日, 13日, 10月1日, 11月5日	各10
志田 京子	大阪府看護協会 非常勤講師	認定看護管理者サードレベル 保健医療福祉政策論(グループワーク)	大阪府看護協会	2013年10月16日, 11月12日	—
細田 泰子	大阪府専任教員養成講習会 講師	看護教育評価論	大阪府看護協会	2013年5月1日, 29日, 6月12日, 7月3日, 7日	—
	大阪府立呼吸器・アレルギー医療センター 職員研修会 講師	文献クリティーク	大阪府立呼吸器・アレルギー医療センター	2013年6月13日	—
	大阪府看護協会 認定看護管理者教育課程セカンドレベル 講師	看護基礎教育制度と実習支援	大阪府看護協会	2013年8月1日, 2014年1月10日	—
	和歌山県立福祉保健部健康局 看護師等養成所専任教員継続研修会 講師	看護教育におけるインストラクショナルデザイン	和歌山県民文化会館	2013年12月18日	22
	奈良県立医科大学附属病院 看護部教育研修会 講師	サポーター研修 I	奈良県立医科大学附属病院	2014年3月17日	40
	大阪府立病院機構 新人看護職員実施指導者研修会 講師	教育・指導	大阪府立急性期・総合医療センター	2014年2月21日	100
	佐保 美奈子	大阪府看護協会専任教員養成講習会 講師	母性看護学	大阪府看護協会ナースングアート大阪	2013年7月4日, 19日

	国立病院機構大阪医療センターHIV研修 講師	性の多様性	国立大阪医療センター	2013年9月9日、10月21日	各60
	羽曳野市子育てサポート研修会 講師	がんばりすぎない子育て	羽曳野市子育て支援センター	2013年9月27日	20
	大阪府教育委員会 発達段階に応じた性に関する指導者養成研修 講師	助産師から見た性に関する指導の必要性	大阪府教育センター	2013年10月23日	20
	大阪府保健師助産師看護師実習指導者講習会 講師	母性看護学教育課程	大阪府看護協会ナーシングアート大阪	2013年10月31日、2014年2月13日	60
北川 末幾子	医療的ケア「3号研修」講師	医療的ケア研修の格差解消を求めて	神戸市男女共同参画センター神戸あすてつぷ	2014年3月9日	120
松田 千登勢	日本認知症ケア学会関西2地域部会 事例検討会	認知症高齢者へのケア	大阪府医師協同組合 本部	2013年9月7日、12月14日	60
藪下 八重	慢性看護に関する研修	“その人らしく”を支える-難病看護を中心に-	兵庫中央病院	2013年12月4日	52
林田 裕美	大阪府立成人病センター臨床実習指導者会 講師	学生の特徴と臨床現場へのお願い	大阪府立成人病センター	2013年10月10日	—
紙野 雪香	第5回ナラティブ公開シンポジウム 企画・話題提供	自由な対話空間をめざして	北松中央病院	2013年10月27日	50
	大阪府立病院機構5医療センター 新人看護職員教育担当者研修 講師	成人学習論とインストラクショナルデザイン	大阪府立急性期・総合医療センター	2013年11月8日	60
	蒼龍会 看護・管理者研修 講師	ナラティブと私の実践	蒼龍会井上病院	2013年12月14日	20
	静岡県看護協会 講師	やりたい看護の発見	静岡県看護協会	2013年12月19日、2014年1月29日	各50
古山 美穂	大阪府立母子保健総合医療センター新人教育担当者研修	シミュレーション研修におけるファシリテーターの役割	大阪府立母子保健総合医療センター	2013年9月18日	30
	東大阪市学校園保健会東大阪市養護教諭部会	性教育の在り方	東大阪市庁舎	2013年10月16日	110
	日本基督教団河内長野教会附属聖愛保育園 講演会	0歳児からの心の教育—保護者として日々の保育の中で出来ること—	日本基督教団河内長野教会附属聖愛保育園	2013年12月26日	20
	河内長野市教育研究会養護教諭部会	性とコミュニケーション①、②	河内長野市立千代田中学校	①2014年1月30日、②3月19日	各27
大川 聡子	寝屋川保健所、寝屋川市保健センター職員向け保健師等研修会 講師	10代の保護者の特性の理解と支援のポイント 虐待の視点からの記録の書き方	寝屋川市立保健福祉センター	2014年2月19日	19
	八尾保健所、八尾市保健センター、柏原市保健センター職員向け保健師等研修会 講師	保健師記録の書き方 ～虐待対応の記録を中心に～	八尾市保健センター	2014年3月4日	25
	大阪府社会福祉協議会 社会貢献事業「スキルアップ講座」(研修会) 講師	若年の母子世帯への支援	大阪府社会福祉会館	2014年3月19日	50
山内 加絵	保健師助産師看護師実習指導者講習会 講師	老年学実習指導の実際 I	近畿厚生局	2013年10月18日	—
撫養 真紀子	大阪府看護協会ファースト研修 講師	グループマネジメント(リーダーシップ論)	大阪府看護協会桃谷研修センター	2013年6月22日、10月22日、2014年1月21日	各80
	大阪府立病院機構5医療センター看護師長研修 講師	看護職員の職務満足の上につなげるマネジメント	大阪府立急性期・総合医療センター	2013年7月18日、2014年1月24日	20
椿 知恵	第6回HIVサポートリーダー養成研修 講師	思春期のセクシュアリティ	大阪府看護協会桃谷研修センター	2013年6月27日	20
	第7回HIVサポートリーダー養成研修 講師	思春期のセクシュアリティ	大阪府看護協会桃谷研修センター	2013年10月10日	20
山田 加奈子	第6回HIVサポートリーダー養成研修 講師	セクシュアリティ概論	大阪府看護協会桃谷研修センター	2013年6月27日	20
	第7回HIVサポートリーダー養成研修 講師	セクシュアリティ概論	大阪府看護協会桃谷研修センター	2013年10月10日	20
江口 恭子	日本認知症ケア学会関西2地域部会 事例検討会Ⅱ	グループワークにおけるファシリテーター	神戸国際会館	2013年8月3日	64
	日本認知症ケア学会関西2地域部会 事例検討会Ⅳ	グループワークにおけるファシリテーター	神戸国際会館	2013年11月9日	60
徳岡 良恵	大阪府看護協会 ELNEC-J研修 講師	看護職のためのエンド・オブ・ライフ・ケア研修	大阪府看護協会	2013年8月10日、11日	70
松本 智晴	ケーススタディ 講師	ケーススタディ指導	大阪南医療センター	2013年9月4日、11月5日、12月10日、2014年2月4日	17
南村 二美代	ケーススタディ 講師	ケーススタディ指導	大阪南医療センター	2013年9月10日、11月12日、12月17日、2014年2月4日	17
伊藤 良子	性と健康を考える女性専門家の会 近畿支部講演会 講師	性暴力被害・加害について知ろう 性暴力被害者への支援	大阪府立大学 I-siteなんば	2014年2月22日	30
岩崎 幸恵	ケーススタディ 講師	ケーススタディ指導	大阪南医療センター	2013年9月～2014年2月	—

## 5) 公開講座

氏名	公開講座名	題名	会場等	開講年月日	受講者数(人)
町浦 美智子	高大連携授業公開講座	セクシュアリティと看護	大阪府立大学羽曳野キャンパス	2013年11月26日	10
長畑 多代	府大講座	認知症を正しく知って備える	大阪府立大学中百舌鳥キャンパス	2013年9月7日	250
佐保 美奈子	高大連携授業公開講座	セクシュアリティと看護	大阪府立大学羽曳野キャンパス	2013年12月17日、2014年1月14日、21日	10
和泉 京子	生死を分ける72時間サバイバル学 スポット講座	被災後の72時間のために ～健康の備え～	大阪府立大学 I-siteなんば	2013年7月12日	30
木村 洋子	羽曳野キャンパス公開講座	病気を持つ人の家族 心の健康の視点から	大阪府立大学羽曳野キャンパス	2013年10月30日	89
石田 宜子	羽曳野キャンパス公開講座	あなたや家族が手術をうけるとき	大阪府立大学羽曳野キャンパス	2013年10月16日	89
林田 裕美	羽曳野キャンパス公開講座	あなたや家族ががんになったとき	大阪府立大学羽曳野キャンパス	2013年10月23日	89
紙野 雪香	はびきの市民大学	患者と看護師、ともに歩んだ先にあるもの	LICIはびきの(羽曳野市立生活文化情報センター)	2013年11月20日	54

古山 美穂	高大連携授業公開講座	セクシュアリティと看護	大阪府立大学羽曳野キャンパス	2013年12月3日、10日	各10
椿 知恵	高大連携授業公開講座	セクシュアリティと看護	大阪府立大学羽曳野キャンパス	2013年12月24日	10
	はびきの市民大学	元気をもらって若返ろう 1歳からの孫育て	LICIはびきの(羽曳野市立生活文化情報センター)	2014年1月22日	55
山田 加奈子	はびきの市民大学	老年期のセクシュアリティ	LICIはびきの(羽曳野市立生活文化情報センター)	2013年11月27日	40
山地 佳代	はびきの市民大学	医療との付き合い方～あなたや家族が認知症になったとき～	LICIはびきの(羽曳野市立生活文化情報センター)	2014年1月15日	53
南村 二美代	はびきの市民大学	あなたや家族が糖尿病になったとき	LICIはびきの(羽曳野市立生活文化情報センター)	2013年12月11日	53
伊藤 良子	江東区2013男女共同参画フォーラム「性暴力研究の潮流～若き研究者たちの挑戦～」	性暴力当事者が支援者になること	江東区男女共同参画推進センター	2013年6月23日	30
	堺市2013年度女と男のフォーラム	性暴力のない社会をつくろう	大阪府立大学中百舌鳥キャンパス	2013年11月14日	166
	福知山市教育委員会「人材育成支援事業」	恋愛の大事なルール～デートDV・性暴力を知っていますか？	福知山市民会館	2014年1月24日	30
山口 舞子	はびきの市民大学	膝の痛みとの付き合い方～変形性膝関節症の場合～	LICIはびきの(羽曳野市立生活文化情報センター)	2013年11月13日	54

## 6) 出張講義・出前講義

氏名	講義名	出張・出前先	開講年月日	受講者数(人)
杉本 吉恵	看護の魅力	初芝富田林高等学校	2013年11月2日	22
細田 泰子	ナースを育てる教育とキャリアデザイン	ポートメッセなごや	2013年7月20日	97
佐保 美奈子	デートバイオレンスとおしゃれ障害	大阪商業大学附属高等学校	2013年6月6日	500
	おつきあいのマナー	大阪府立農芸高等学校	2013年6月12日	200
	性感染症予防	大阪府立摂津高等学校	2013年6月27日	363
	おつきあいのマナー	堺市立堺高等学校	2013年7月3日	240
	自分を大切に性話	大阪府立咲洲高等学校	2013年7月3日	180
	自分を大切に性話	大阪府立西野田工科高等学校	2013年7月5日	60
	HIV感染症予防	大阪府立鳳高等学校	2013年11月12日	40
	自分を大切に性話	甲南女子大学	2013年11月26日	100
	デートバイオレンス予防	大阪府立成美高等学校	2014年1月23日	237
	家庭における性教育	大阪府立成美高等学校PTA	2014年1月23日	80
中嶋 有加里	看護・助産のごと	大阪府立徳風館高等学校	2013年11月28日	11
古山 美穂	年齢別春親子教室大丈夫のおまじない～自分にも、子どもにも優しいまなざしで～	羽曳野市立子育て支援センターふるいち	2013年5月27日	11
	男女のおつきあいのマナーとデートバイオレンスの予防	大阪府立農芸高等学校	2013年6月12日	194
	これからの自分探し①	大阪府教育センター附属高等学校	2013年6月13日	121
	これからの自分探し②	大阪府教育センター附属高等学校	2013年6月13日	121
	年齢別春親子教室大丈夫のおまじない～自分にも、子どもにも優しいまなざしで～	羽曳野市立子育て支援センターむかひの	2013年6月21日	9
	年齢別春親子教室大丈夫のおまじない～自分にも、子どもにも優しいまなざしで～	羽曳野市立子育て支援センターふるいち	2013年6月26日	10
	男女のおつきあいのマナーとデートバイオレンスの予防	堺市立堺高等学校	2013年7月3日	240
	これからの自分探し	大阪府立天王寺高等学校	2013年10月17日	352
	これからの自分探し	大阪教育大学附属高等学校池田校舎	2014年1月16日	160
	男女のおつきあいのマナーとデートバイオレンスの予防	大阪府立成美高等学校	2014年1月23日	400
性教育の在り方	富田林市保健センター	—	2	
撫養 真紀子	看護とコミュニケーション	兵庫県立星陵高等学校	2013年11月12日	21
椿 知恵	お付き合いのマナーとおしゃれ障害について	大阪府立今宮高等学校	2013年5月24日	240
	大阪、京都府内朝鮮初級学校における性と生の教育	城北朝鮮初級学校	2013年6月6日	14
	大阪、京都府内朝鮮初級学校における性と生の教育	大阪朝鮮第4初級学校	2013年6月7日	70
	性教育人権講演会ワークショップ	大阪府立農芸高等学校	2013年6月12日	194
	大阪、京都府内朝鮮初級学校における性と生の教育	京都朝鮮初級学校	2013年6月17日	68
	大阪、京都府内朝鮮初級学校における性と生の教育	東大阪朝鮮初級学校	2013年6月20日	26

	Sexualityちゃんと知ろう	大阪府立園芸高等学校	2013年6月26日	200
	大阪、京都府内朝鮮初級学校における性と生の教育	北大阪朝鮮初級学校	2013年6月29日	25
	お付き合いのマナーについてのワークショップ	堺市立堺高等学校	2013年7月3日	240
	大阪、京都府内朝鮮初級学校における性と生の教育	中大阪朝鮮初級学校	2013年7月5日	26
	これからの自分探し	大阪府立阪南高等学校	2013年10月7日	240
山田 加奈子	男女のおつきあいのマナーとデートバイオレンスの予防	大阪府農芸高等学校	2013年6月12日	194
	男女のおつきあいのマナーとデートバイオレンスの予防	堺市立堺高等学校	2013年7月3日	240
	男女のおつきあいのマナーとデートバイオレンスの予防	大阪府立堺東高等学校	2013年10月4日	280
	男女のおつきあいのマナーとデートバイオレンスの予防	大阪府立大手前高等学校	2014年2月6日	50
伊藤 良子	性差別、デートDV、性暴力	大阪府立東百舌鳥高等学校	2013年11月14日	30
	性暴力被害にあった人に寄りそう	大東学園高等学校	2014年1月30日	40

## 7) 公的な委員会など

氏名	委 嘱 先 ・ 参 画 委 員 会 名	職 務 内 容	役 職 名
中山 美由紀	大阪府看護協会 訪問看護ステーションの小児看護推進事業委員会	小児訪問看護の推進事業に関する協議	委員長
	日本家族看護学会	家族看護学研究 編集委員	委員
楢木野 裕美	日本看護科学学会	学会誌に投稿された論文の査読	専任査読委員
	日本小児看護学会	学会誌に投稿された論文の査読	専任査読委員
	日本子ども虐待防止学会	学会誌の編集委員	委員
	大阪府看護協会 調査研究倫理審査会	大阪府看護協会が関与する調査研究に関する倫理審査	委員長
	日本小児看護学会	理事会出席、学会の学術教育支援	理事
	日本看護系大学協議会 専門看護師教育課程認定委員会委員 小児看護専門分科会	小児看護における専門看護師教育課程の認定を行う	委員
	日本小児看護学会 第23回学術集会	第23回学術集会に投稿された演題の査読	査読委員
	日本看護科学学会 第33回学術集会	第33回学術集会に投稿された演題の査読	査読委員
町浦 美智子	日本看護学会	学会誌に投稿された論文の査読	専任査読委員
	日本母性衛生学会	社員総会への出席、学術論文賞の論文の推薦	評議員
	日本母性看護学会	理事会への出席、学会の学術・教育支援	理事
	日本看護科学学会	社員総会への出席	代議員
	日本看護研究学会	学会誌に投稿された論文の査読	査読委員
	日本看護系大学協議会 専門看護師教育課程認定委員会委員 母性看護専門分科会	母性看護における専門看護師教育課程の認定を行う	委員長
	日本看護科学学会	学会誌に投稿された論文の査読	専任査読委員
	日本母性看護学会	理事会への出席、学会の学術・教育支援	理事
	第33回日本看護科学学会総会	学会総会議事録への署名・押印	委員
	日本看護研究学会	社員総会への出席	評議員
	上野 昌江	日本看護協会 専門看護師認定委員会	専門看護師の認定審査
日本看護系大学協議会 専門看護師教育課程認定委員会		専門看護師教育課程の認定審査	委員
文部科学省高等教員局 大学設置分科会		保健衛生部会での審査	委員
全国保健師教育機関協議会		協議会活動への参画	理事
奈良県医療政策部 奈良県母子保健運営協議会		奈良県母子保健対策の検討	委員
奈良県医療政策部 奈良県立病院評価委員会		県立病院独立法人化に向けての検討	委員
大阪府健康医療部 大阪府保健師の保健活動作成検討会		保健活動指針の作成	委員
羽曳野市健康づくり推進協議会		羽曳野市健康づくり活動の検討	委員
泉大津市 健康泉大津21推進委員会		泉大津市の健康泉大津21の推進	委員長
京都府家庭支援総合センター		子ども虐待事例支援へのアドバイス	アドバイザー



	公益財団法人大阪公衆衛生協会「母と子のすこやか基金」運営委員会	「母と子のすこやか基金」助成研究の検討	委員
	公益財団法人大阪公衆衛生協会「藤原九十郎賞」顕彰委員会	「藤原九十郎賞」の選定	委員
	大阪市保健師人材育成評価検討会	大阪市保健師の研修評価	委員
	日本地域看護学会 編集委員会	学会誌投稿論文の編集	委員
	日本公衆衛生看護学会 編集委員会	学会誌投稿論文の編集	委員
	日本看護科学学会	学会誌に投稿された論文の査読	査読委員
長畑 多代	堺市介護認定審査会	介護保険の要介護認定の二次判定	委員
	藤井寺市介護認定審査会	介護保険の要介護認定の二次判定	委員
	大阪府介護保険審査会	介護保険給付に関する処分に対する不服申立の審理・裁決	委員
	藤井寺市地域密着型サービス運営委員会	地域密着型サービス指定候補事業者の選定	委員
	藤井寺市地域包括支援センター運営協議会	地域包括支援センターの運営に関する指導	委員
	藤井寺市保健福祉計画推進協議会いきいき長寿部会	藤井寺市いきいき長寿プランの策定	委員
	大阪府准看護師試験委員会	准看護師試験の問題作成	委員
	日本老年看護学会 第18回学術集会	第18回学術集会に演題登録された抄録の査読	査読委員
	日本老年看護学会	学会誌に投稿された論文の査読	専任査読委員
	京都大学医学部人間健康科学学科紀要委員会	投稿論文の査読	査読者
中村 裕美子	科学研究費委員会 専門委員	日本学術振興会 科研費助成事業における審査	委員
高見沢 恵美子	日本クリティカルケア看護学会	日本クリティカルケア看護学会の運営	副理事長
	日本看護協会 専門看護師制度委員会	専門看護師制度に関する協議	委員
	日本看護協会 専門看護師認定実行委員会(急性・重症患者看護)	重症患者看護専門看護師の認定について審議	委員
	大阪府看護協会 (教育・学会担当)	認定看護師教育、研修、学会に関する協議	理事
	大阪府看護協会 認定看護師教育課程教員会	認定看護師教育課程の教育運営に関する審議	委員
	大阪府看護協会 事業運営委員会	事業運営に関する協議	委員
	日本看護系大学協議会	日本看護系大学協議会の運営に関する審議	理事
	日本看護系大学協議会 専門看護師教育課程認定委員会	専門看護師教育課程認定委員会の運営と専門看護師教育課程の認定	委員長
	大阪府医療審議会	大阪府の医療行政についての審議	委員
	大阪府立呼吸器・アレルギー医療センター研究倫理委員会	研究倫理審査	委員
堺市立病院機構評価委員会	堺市立病院機構の評価	委員	
田中 京子	日本看護系大学協議会 専門看護師教育課程認定委員会 がん看護専門分科会	がん看護における専門看護師教育課程の認定を行う	副委員長
	日本がん看護学会	学会誌に投稿された論文の査読	専任査読委員
	日本がん看護学会	評議員会への出席	評議員
	日本看護学教育学会	学会誌に投稿された論文の査読	専任査読委員
	第33回日本看護科学学会 企画委員会	学術集会の企画・運営	委員
	日本看護科学学会	社員総会への出席	代議員
	日本看護協会 専門看護師認定実行委員会	がん看護専門看護師の認定に関わる業務	委員
旗持 知恵子	第7回日本慢性看護学会 企画委員会	学術集会のプログラム担当	委員
	日本看護研究学会	学会誌に投稿された論文の査読	専任査読委員
	日本糖尿病教育・看護学会	学会誌に投稿された論文の査読および学会に登録された一般演題の査読	査読委員
	日本循環器看護学会	学会誌に投稿された論文の査読	専任査読委員
	日本循環器看護学会 学術活動推進委員会	学術活動推進委員会の運営	委員
	日本慢性看護学会	学会誌に登録された一般演題の査読	査読委員
	日本慢性看護学会	評議員会への出席	評議員
	日本看護系大学協議会 専門看護師教育課程認定委員会 慢性看護専門分科会	慢性看護における専門看護師教育課程の認定を行う	委員
	兵庫県看護協会 認定看護師教育課程 入試委員会	慢性心不全認定看護師教育課程に関わる業務	委員

堀井 理司	日本看護系大学協議会 専門看護師教育課程認定委員会 感染看護専門分科会	感染看護における専門看護師教育課程の認定を行う	委員長
階堂 武郎	日本学術振興会 科学研究費委員会	科学研究費審査第三部会(医歯薬学3小委員会)における審査	専門委員
志田 京子	大阪府立急性期総合医療センター 医療安全対策委員会	外部委員	委員
杉本 吉恵	厚生労働省医政局 保健師助産師看護師国家試験委員会	看護師国家試験問題の見直し等、問題の精選化を図る	委員
細田 泰子	日本看護学教育学会	入会申込者の推薦	評議員
	日本看護研究学会	学会誌に投稿された論文の査読	査読委員
	大阪府専任教員養成講習会 運営委員会	大阪府専任教員養成講習会の運営	委員
	日本看護学教育学会 第23回学術集会	抄録査読、口演座長	委員
	第39回日本看護研究学会学術集会	抄録査読	査読委員
岡本 双美子	羽曳野市介護認定審査会	介護保険の要介護認定の二次判定	委員
佐保 美奈子	大阪府教育委員会 大阪府立成美高等学校学校協議会	司会、運営	会長
中嶋 有加里	日本母性看護学会	学会誌に投稿された論文の査読	専任査読委員
	第1回大阪府看護学会	学術集会に発表登録された抄録の査読	査読委員
和泉 京子	羽曳野市介護認定審査会	介護保険の要介護認定の二次判定	委員
	藤井寺市健康づくり推進協議会	藤井寺市の健康づくり事業について検討	委員
	堺市地域密着型サービス等事業者審査会	地域密着型サービス指定候補事業者の選定	委員
	堺市健康福祉局保健福祉施設等施設整備審査会	保健福祉施設等施設整備の審査	委員
	高石市地域包括支援センター運営協議会	地域包括支援センターの運営に関する協議	委員
	高石市地域密着型サービス運営委員会	地域密着型サービス指定候補事業者の選定	委員
	大阪府介護予防事業実施検討会	介護予防事業に関する協議	委員
	摂津市介護認定審査会	介護保険の要介護認定の二次判定	委員
	茨木市介護認定審査会	介護保険の要介護認定の二次判定	委員
	日本地域看護学会	学会誌に投稿された論文の査読	査読委員
北川 末幾子	医療的ケアネット	研修会の企画・運営など	理事
	養護教諭キャリアアップ研修会	研修企画運営、ネット上での会議開催	会長
松田 千登勢	羽曳野市介護認定審査会	介護保険の要介護認定の二次判定	委員
	日本認知症ケア学会	学会誌に投稿された論文の査読	査読委員
	立命館人間科学研究	論文の査読	査読委員
石田 宜子	日本看護系大学協議会 専門看護師教育課程認定委員会	専門看護師教育課程認定委員会事務局の運営	委員
佐藤 淑子	日本看護系大学協議会 専門看護師教育課程認定委員会	専門看護師教育課程認定委員会事務局の運営	委員
林田 裕美	大阪府看護協会 認定看護師教育課程教員会	認定看護師教育に関する協議	委員
	日本がん看護学会	学会誌に投稿された論文の査読	査読委員
藪下 八重	日本慢性看護学会 特別委員会	CNS教育に関する調査	委員
	第7回日本慢性看護学会 企画委員会	学術集会のプログラム担当	委員
	日本慢性看護学会	会員総会、評議員会への出席	評議員
	日本慢性看護学会	学会誌に登録された一般演題の査読	査読委員
	第33回日本看護科学学会 実行委員会	学術集会運営に関する諸事	委員
	慢性疾患看護専門看護師研究会 選挙管理委員会	幹事選挙に関わる執行	委員長
中岡 亜希子	日本看護科学学会 学術集会	査読委員、実行委員	委員
古山 美穂	大阪府看護協会 助産師職能委員会	助産師職能委員会活動(意見の集約、研修会の企画・運営等)	委員
	第23回大阪府看護研究学会	学会に登録された演題の査読	査読委員
大川 聡子	環境省「花粉症環境保健マニュアル」改訂検討委員	「花粉症環境保健マニュアル」の改訂にかかる検討	委員
	羽曳野市介護保険審査会	介護保険の要介護認定の二次判定	委員
	大阪府看護協会府南支部	保健師職能委員会活動	委員

	日本公衆衛生看護学会	投稿論文の査読	査読委員
山内 加絵	藤井寺市介護認定審査会	介護保険の要介護認定の二次判定	委員
	第23回 大阪府看護研究学会	学会に発表登録された演題の査読	査読委員
撫養 真紀子	大阪府看護協会 認定看護管理者教育課程運営委員会	大阪府看護協会認定看護管理者制度の検討、看護管理者教育課程の教育内容の見直し、受講生の決定	委員
	日本看護学会 看護管理	抄録選考委員、口演発表座長	委員
	日本看護科学学会 学術集会	査読委員、実行委員	委員
岡崎 裕子	日本小児看護学会	総務委員会 会計	委員
根来 佐由美	大阪府看護協会 保健師職能委員会	保健師職能委員会活動(意見の集約、研修会の企画・運営等)	委員
	大阪府看護協会 府南支部	保健師職能委員会の報告、支部保健師職能委員の意見の集約、研修会の企画運営等	支部役員
角野 雅春	日本慢性看護学会	企画委員	委員
徳岡 良恵	日本がん看護学会	学術集会に発表登録された抄録の査読	査読委員
南村 二美代	第7回日本慢性看護学会 実行委員会	学術集会実行に関わる諸事	委員
池内 香織	日本看護科学学会 学術集会	実行委員	委員
伊藤 良子	日本看護科学学会 学術集会	実行委員	委員
岩崎 幸恵	日本看護科学学会 学術集会	実行委員	委員

## 8) 国際交流活動

氏名	関係機関名	活動の概要	相手国
中村 裕美子	マヒドン大学	教員e-learning 視察研修	タイ王国
田中 京子	オレゴンヘルスサイエンス大学	外国人教員招へい 研修引率	アメリカ合衆国
志田 京子	南方医科大学	大学情報交換	中華人民共和国
	オレゴンヘルスサイエンス大学	外国人教員招へい 研修引率	アメリカ合衆国
細田 泰子	オレゴンヘルスサイエンス大学	外国人教員招へい	アメリカ合衆国
	オレゴンヘルスサイエンス大学	学術交流協定の締結	アメリカ合衆国
	南方医科大学	大学情報交換	中華人民共和国
林田 裕美	マヒドン大学	教員e-learning 視察研修	タイ王国

## 9) その他の社会貢献

氏名	社会活動先	職務内容
旗持 知恵子	NPO法人「ジャパンハートクラブ」	評議員会への出席
杉本 吉恵	読売新聞社	読売新聞掲載記事「吊り上げリフト活用を」記事についての専門知識の提供
江口 恭子	公益社団法人認知症の人と家族の会	アンケート調査・分析作業部会委員、調査分析および報告書の作成
徳岡 良恵	日総研グループ	日総研グループ情報誌 執筆
伊藤 良子	NPO法人「しあわせなみだ」	性暴力被害にあわれた女性やセクシャルマイノリティのピアサポートグループ開催

## 編集後記

大阪府立大学看護学部の年報第9巻を、看護学部（看護学類）各委員会、羽曳野キャンパス事務所の皆様のご協力により、作成することができましたことを厚く御礼申し上げます。

本報の掲載内容は、平成25年4月から平成26年3月までの1年間の教育・研究等の内容に関するものです。

編集作業を通して、より一層、本大学看護学部（看護学類）・看護学研究科の充実のために教職員、学生らとともに改善に向け一歩ずつ積み上げる努力が必要であることを痛感いたしました。さらに大阪の社会風土に根ざす開かれた公立大学としての役割を担う、社会に貢献する意義ある教育・学術研究の府としての実績を評価される様今後も益々活動していきたいと考えております。

### 平成25年度 評価・企画実施委員会

委員長	細田 泰子	学部長（学類長）	高見沢 恵美子
委員	中山 美由紀	委員	籀持 知恵子
委員	石田 宜子	委員	日下部 祥子
委員	隅田 千絵	委員	深山 華織
委員	南村 二美代		

### 平成26年度 部局計画・評価委員会

委員長	細田 泰子	副委員長	中村 裕美子
学部長	上野 昌江	学類長	高見沢 恵美子
委員	石田 宜子	委員	岡本 双美子
委員	紙野 雪香	委員	佐保 美奈子
委員	中岡 亜希子	委員	撫養 真紀子
委員	山内 加絵	委員	角野 雅春
委員	南村 二美代		